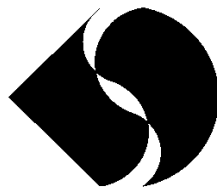


令和2年度

授 業 概 要



四国医療専門学校
看護学科

目 次

I. まえがき	1	(15) 英語Ⅳ(留学英語)	48
II. 教育理念、教育方針、教育目標	2	(16)* 中国語	49
III. 教育方針3つのポリシー	3	(17)* 教育原理	50
IV. カリキュラムマップ	5	(18)* 教育評価	51
V. カリキュラム	7	(19)* 教育方法論Ⅰ(理論)	52
VI. 履修規程	10	(20)* 教育方法論Ⅱ(演習)	53
VII. 大学併修制度	21	(21)* 教育心理学	54
VIII. 学事暦	25	2. 専門基礎分野	
IX. 看護学科自治会会則	26	1) 人体の構造と機能	
X. シラバス		(1) 解剖生理学	55
1. 基礎分野		(2) 解剖生理学	56
1) 科学的思考の基盤		(3) 病理学	57
(1) 物理学	28	(4) 生化学	58
(2) 生物学	29	2) 疾病の成り立ちと回復の促進	
(3) 化学	30	(1) 微生物学	59
(4) 情報科学	31	(2) 疾病と治療Ⅰ	60
(5) 情報科学演習	32	(3) 疾病と治療Ⅱ	61
(6) 生涯スポーツ論(体育実技)	33	(4) 疾病と治療	62
2) 人間と生活、社会の理解		(5) 疾病と治療Ⅳ	63
(1) 哲学	34	(6) 疾病と治療Ⅴ	64
(2) 人間関係論	35	(7) 疾病と治療Ⅵ	65
(3) 死生論	36	(8) 疾病と治療Ⅶ	66
(4) 家族社会学	37	(9) 疾病と治療Ⅷ	67
(5) 発達心理学	38	(10) 疾病と治療Ⅸ	68
(6) 日本語表現法	39	(11) リハビリテーション医学	69
(7) 文化人類学	40	(12) 薬理学・薬物療法	70
(8) 臨床心理学	41	(13) 栄養学・食事療法	71
(9) 笑いと言療	42	(14) 臨床検査学	72
(10) 音楽療法	43	3) 健康支援と社会保障制度	
(11) 健康科学論	44	(1) 医療経済論	73
(12) 英語Ⅰ(基礎英語)	45	(2) 医療行政論(関係法規)	74
(13) 英語Ⅱ(英会話)	46	(3) 公衆衛生学	75
(14) 英語Ⅲ(看護英語・原著論文)	47	(4) 社会福祉概論	76

(5) 地域福祉論	77	(3) 小児看護方法論	106
(6) 東洋医学	78	(4) 小児看護方法論	107
(7) リラクゼーション方法論	79	4) 母性看護学	
3. 専門分野 I		(1) 母性看護学概論	108
1) 基礎看護学		(2) 母性看護方法論	109
(1) 看護学概論	80	(3) 母性看護方法論	110
(2) 看護理論	81	(4) 母性看護方法論	111
(3) 医療と看護倫理	82	5) 精神看護学	
(4) 基礎看護方法論	83	(1) 精神看護学概論	112
(5) 基礎看護方法論	84	(2) 精神看護方法論	113
(6) 基礎看護方法論	85	(3) 精神看護方法論	114
(7) 基礎看護方法論	86	(4) 精神看護方法論	115
(8) 基礎看護援助論	87	6) 臨地実習	
(9) 基礎看護援助論	88	(1) 成人看護学実習	116
(10) 基礎看護援助論	89	(2) 成人看護学実習	117
(11) 看護研究	90	(3) 成人看護学実習	118
(12) 看護研究	91	(4) 成人看護学実習	119
2) 臨地実習		(5) 老年看護学実習	120
(1) 基礎看護学実習 I	92	(6) 老年看護学実習	121
(2) 基礎看護学実習 II	93	(7) 小児看護学実習	122
4. 専門分野 II		(8) 小児看護学実習	123
1) 成人看護学		(9) 母性看護学実習	124
(1) 成人看護学概論	94	(10) 精神看護学実習	125
(2) 成人看護方法論	95	5. 統合分野	
(3) 成人看護方法論	96	1) 在宅看護論	
(4) 成人看護方法論	97	(1) 在宅看護概論	126
(5) 成人看護方法論	98	(2) 在宅看護方法論	127
(6) 成人看護方法論	99	(3) 在宅看護方法論	128
2) 老年看護学		(4) 在宅看護方法論	129
(1) 老年看護学概論	100	2) 看護の統合と実践	
(2) 老年看護方法論	101	(1) 高度先駆的看護	130
(3) 老年看護方法論	102	(2) 医療安全管理	131
(4) 老年看護方法論	103	(3) 国際看護学	132
3) 小児看護学		(4) 看護管理	133
(1) 小児看護学概論	104	(5) 災害看護学	134
(2) 小児看護方法論	105	(6) 救急看護	135

(7) 看護情報システム論	136
(8) 看護ゼミナール	137
(9) 看護政策論	138
(10) クリティカルシンキング	139
(11) クリティカルシンキング	140
(12) 総合演習	141
3) 臨地実習	
(1) 在宅看護論実習	142
(2) 統合実習	143

ま え が き

本看護学科は四国医療専門学校の中に、平成19年に設置され、「高度専門士」の称号が得られる4年制修学制度をとっています。皆さんがこれから学んでいくカリキュラムは深い人間理解のための「基礎分野」をベースに、人体の構造・機能、疾病などの「専門基礎分野」、さらに「専門分野」である看護の専門知識・技術の習得を積み上げていくこととなります。すべてのカリキュラムが医療の高度化・専門化を反映したものであり、またそこに保健・医療・福祉の知識はもちろんのこと、医療従事者が備えていなければならない豊かな人間性の習得も含まれます。

四国医療専門学校には、皆さんが入学した看護学科の他に6つの医療系学科が含まれています。ですから、皆さんの学習には東洋医学の理論、リハビリテーションの実技も導入されています。また、卒業されてからの看護の現場ではチーム医療が求められますので、その基礎を形成するために他学科の学生との交流も球技大会、体育祭、学園祭などの学生行事でもつことができます。

この冊子は皆さんが看護学科に入学した学生として有意義な学生生活を送るための手引きとなるよう作成されたものです。一通り目をとおり、また必要に応じて参照することによってより充実した学生生活を送られることを願っています。

なお、この冊子には必ずしも全てにわたって説明が網羅されているわけではないので、疑問や不明な点については遠慮なく教員に相談してください。

教育理念、教育方針、教育目標

教育理念

四国医療専門学校看護学科の教育課程では、看護学を構成する主要概念を「人間」、「健康」、「環境」、「看護」、「教育」の5つとしています。「看護」は「人間」の「健康」に係るものですが、「健康」は「環境」に影響されます。また、看護は人間とその環境に関して、自らも環境の1つとして関係します。

「教育」は、人間形成の上で欠かせないものであり、看護師の育成においては、「人」としての教育が最も重要です。看護の対象者に対する教育はもちろん、日々の看護業務の中で、人間としての自分を磨き、人に接するための原点を学ぶことが大切だと考えています。

四国医療専門学校看護学科は、医療の原点である「手当て」でもって、思いやりの心と正確な技術を用いて、人々に身体的・精神的・社会的側面から「癒し（ヒーリング）」を提供できる看護師の育成をめざします。また、人間らしさと生命を尊重し、福祉に精通した地域社会に貢献できる看護師を育成します。

また、本学科は大学併修制度を導入し、4年間の学生生活で福祉分野と心理分野の学習も深めていきます。そして卒業後には、学士と高度専門士の称号を授与された看護師として、福祉と心理に強い、社会に役立つ看護師として活躍すると共に、将来は、認定看護師や専門看護師をめざせるような人材を育成します。

教育方針

四国医療専門学校看護学科は、看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を教授し、保健・医療・福祉の向上と地域社会に貢献できる有能な看護師を育成します。

教育目標

1. 生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断・行動できる、心豊かな人間性を養います。
2. 看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を身につけます。
3. 東洋医学の理論・心・技を理解し、看護の対象を広く深く癒せる実践能力を養います。
4. 保健・医療・福祉に関する理論及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を身につけます。
5. 看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として、行動できる能力を養います。
6. 専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を養います。
7. 国際社会の中で活躍する専門職業人である自覚をもち、広い視野で21世紀の看護を創造する能力を養います。

看護学科の3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー(高度専門士授与方針)

看護学科では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に対して、高度専門士の称号を付与する。

- 1) 生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断・行動できる心豊かな人間性を身につけている。
- 2) 看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を修得している。
- 3) 東洋医学の理論・心・技を理解し、看護の対象を深く癒せる実践能力を修得している。
- 4) 保健・医療・福祉に関する理論及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を修得している。
- 5) 看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として行動できる能力を身につけている。
- 6) 専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を身につけている。
- 7) 国際社会の中で活躍する専門職業人である自覚をもち、広い視野で21世紀の看護を創造する能力を身につけている。

2. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

看護学科では、高度専門士授与方針を実現するため、看護教育内容を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の5つの分野に分け、段階的、系統的に教育できるように各分野に必要な科目を配置している。

1) 基礎分野

看護に必要な科学的思考及びコミュニケーション等について学び、感受性豊かで、主体的に判断し行動できる能力を養う。国際化及び情報化へ対応しうる能力、さらに看護の特性から、人権意識の普及・高揚が図れるよう、専門基礎分野及び専門分野の基礎となる科目を設定する。

2) 専門基礎分野

看護学を学ぶ上での基礎的知識や、密接に関連する領域を学ぶ分野として位置づけた。人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を強化するため、人間の身体づくりや働きを、看護の視点である生活と結びつけるよう設定した。さらに、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるための科目を設定した。

3) 専門分野Ⅰ

看護学の土台として、専門分野Ⅱ・統合分野に共通する概念・理論・技術を学ぶよう位置づけた。各看護学及び在宅看護論の基盤となる基礎的な理論や方法を学ぶために演習を含み、コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とし、看護師として倫理

的な判断をするための基礎的能力を養う科目を設定した。

4) 専門分野Ⅱ

臨床実践能力の向上を図るため、演習を強化した内容とし、各看護学においては、看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ内容とした。老年看護学・小児看護学・精神看護学については各4単位、成人看護学は6単位で設定した。各看護学は概論・方法論として授業展開する。方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、原則として援助論・病態・演習のまとまりで教授するが、成人看護学・母性看護学については、看護対象の特徴を踏まえた内容で教授する。

5) 統合分野

在宅看護論・看護の統合と実践の2つで構成した。基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱまでに学習した内容の知識や技術を全て統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるようにとの意図をもって、一般病床あるいは在宅現場で、実務に近い看護の内容や方法を学ぶ分野として位置づけた。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

看護学科では、高度専門士授与方針を実現するため、以下の素養を有する人材を求める。

人が好きで細やかな心づかいと集中力が発揮でき、自ら積極的に学ぶ意欲のある人を歓迎します。また、学士の称号を持つ看護師として将来専門領域でのキャリアアップを目指す人を応援します。

カリキュラムマップ（学びの歩み）



カリキュラム

基礎分野

「人間とは」を深く理解し、広い知識と豊かな感性、創造力を培います。
科学的、論理的な考え方を体得し、国際化及び情報化へ対応できる能力を養っていきます。

専門基礎分野

看護学を学ぶ上での基礎的知識や、密接に関連する領域を学びます。
健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を強化するため人体を系統だてて理解し、看護の視点である生活と結びつけて学習します。

専門分野Ⅰ

各看護学及び在宅看護論の基盤となる基礎的な理論や技術を学びます。

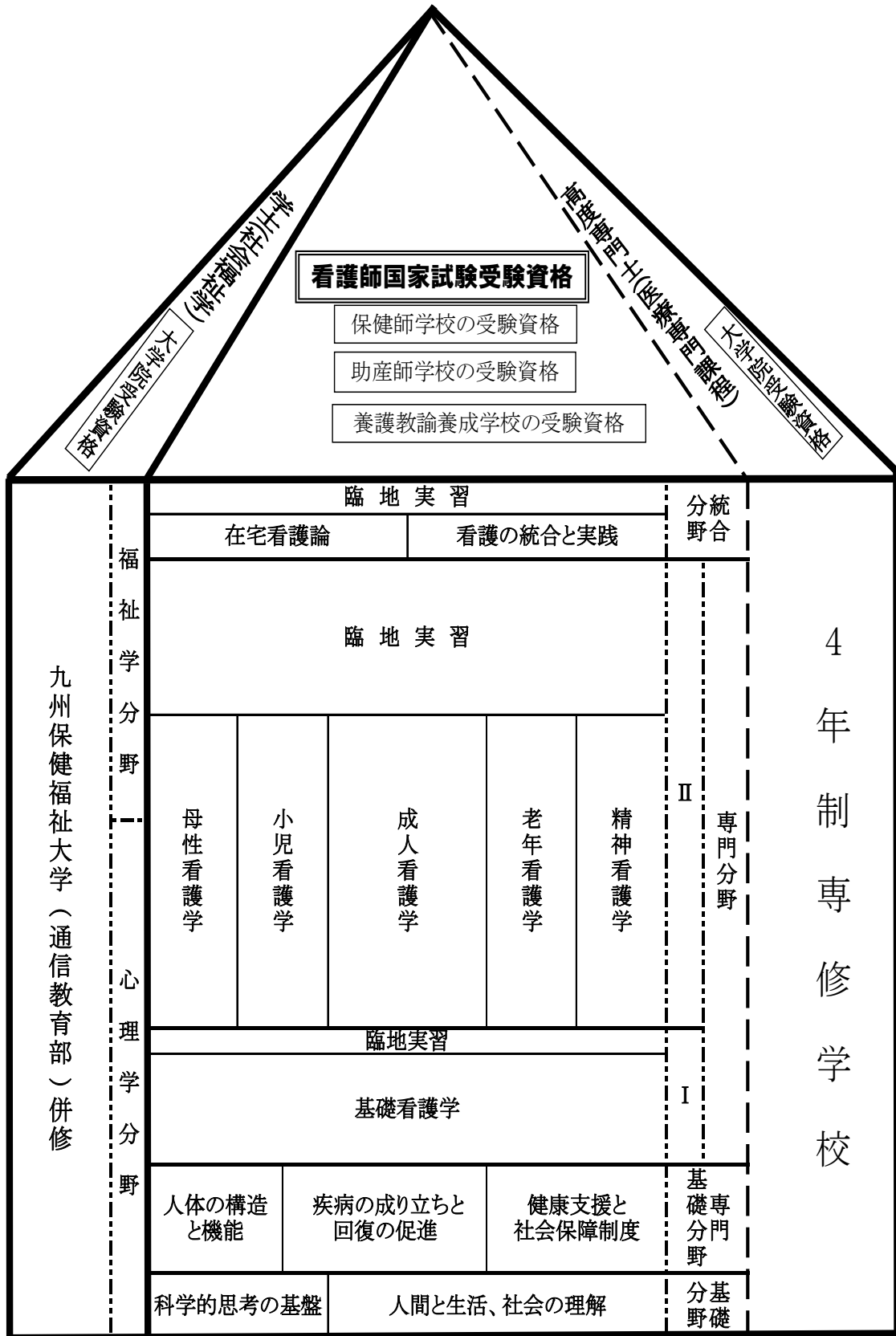
専門分野Ⅱ

各看護学の対象や目的を理解します。
疾病や障害を持つ人に対する看護の方法を学習します。
臨床実践能力の向上を図るため、演習を強化します。

統合分野

「在宅看護論」と「看護の統合と実践」から構成しています。
これまで学習した内容の知識や技術を全て統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるように実務に近い環境で実践能力を養っていきます。

教育概念図



カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間	履修年次																
				第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間					
基礎分野	科学的思考の基礎 自然科学系	物理学	1	15	1	15														
		生物学	1	15	1	15														
		化学	1	15	1	15														
		情報科学	1	15	1	15														
		情報科学演習	1	30			1	30												
		生涯スポーツ論	1	30	1	30														
	人文・社会科学	哲学	1	15	1	15														
		人間関係論	1	15	1	15														
		死生論	1	15					1	15										
		家族社会学	1	30			1	30												
		発達心理学	1	15			1	15												
		セラピスト	1	30			1	30												
	人間と生活、社会の理解 外国語	日本語表現法	1	30			1	30												
		文化人類学	1	30			1	30												
		臨床心理学	1	30					1	30										
		笑いと医療	1	15							1	15								
		音楽療法	1	15					1	15										
		健康科学論	1	15	1	15														
	*教育	英語Ⅰ	1	30	1	15	15													
		英語Ⅱ	1	30			1	15	15											
		英語Ⅲ	1	30					1	15	15									
		英語Ⅳ	1	30							1	30								
		*中国語	*1	*15													*1	*15		
		*教育心理学	*1	*15			*1	*15												
	*教育原理	*1	*15			*1	*15													
	*教育評価	*1	*15			*1	*15													
	*教育方法論Ⅰ	*1	*15					*1	*15											
*教育方法論Ⅱ	*1	*30													*1	*30				
基礎分野 合計			21	465	9	150	3	105	3	60	2	45	2	45	1	30	0	0	1	30
基礎分野 (*選択含め) 合計			*27	570	9	150	3	105	*6	*105	*3	*60	2	45	1	30	0	0	*3	*75
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30														
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30														
		病理学	1	30			1	30												
		生化学	1	30			1	30												
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30			1	30												
		疾病と治療Ⅰ	1	15			1	15												
		疾病と治療Ⅱ	1	15			1	15												
		疾病と治療Ⅲ	1	15					1	15										
		疾病と治療Ⅳ	1	15							1	15								
		疾病と治療Ⅴ	1	15							1	15								
		疾病と治療Ⅵ	1	15			1	15												
		疾病と治療Ⅶ	1	15			1	15												
		疾病と治療Ⅷ	1	15			1	15												
		疾病と治療Ⅸ	1	15			1	15												
		リハビリテーション医学	1	15							1	15								
		薬理学・薬物療法	1	30	1	30														
		栄養学・食事療法	1	30			1	30												
		臨床検査学	1	15			1	15												
	健康支援と社会保障制度	医療経済論	1	15														1	15	
		医療行政論(関係法規)	1	15							1	15								
公衆衛生学		1	30					1	30											
社会福祉概論		1	15	1	15															
地域福祉論		1	15									1	15							
東洋医学		1	30							1	30									
リラクゼーション方法論			1	30						1	30									
専門基礎分野 合計			25	525	4	105	11	225	2	45	3	45	3	75	1	15	0	0	1	15

分野	科目名	単位数	時間	履修年次																
				第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間					
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30																
		看護理論	1	30																
		医療と看護倫理	1	30																
		基礎看護方法論Ⅰ	2	60																
		基礎看護方法論Ⅱ	2	60																
		基礎看護方法論Ⅲ	2	60																
		基礎看護方法論Ⅳ	1	30																
		基礎看護援助論Ⅰ	2	60																
		基礎看護援助論Ⅱ	2	60																
		基礎看護援助論Ⅲ	1	30																
		看護研究Ⅰ	1	30																
看護研究Ⅱ	1	30																		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45																	
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90																	
専門分野Ⅰ合計		20	645	6	180	4	135	3	90	6	210			0		0	0	1	30	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30																
		成人看護方法論Ⅰ	1	30																
		成人看護方法論Ⅱ	1	30																
		成人看護方法論Ⅲ	1	15																
		成人看護方法論Ⅳ	1	30																
		成人看護方法論Ⅴ	1	30																
	老年看護学	老年看護学概論	1	15																
		老年看護方法論Ⅰ	1	30																
		老年看護方法論Ⅱ	1	30																
		老年看護方法論Ⅲ	1	30																
	小児看護学	小児看護学概論	1	15																
		小児看護方法論Ⅰ	1	15																
		小児看護方法論Ⅱ	1	30																
		小児看護方法論Ⅲ	1	30																
	母性看護学	母性看護学概論	1	15																
		母性看護方法論Ⅰ	1	15																
		母性看護方法論Ⅱ	1	30																
		母性看護方法論Ⅲ	1	30																
	精神看護学	精神看護学概論	1	15																
		精神看護方法論Ⅰ	1	30																
		精神看護方法論Ⅱ	1	30																
		精神看護方法論Ⅲ	1	30																
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90																
		成人看護学実習Ⅱ	2	90																
		成人看護学実習Ⅲ	2	90																
		成人看護学実習Ⅳ	2	90																
		老年看護学実習Ⅰ	2	90																
		老年看護学実習Ⅱ	2	90																
		小児看護学実習Ⅰ	1	45																
		小児看護学実習Ⅱ	2	90																
母性看護学実習		2	90																	
精神看護学実習		2	90																	
専門分野Ⅱ合計		41	1410					9	195	5	150	9	255	10	450	8	360			
統合分野	在宅看護論	在宅看護学概論	1	30																
		在宅看護方法論Ⅰ	1	15																
		在宅看護方法論Ⅱ	1	30																
		在宅看護方法論Ⅲ	1	30																
	看護の統合と実践	高度先駆的看護	1	15																
		医療安全管理	1	15																
		国際看護学	1	15																
		看護管理	1	15																
		災害看護学	1	15																
		救急看護	1	15																
		看護情報システム論	1	15																
		看護ゼミナール	1	15																
		看護政策論	1	15																
		クリティカルシンキングⅠ	1	15																
		クリティカルシンキングⅡ	1	15																
		総合演習	2	60																
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90																
		統合実習	2	90																
	統合分野合計		21	510					1	30	1	15	2	60			3	105	13	285
	総合計		128	3555	19	435	18	465	18	420	17	465	16	435	13	510	11	465	16	360
総合計(選択を含む)		134	3660	37	900	21	465	18	480	16	435	13	510	11	465	18	465	18	405	
* 印は 選択科目				37	900	39	945	29	945	29	945	29	945	29	945	29	945	29	870	
* 印 選択科目を含め 134単位 3660時間				行事時間182時間を入れて 3842時間																

臨地実習については下記のように計画しています。

臨地実習計画表

学年	領域	単位・時間	実習施設
1年次	基礎看護学実習Ⅰ	1単位 45時間	KKR 高松病院 坂出市立病院
2年次	基礎看護学実習Ⅱ	2単位 90時間	屋島総合病院 香川労災病院
	小児看護学実習Ⅰ	1単位 45時間	わかくさ保育園・わかくさ北保育園 育愛館
3年次	成人看護学実習	8単位 360時間	KKR 高松病院 坂出市立病院 屋島総合病院 香川労災病院
	老年看護学実習	4単位 180時間	西香川病院・KKR 高松病院 坂出市立病院・屋島総合病院 香川労災病院・いきいき荘 坂出聖マルチン病院・聖マルチンの園
	小児看護学実習Ⅱ	2単位 90時間	坂出市立病院
4年次	母性看護学実習	2単位 90時間	四国こどもとおとなの医療センター 屋島総合病院・香川労災病院
	精神看護学実習	2単位 90時間	県立丸亀病院・三船病院
	在宅看護論実習	2単位 90時間	坂出市立病院 宇多津町保健センター 訪問看護ステーションひかり 中讃保健福祉事務所・いきいき荘
	統合実習	2単位 90時間	KKR 高松病院・坂出市立病院 屋島総合病院・香川労災病院
計		26単位 1170時間	

履修規程

この規程は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の細則を補足しながら特に注意しなければならない事項を規定する。

I. 学事について

1. 学年

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、4月1日から翌年3月31日までで、これを前期と後期の2期に分ける。

2. 学期

学年の学期は、次のとおりであるが、学校長は、必要によりこれを変更することができる。

前期・・・ 4月1日から 9月30日まで。

後期・・・ 10月1日から 翌年 3月31日まで。

3. 休業日

本学科の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定されている日
- (3) 創立記念日（10月25日）
- (4) 夏・冬・春季休業日

① ただし、学校長が必要と認めるときは休業日であっても授業または試験を行なうことができる。

② 荒天時の対応

鍼灸マ学科、鍼灸学科1部、柔道 整復学科1部、理学療法学科、作 業療法学科、看護学科	荒天のため、宇多津町または丸亀市に「特別警報」「暴風警報」が午前7時00分に発令されている場合は通学待機とし、午前10時00分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。午前10時00分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。
鍼灸学科2部、柔道整復学科2部、 スポーツ医療学科	午後3時30分に発令されている場合は通学待機とし、午後4時30分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。

③ 授業中に「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関（JR等）に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。

④ 上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、その状況により学校長が別途判断することがある。

4. 授業及び時限

(1) 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、臨床実習及び臨地実習があり、他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。

(2) 授業は、1時限90分を原則とし、講義は、1時間を45分、臨床実習及び臨地実習は、同60分とする。

授業時間の区分は、以下のとおりである。

区分	1 部				2 部		
	I	II	III	IV	I	II	III
時 限							
時 間	9:00 ↓ 10:30	10:40 ↓ 12:10	13:00 ↓ 14:30	14:40 ↓ 16:10	17:55 ↓ 18:40	18:50 ↓ 20:20	20:30 ↓ 22:00

①鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、修業時間（1部10:40～16:10 2部17:55～22:00）以外及び休業日に行う。

(3) 休講・補習・特別講義・学校行事

① 休講及び時間割の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。

これについては、掲示板により通知する。

② 補習及び特別講義

授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要と認めた場合には特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。

③ 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のために出席が求められる。

II. 出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

1. 出席すべき日数

学年の学期期間で上記休業日以外は、出席しなければならない。

2. 授業の出席

(1) 講義、演習は、授業時間数の3分の2以上の出席が必要である。

(2) 実技、実習、臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。

① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科の実技、実習、臨床実習、補習授業及び特別授業には、原則として必ず出席しなければならない。止むを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

② 柔道整復学科の実技、実習及び臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分

の1の範囲で認めることがある。

- ③ 理学療法学科、作業療法学科の臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。
- ④ 看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。

＜看護学科の臨地実習の履修について＞

基礎看護学実習Ⅰの単位取得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。

基礎看護学実習Ⅱの単位取得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。

ただし、小児看護学実習Ⅰについては、この限りでない。

また、専門分野別実習の単位取得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。

- ⑤ スポーツ医療学科の実技、学内実習及び学外現場実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

3. 授業中の心得

(1) 講義・演習・実技・実習について

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

- ① 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- ② 授業中、体調の急変等やむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。
- ③ 授業中の携帯電話・スマートフォン等は、必ず電源を切って鞆等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。
- ④ 授業中に飲食をしないこと（ガムを噛むことを含む）。また、授業中飲食物を机の上や床に置かないこと。
- ⑤ 私語や居眠りをしないこと。
- ⑥ 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装（白衣・ジャージ、学校指定の靴）とし、化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめること。
- ⑦ 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科は、所定の道具も準備すること
- ⑧ スポーツ医療学科は、学内実習の受講の際は、トレーニングウェア、運動シューズを着用し、学外現場実習時には、学校指定のウェア、ポロシャツ、運動シューズを着用すること。

(2) 臨床実習及び臨地実習について

病院などでの臨床実習及び臨地実習では、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねば

ならない。

- ① 病院と取り交わした提携書に従って行動する。
- ② 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- ③ 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみやかに報告をする。
- ④ 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。
- ⑤ 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。
- ⑥ 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を病院のマニュアルにそって励行する。
- ⑦ 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。
- ⑧ 臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

4. 欠席、遅刻、早退及び欠課について

- (1) 欠席は、1日の授業を全て休んだ場合をいう。
- (2) 遅刻は、授業開始より30分（2部の45分授業については15分）以内に入室した場合をいう。
- (3) 早退とは、授業時間の60分（2部の45分授業については30分）以上出席し退出した場合をいう。
- (4) 欠課とは、出席時間が60分（2部の45分授業については30分）に満たない場合をいう。
- (5) 遅刻、早退の欠課への換算については、遅刻、早退は欠課0.5回（2部の45分授業における欠課は、欠課0.5回）と換算する。
- (6) 欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

5. 補講について

- (1) 出席時間数がやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、補講を受けなければならない。
- ① 鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
- ② 鍼灸学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
- ③ 柔道整復学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
- ④ 理学療法学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の4
- ⑤ 作業療法学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の4
- ⑥ 看護学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨地実習は5分の5

- ⑦ スポーツ医療学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
- (2) 補講の受講は、不可抗力によるやむを得ない理由（気象状況等による公共交通機関のダイヤの乱れ、急病、交通事故等）のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を提出し、学校長が認めた場合に限る。
- (3) 補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる（本試験は受験不可）。
- (4) 補講料は、10,000円 / 1時限（90分）とする。ただし、感染症による出席停止や入院など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。

※看護学科の臨地実習の場合

① 再実習

各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受けることができる。

ただし、再実習料を添えて「再実習願」を提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。

再実習料は、5,000円/日とする。

② 補習実習

実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。

6. 忌引期間

- (1) 忌引・出席停止は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの（医師の診断書等）を必ず提出のこと。

提出がなされない場合は欠課とする。

- (2) 学生の親族の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。

区分	続柄	期間	区分	続柄	期間
血族	配偶者	10日	血族	おじ・おば	1日
	父母	7日		孫・曾祖父母	1日
	子供	7日	姻族	配偶者父母	3日
	祖父母	3日		配偶者祖父母	1日
	兄弟姉妹	3日		配偶者兄弟姉妹	1日

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により2日以内の日数を認める場合がある。

7. 感染症による出席停止

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間、医師の診断書にある期間、若しくは学校医の判断に従うものとする。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1であるものに限る）
第二種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱及び結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

<出席停止期間の基準>

- (1) 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。
- (2) 第二種の感染症（結核を除く）にかかった者については、次の期間とする。ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めるときは、この限りでない。
- ① インフルエンザ及び新型インフルエンザ等： 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
 - ② 百日咳： 特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
 - ③ 麻しん： 解熱した後3日を経過するまで。
 - ④ 流行性耳下腺炎： 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。
 - ⑤ 風しん： 発しんが消失するまで。
 - ⑥ 水痘： すべての発しんが痂皮化するまで。
 - ⑦ 咽頭結膜熱： 主要症状が消退した後2日を経過するまで。
 - ⑧ 髄膜炎菌性髄膜炎： 症状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで。
- (3) 結核及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※出席停止期間の算定の考え方

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という現象が見られた日の翌日を第1日として算定する。

例えば、「解熱した後2日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱—火曜日（解熱後1日目）—水曜日（解熱後2日目）—この間発熱がない場合—木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

8. 休学

学生の休学については、学則第22条に規定している。

9. 復学

学生の復学については、学則第24条に規定している。

原則、復学の時期は、年度の始めとする。

10. 退学

学生の退学については、学則第25条に規定している。

11. 転部

学生の転部については学則第29条に規定している。

※鍼灸学科と柔道整復学科のみが対象となる。

12. 在籍期間

学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学 科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科1部、鍼灸学科2部 柔道整復学科1部、柔道整復学科2部	6年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	8年
スポーツ医療学科	4年

Ⅲ. 学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。また、試験方法は、筆記試験が主であるが、授業科目によっては口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

1. 定期試験

学期末の試験を定期試験という。

(1) 柔道整復学科では、前期及び後期のなかで、到達度確認試験を行うことができる。

その評価は、定期試験の評価に加えることができる。

(2) 看護学科とスポーツ医療学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

2. 受験資格

(1) 講義、演習の受験資格

授業時間数の3分の2以上出席している者

(2) 実技・実習の受験資格

授業時間数の5分の4以上出席している者

※理学療法学科、作業療法学科及び看護学科では、3分の2以上出席している者

(3) 臨床実習及び臨地実習の成績判定資格

実習時間の5分の4以上の出席している者

※看護については、実習時間を満たす者

3. 追試験

追試験については学則第33条に規定している。

- (1) 感染症等やむを得ない理由により定期試験を欠席した者は、追試験を受けることができる。その場合は80点を上限に採点される。
- (2) 追試験を受ける者は、受験料を添えて「追試験受験願」を期日までに当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- (3) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。ただし感染症による追試験受験料は発生しない。

4. 再試験

- (1) 定期試験の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は60点を上限に採点される。
- (2) 再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- (3) 再試験は、基本的に1回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科会議の協議により再度試験を行うことがある。
- (4) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。

5. 試験にあたっての注意事項

- (1) 試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの乱れ等による場合は遅延証明の提出を条件に、試験開始後15分までの遅刻を認めることがある。
- (2) 受験に際しては、必ず学生証を携行すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に1回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、当該発行日のみ有効とする。
- (3) 試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は再び入室できない。
- (4) 試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えら

れず、すでに受験した科目も無効とする。

6. 単位認定と単位取得

(1) 講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において、60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位認定」、学生側からは、「単位取得」という。

(2) 講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。

秀……90点以上

優……80点以上90点未満

良……70点以上80点未満

可……60点以上70点未満

不可……60点未満

(3) 臨床実習及び臨地実習の成績評価

実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記(2)のように最終評価する。

※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。

(4) 学業成績を総合的に評価するための基準

① 学業成績を総合的に評価するための基準として、GPA (Grade Point Average) を用いる。

② GPAは、学期ごとに算定する。

③ GPAの算定に当たっては、履修した各科目の評価に、GP (Grade Point) (以下「GP」という。)を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

(履修登録した GPA 対象科目の GP × その科目の単位数) の合計

履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計

④ GPAの対象科目は、学則別表(1～7)に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。

⑤ GPの割当てについては、学則第32条に定める試験の評価(以下「成績評価」という。)に応じて、次表に定めるGPを割り当てる。

成績評価	GP
秀（90～100点）	4
優（80～89点）	3
良（70～79点）	2
可（60～69点）	1
不可（59点以下）	0

(5) 成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

IV. 進級、卒業の認定について

1. 進級認定

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

2. 卒業認定

卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

V. 褒賞

学生の褒賞については学則第40条に規定している。

VI. 懲戒

学生の懲戒については学則第41条に規定している。

VII. 除籍

学生の除籍については学則第26条に規定している。

VIII. その他留意事項

1. 休講・授業時間割等の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割を変更する場合があります。これについては掲示板により通知する。

2. 掲示による通知、連絡について

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示で通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の2回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は学校側にはないので、特に注意しておくこと。

3. 提出物について

各種申請書、レポート、その他当該学科教務及び学校事務局学務部学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

4. 不明な点は、当該学科教員及び学校事務局学務部学生相談窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。

5. 大学併修について

本校では、理学療法学科（任意）、作業療法学科（任意）及び看護学科（必修）を対象に、九州保健福祉大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

6. ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

附 則

この履修規程は、学則、その他の細則に基づき、令和2年4月1日から施行する。

施行後の規程は、令和2年4月1日以降の入学生に適用し、令和2年3月31日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

大学併修制度

大学を卒業する為には、最低 124 単位以上の修得単位が必要です。本校看護学科では、九州保健福祉大学との教育提携により本校を卒業した時点で、最大 60 単位が包括認定されるため、残り 64 単位以上を 4 年間で修得すれば「学士」の称号及び「社会福祉主事任用資格」が取得されます。なお、修得すべき 64 単位のうち 4 年間で 23 単位以上はスクーリングもしくはメディアによる単位を修得しなければなりません。

本校に入学する前に他の大学(短期大学)を卒業したものに対しては、大学の通信教育の全部または一部の履修を免除することがあります。

1. 学生の種類

通信教育で学ぶ学生は、正科生、科目履修生、特別履修生の 3 種類に分類され、何を目的として入学するかによって学生の種類が決定しますが、本校は九州保健福祉大学通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科正科生として入学手続をとります。

学生の種類

正科生 大学卒業資格取得を目的とする。

科目履修生 満 18 歳以上で、大学卒業資格取得を目的としない、希望科目のみを履修する。

特別履修生 満 18 歳以上で、大学入学資格をもたない者が、正科生としての入学資格を取得するための制度

2. 入学時期と出願期間

入学時期は春期入学となります。

本学合格と同時に大学の出願手続を行います。

3. 選考方法

入学試験(書類審査等)を行い、入学志願書の志望理由および、その他出願書類により九州保健福祉大学で総合的に選考され、出願期間の最終受付日から 1 週間後に合否通知が郵送されます。合格者には入学手続に必要な書類(入学手続・学費などの振込み依頼書)が同封され、不合格になった者については、本校において指導の上、再度入学試験を受験することになります。

4. カリキュラム

通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科のカリキュラムは別表に示すとおりです。

4. カリキュラム(別表)

2016 年度入学生 (例)

四国医療専門学校看護学科九州保健福祉大学履修科目

大学卒業 (学士)・社会福祉主事・看護教員 (希望選択)

学年	科目名	単位数	授業形態	T	S	M	合計
1	▲哲学	4	TM	2		2	4
	生物学	4	T	4			4
	▲情報処理入門	4	TM	2		2	4
	芸術療法入門	2	T	2			2
	▲カウンセリング総論	2	S		2		2
	▲総合福祉研究 I	2	S		2		2
	●▲現代社会と福祉 II	2	S		2		2
	●▲心理学	4	TM	2		2	4
	相談援助の基盤と専門職	4	T	4			4
	相談援助の理論と方法 I	2	T	2			2
計	30		18	6	6	30	
2	※教育原論	2	T	2			2
	※教育課程論	2	T	2			2
	※▲教育心理学	2	M			2	2
	相談援助の理論と方法 II	2	T	2			2
	相談援助演習 I	4	T	4			4
	▲心理療法	4	TS	2	2		4
	▲カウンセリング各論	2	S		2		2
	▲総合福祉研究 II	2	S		2		2
	●介護概論	4	T	4			4
	▲相談援助演習 II	4	TS	3	1		4
人体の構造と機能及び疾病	4	T	4			4	
計	32		23	7	2	32	
3	※教育方法論	2	T	2			2
	▲相談援助演習 III	4	TS	2	2		4
	●障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	T	2			2
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2	T	2			2
	▲芸術療法演習	4	TS	2	2		4
計	14		10	4	0	14	
4	総合福祉研究 III (3年次までに64単位取得できなかった学生のみ)	2			2		2
合計		76		51	19	8	76

●社会福祉主事資格に必要な科目である。

※教育原論・教育課程論・教育方法論・教育心理学は卒業に必要な単位として

認定されていないが看護教員資格に必要な科目である。

▲S/M は 23 単位以上の修得が必要である。

5. 学習を始めるにあたって

入学手続・学費等納入後「履修届」等を記入し郵送・提出することにより、主教材(履修する科目のテキスト・資料)が配布され学習開始となります。

九州保健福祉大学通信教育部では、次の4つの授業形態があります。

1) テキスト科目(印刷授業)

テキスト教材を主として自己学習を随時進めていく科目です。自己学習の段階的な成果を見せるために、原則として2単位につき1回の添削課題が義務付けられ、この添削課題を提出し合格しなければ、最終的な科目単位認定試験を受けることができません。科目によっては添削課題の他にレポートなどを求められる場合もあります。添削課題の締め切り・課題返却日・科目単位認定試験は九州保健福祉大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受験ができます。

科目単位認定試験は春季・夏季・秋季・冬季の4回実施されます。つまり、テキスト科目については、年に4回の受験機会があります。試験は、択一式・レポートなどがあり、九州保健福祉大学で定められています。1日1科目45分8科目まで受験可能です。成績についても九州保健福祉大学の定めによります。会場はスクーリング会場と同一会場となっていますが、本校については、提携校であるため、本校で受験することができ、この科目単位認定試験に合格することで科目の修了が認められます。

2) スクーリング科目(面接授業)

スクーリングの場所・日程は九州保健福祉大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受講ができます。

スクール、つまり学校で授業を受ける科目になり、スクーリング科目2単位につき3日間の集中的な講義が実施されます。原則1科目3日間です。本校はスクーリング会場を岡山会場または本校会場で実施しています。スクーリングの最終講義時には認定試験が実施されます。科目によってはスクーリング終了後にレポートを提出する場合があります。これらの試験やレポートに合格することで、その科目の修了となります。

3) テキスト・スクーリング科目(併用授業)

テキストによる授業とスクーリング授業を組み合わせることで、より効果的な理解と実践能力を身につける授業形態です。テキスト部分およびスクーリング部分の2回の認定試験を受験し、両方に合格しなければなりません。

4) テキスト・メディア科目(併用授業)

メディア授業は、インターネット、あるいはCD-Rを利用して、先生の講義を聞きながら進めていくことになります。本校は視聴覚教室に設置されているパソコンをインターネットにアクセスして学習することもできます。講義は自宅のパソコンでも毎日順番に少しずつ見ていくこともできます。科目修了のためには、テキスト部分の科目認定試験に合格するとともに、メディア部分のレポートにも合格しなければなりません。

通信教育は家庭学習が主ですが、学生の負担を軽減するために、時間割の中にも組み込ん

でいます。

5) 科目履修期間

科目履修期間は1年間ですが、初年度中に科目ごとに定められた添削課題にすべて「合格」していれば、継続履修となり在学期間は科目認定試験を単位認定するまで何度でも受験可能となります。

6) 納付金

提携校のため次の下記のとおり納付金の一部が免除されます。

	入学検定料	入学金	科目登録料	授業料	スクーリング履修料	メディア履修料	CD-R教材費
提携校	10,000	免除	免除	124,000/年間	4,500/1単位	4,500/1単位	3,000/1科目

- * CD-R教材費はメディア科目をCD-Rで受講する場合にのみ必要となります。
- * 4年間で約620,000円です。スクーリングの際の交通費・宿泊費等は個人負担となります。
- * 納付時期等については、九州保健福祉大学の指定する日までに、指定の方法にて納付してください。

7) 資格等

①学士（社会福祉学）の学位

②社会福祉主事（任用資格）

社会福祉主事（任用資格）は、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために、相談・指導・援助の業務をおこなう専門家であり、所定の単位を取得することで資格を得ることができます。任用資格なので、公務員などに採用され、実際に業務についた場合に限り初めて名乗ることのできる資格ですが、昨今では、社会福祉施設職員や民間企業（福祉系）での採用基準として準用されるケースもあります。

③看護師養成所における看護教員の資格（希望選択）

大学在学中に教員課程を追加履修したものは、現時点では看護師養成所看護教員の資格を習得することが可能です。

8) 学生相談

学習に関する事柄や事務手続きなどの相談事については随時受け付けております。

学事暦

前期

月		火		水		木		金		土		日		
2020年 4月	6	入学時教育	7	8	9	10	入学式	11	始業/新入生歓迎会	12				
	13	臨地実習(4年)	14	15	16	17		18		19			4月	
	20	臨地実習(4年)	21	22	23	24		⇒/球技大会	25		26			
	27	臨地実習(4年)	28	29	昭和の日	30								
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	講習休日	7	臨地実習(4年)	8		9	3	憲法記念日	
	11	臨地実習(4年)	12	13	⇒/献花祭	14		15		16		17	5月	
	18	臨地実習(4年)	19	20		21	⇒/大島青松園見学	22		23		24		
	25	臨地実習(4年)	26	27		28		29		30		31		
6月	1	臨地実習(4年)	2	3		4		5	⇒/研修	6		7		
	8	臨地実習(4年)	9	10		11		12		13		14		
	15	臨地実習(4年)	16	17		18		19		20		21		
	22	臨地実習(4年)	23	24		25		26		27	学園祭	28		
7月				1	臨地実習(4年)	2		3		4		5		
	6	臨地実習(4年)	7	8		9		10		11		12		
	13	臨地実習(4年)	14	15		16		17	⇒/スクーリング(1,2年) /夏季休業開始	18	スクーリング(1,2年)	19	スクーリング(1,2年)	
	20	臨地実習(4年) /スクーリング(1,2,3年)	21	⇒/スクーリング(1,2,3年)	22	⇒/スクーリング(1,2,3年)	23	海の日	24	スポーツの日	25		26	7月
8月	27	スクーリング(1,2年)	28	スクーリング(1,2年)	29	スクーリング(1,2年)	30	スクーリング(2年)	31	スクーリング(2年)				
	3	臨地実習(3年)	4		5		6		7		8	2	2	大学科目単位認定試験
	10	山の日の	11	臨地実習(3年)	12		13		14		15		16	
	17	臨地実習(3年)	18		19		20		21		22		23	
9月	24	臨地実習(3年)	25		26		27		28		29	30	30	夏季休業終了
	31	臨地実習(3年)												
	1		2		3		4		5		6			
	7	臨地実習(3年)	8		9		10		11	体育祭/⇒	12		13	
10月	14	臨地実習(3年)	15		16		17		18		19		20	
	21	敬老の日	22	秋分の日	23	臨地実習(3年)	24		25		26		27	
	28	臨地実習(3年)	29		30									
		月	火	水	木	金	土	日						

後期

月		火		水		木		金		土		日		
10月	5	臨地実習(3年)	6	7	8	9	10	臨地実習(3年)	11	⇒/籠帽式	12			
	12	臨地実習(3年)	13	14	15	16	17		18		19			
	19	臨地実習(2,3年)	20	21	22	23	24		25		26		10月	
	26	臨地実習(3年)	27	28	29	30			31					
11月	2	臨地実習(4年)	3	文化の日	4	臨地実習(4年)	5		6		7			
	9	臨地実習(4年)	10		11		12		13		14		15	大学科目単位認定試験
	16	臨地実習(1年)	17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	臨地実習(1年)/スクーリング(3年)	25	臨地実習(1年)/スクーリング(3年)	26	スクーリング(3年)	27		28		29	
12月	30													
	7	臨地実習(2,3年)	8		9		10		11		12			
	14	臨地実習(2,3年)	15		16		17		18		19			
	21	冬季休業開始/臨地実習(2,3年)	22		23	臨地実習(2年)	24	臨地実習(2年)	25		26		27	
2021年 1月	28		29	30		31								
	4		5		6	臨地実習(3年)	7		8		9	3	3	冬季休業終了
	11	成人の日	12	臨地実習(3年)	13		14		15		16		17	
	18	臨地実習(3年)	19	⇒/解剖見学実習	20		21		22		23		24	
2月	25	臨地実習(3年)	26	⇒/解剖見学実習	27		28		29		30		31	
	1	臨地実習(3年)	2		3		4		5		6		7	大学科目単位認定試験
	8	臨地実習(3年)	9		10		11	憲法記念の日	12		13		14	看護師国家試験
	15		16		17	自治会	18		19		20		21	
3月	22		23	天皇誕生日	24		25		26		27		28	
	1		2		3		4		5		6		7	
	8	臨地実習(3年)	9		10		11		12	⇒/卒業式	13		14	
3月	15	臨地実習(3年)/冬季休業開始	16		17		18		19		20	春分の日	21	
	22	臨地実習(3年)	23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									
	月	火	水	木	金	土	日							

注意事項 学事暦の予定は変更する場合があります。その際は連絡します。

看護学科自治会会則

第一章 総則

- 第1条 本会は四国医療専門学校看護学科自治会と称す。(以下、自治会という。)
- 第2条 本会は四国医療専門学校の看護学科の全学生を正会員とする。
- 第3条 本会は四国医療専門学校の看護学科の現教員を特別会員とする。

第二章 組織

- 第4条 自治会に自治会本部会を置く。
(1) 看護学科自治会顧問として教員を1名おく。

第三章 自治会本部会

第5条 自治会本部会(以下、本部会という。)は、自治会活動に係る種々の問題等について協議および調整し、その活動が円滑にすすむよう支援する。

1. 本部会は次の役員によって構成される。

1) 自治会役員

- | | |
|-----------|----|
| (1) 会 長 | 1名 |
| (2) 副 会 長 | 2名 |
| (3) 級 長 | 4名 |
| (4) 書 記 | 2名 |
| (5) 会 計 | 2名 |
| (6) 会計監査 | 1名 |

2) 各種委員会

- | | |
|-------------|----|
| (1) 体育祭実行委員 | 4名 |
| (2) 学園祭実行委員 | 4名 |

第6条 本部会は次のことを行う。

1. 会則の立案及び変更案の作成
2. 予算案及び決算案の作成
3. 学生会の議決事項の周知
4. その他

第7条 本部会は、役員の2分の1以上の出席をもって成立する。

第8条 本部会役員の任期は4月1日より3月31日までの1年とする。

第9条 本部会役員の選出を行う。

1. 本部会役員のうち会長、副会長、書記、会計、会計監査、体育祭実行委員および学園祭実行委員については、第2学年より選出する。
2. 級長は各学年のクラスから1名ずつ選出する。

第10条 本部会役員の役割を定める。

1. 会長は、本部会を代表し本部会の運営等について責任を有する。
2. 副会長は、会長を補佐し必要に応じて会長の職務を代行する。
3. 級長は本部会での決定事項を各クラスに周知する。
4. 書記は、本部会の記録業務にあたり、議事録等の作成を行う。
5. 会計は、本部会および自治会の会計業務にあたり、自治会総会において決算報告および会計報告を行う。
6. 会計監査は、本部会および自治会の決算報告および会計報告の内容に虚偽の表示等がないことを確認し、自治会総会においてその結果を報告する。
7. 体育祭実行委員は、体育祭の準備、運営を行う。
8. 学園祭実行委員は、学園祭の準備、運営を行う。
9. 顧問は自治会役員の相談役とする。

第11条 自治会役員は第2学年の会員より選出する。

第四章 自治会総会

第12条 自治会総会は毎年1回とし次の事項を審議する。

1. 予算、決算
2. 会則の改廃
3. その他必要な事項

- 第13条 自治会総会は、正会員の2分の1以上の出席をもって成立する。
第14条 やむをえない理由のため自治会総会に出席できない正会員は、他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

第五章 事業

- 第15条 1年生の諸行事に関する事項（入学式準備・新入生歓迎会の企画・運営）
第16条 2年生の諸行事に関する事項（成人を祝う会・戴帽式に関わる企画、運営・戴帽生への記念品、花束の準備）
但し対象学年になるので各クラスの級長に企画運営を委ねる。
第17条 4年生の諸行事に関する事項（卒業生への記念品の準備・追出しコンパ等の企画・運営）
但し追出しコンパについては3年生級長に企画・運営を委ねる。
第18条 学科行事に関する事項（献花祭に伴うボランティア活動・クリスマス会等の企画・運営）
第19条 学生会主催行事に関する事項（球技大会・学園祭・体育祭等の企画運営に参加）

第六章 会計

- 第20条 自治会の経費は会費及び、その他の収入によって充てる。
第21条 自治会の会費は、自治会の活動目的を達成するために入学時に納入しなければならない。但し、留年生においては会計役員が直接徴収する。
1. 看護学科自治会費 5,000円×4年分
2. 留年生会費 5,000円×1年分
3. 特別会員からの会費は徴収しない。
第22条 自治会の会計は、一度納入すれば返却は認められない。
第23条 自治会の決算は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に本部会で行い、自治会総会において承認を得なければならない。
第24条 自治会の予算割り当ては、毎年4月に本部会で立案し、総会において承認を得なければならない。
第25条 当該会計年度の剰余金は次年度に繰り入れるものとする。

第七章 帳簿

- 第26条 自治会に次の帳簿を置く。
1. 自治会会則
2. 各役員名簿
3. 議事録
4. 会計簿
5. 備品台帳
6. その他

第八章 修正及び改正

- 第27条 本会則の修正及び改正の動議は自治会員の3分の1以上の要求がある場合認められる。
第28条 本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、自治会総会出席者の3分の2の賛成がある場合可決される。

第九章 会員の権利及び義務

- 第29条 自治会総会及び本部会において可決されたすべての事項に対して会員は忠実に実行する義務と責任を有する。

附 則

この看護学科自治会会則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 （平成27年3月31日一部改正）

この看護学科自治会会則は、平成27年4月1日から施行する。

物 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	伊藤寛
8 授業概要および到達目標 1. 人間は力の法則（力学）に従って動いている。力とは何か？ 2. 人体の運動力学を理解する。人体の動作に関して基本的な物理的知識を身につける。 3. 医療、看護で起こりうる事象や機器を想定して、そこで用いられる物理学的な理論や技法などの為の基礎的知識を学ぶ。						
9 授 業 計 画 第 1 回 物理学を何のために学ぶのか 力とは何か（1） ① 速度 ② 加速度 ③ 力 ④ 万有引力 第 2 回 力とは何か（2） ① 質量 ②慣性の法則 ③力と加速度－ニュートンの運動方程式 ④作用反作用の法則 ② 力の単位 第 3 回 力とは何か（3）重い物を持つにはどうしたらよいか ① 力の単位 ②物体の回転－力のモーメント・テコ 第 4 回 看護ボディメカニクスの物理（1） 小さな力で大きな効果（テコの原理）と力の人体中での応用、物を持つときの姿勢と力など、 モーメントに関する基本を学ぶ。 ① 物体を安定に支える方法 ②筋肉の張力と関節にはたらく力 ③腰椎にかかる力 第 5 回 看護ボディメカニクスの物理（2） ① モーメントの人体への応用 一体位変換の物理学 ②重心と安定性 ③ 様々な看護の現場でのモーメントの応用、摩擦力 第 6 回 身近な圧力：①圧力とは何か ②大気圧と水圧 ③密度 ④圧力の単位 第 7 回 圧力－呼吸器と吸引の物理：①水柱の圧力 ②呼吸運動のメカニズム 第 8 回 試験						
10 学 習 方 法 講義中心、演習や簡単な演示実験も含む						
11 評 価 方 法 試験及びレポート						
12 教科書及び参考書 「看護学生のための物理学」 医学書院						
13 学生への要望 物理学は、難しいというイメージをもたれがちですが、基本的な概念や法則を理解すると、身近な現象の仕組みが理解できます。物理学では覚えなければならないことは少なく、考え方を学ぶことが大切です。自分で考える労力をいとわず取り組んでください。						

生 物 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	伊藤松雄
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命について学びを深める。 2. 生体維持の仕組みを理解する。 3. 生物と環境について関連を理解する。 4. 地球のこれからの環境と生活する人類の健康について考えられる。 <p>以上について人と植物の関わりからアプローチする。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 生命とは / 生命のつくりとはたらき / 生体維持のエネルギー</p> <p>第 2 回 細胞の増殖と身体 / 生殖と発生</p> <p>第 3 回 遺伝情報の伝達と発現のしくみ</p> <p>第 4 回 個体の調節</p> <p>第 5 回 刺激の受容と行動</p> <p>第 6 回 生命の起源と進化</p> <p>第 7 回 生物と環境のかかわり 地球環境と人類の未来を考える</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / 実験</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>生物である人間を看護される皆さんには、特にしっかりと学習して欲しい。</p>						

化 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	山口孔丹子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体を構成する物質とその反応を実験を交えながら理解する。 2. 無機物の化学的性質、化学反応、および一般化学について理解する。 3. 有機化学として、生化学、栄養学、医薬がどのような化合物でできているのか基礎を理解する。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 化学とは何か？ / 物質の成り立ち</p> <p>第 2 回 食品にみる生体物質（1）糖質/脂質</p> <p>第 3 回 食品にみる生体物質（2）タンパク質/酵素</p> <p>第 4 回 食品にみる生体物質（3）旨味成分</p> <p>第 5 回 食品にみる生体物質（4）ビタミン/ミネラル</p> <p>第 6 回 環境と化学</p> <p>第 7 回 医学と化学</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / 実験</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>食を中心とした化学（第3版） 東京化学社</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>生命体は化学物質（分子とイオン）でできている。化学の基礎をしっかりと学んでほしい。</p>						

情 報 科 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	梅木佳子 高畑美佳（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学やコンピュータの基礎を理解する。 2. 情報リテラシーから看護情報へと関連づけられる。 3. IT の知識を深め、情報処理能力を身につける。 4. 看護研究に必要なデータや情報処理方法を理解する。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 情報科学の基礎 / 情報技術とコンピュータ / パソコン本体の構成</p> <p>第 2 回 出力装置（印刷・スキャナー） / 入力インターフェース / アプリケーションソフト</p> <p>第 3 回 ネットワーク / LAN / インターネット / メール / ソーシャルメディア</p> <p>第 4 回 情報セキュリティ（ウイルス・対策） / インターネット利用の心構え</p> <p>第 5 回 保健医療における情報 / 看護と情報 情報と倫理 / 情報倫理と医療倫理</p> <p>第 6 回 情報と倫理 / 患者の権利と情報 / 個人情報の保護</p> <p>第 7 回 看護研究とコンピュータ / 情報科学 / 文献情報の検索 地域看護と情報システム / 実践例</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～4 回、第 7～8 回 梅木佳子（80）・第 5～6 回 高畑美佳（20）</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 これだけは知っておこう情報リテラシー noa 出版</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>アンテナを広げ取り込むべき情報はもらさず集めて多くを学んでください。</p>						

情報科学演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	梅木佳子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータを使って情報処理ができる。 2. コンピュータを使ってレポート作成ができる。 3. プレゼンテーション演習発表ができる。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1～2 回 パソコンの基本操作 Windows の基本的な操作 / 文字入力&変換</p> <p>第 3～7 回 Word 活用 (ビジネス文章 / 表作成 / 長文編集等)</p> <p>第 8～10 回 Excel 活用 (Excel の基礎 / 関数 / 書式設定等)</p> <p>第 11～14 回 Powerpoint 活用 (プレゼンテーションの基礎 / 演習)</p> <p>第 15 回 まとめ / 演習 / テスト</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / パソコンを活用した演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 情報リテラシー<改訂版> (Windows10・Office2019)</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>遅刻・欠席しないこと。コンピュータを使って、論文の発表ができるように期待しています。 USB を各自用意。</p>						

生涯スポーツ論（体育実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	白川祥孝
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>各スポーツ種目の実技を通して、それぞれに楽しむための基礎的技術を習得しながら、魅力的なゲームの実践を行い、生涯、スポーツに対する運動習慣の重要性を理解し、体育・スポーツの科学的認識の発展を期す。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2～3 回 ニュースポーツ</p> <p>第 4～5 回 バドミントン（体育館） 基礎／応用／ゲーム</p> <p>第 6～7 回 ソフトバレーボール（体育館） 基礎 / 応用 / ゲーム</p> <p>第 8～9 回 ドッチビー・大縄跳び等 基礎／応用／ゲーム</p> <p>第 10～11 回 一般レクリエーション（実技を中心として）</p> <p>第 12～13 回 障がい者スポーツ（体育館） 基礎 / 応用 / ゲーム</p> <p>第 14～15 回 卓球（体育館） 基礎 / 応用 / ゲーム など</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>実技</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>実技試験 運動に関するレポート提出、出席、態度等の総合評価</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>楽しくスポーツができるように、体調管理をしておくこと。</p>						

哲 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	高倉良一
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>「人間は、どう生きるべきか」を自分自身の言葉で語るができるようになるために、哲学は必要不可欠の学問である。この授業では、(1)哲学史を概観した上で、(2)人間として、いかに生きるべきかを熟考するとともに、(3)看護の道を志す者に必要な思考法の習得を目標とする。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 人間は、どのような存在なのかを考えるとともに、哲学を学ぶことの意味を考える。</p> <p>第 2 回 思考法に関する技法を学ぶ フューチャー・マッピング、マインド・マップ、デッサンメモ、16 分割メモなどの技法を紹介する。</p> <p>第 3 回 哲学の歴史 その 1 西洋哲学の流れを概観する。</p> <p>第 4 回 哲学の歴史 その 2 東洋哲学の流れを概観する。</p> <p>第 5・6 回 人間の尊厳と人間悪との関係 映画「白バラの祈り」を素材として、人間としてあるべき生き方を考える。</p> <p>第 7 回 看護現場で直面する哲学的問題 妊娠、出産、障害、終末期医療の課題を考える。</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>授業終了後に、毎回提出を求める感想レポートと、筆記試験の内容に基づいて評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>哲学『看護と人間に向かう哲学』 田畑邦治 田中美恵子 ニューヴェルヒロカワ</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>授業の場を、教員と受講生がお互いに触発できるな空間とすることを目指したい。授業が開始されるまでに、教科書を通読して置くことが求められる。</p>						

人 間 関 係 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	辰巳裕子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の存在と人間関係および社会的役割について理解する。 2. コミュニケーションの基礎的技術と理論を理解する。 3. 看護現場で求められる人間関係の特性を知り理解する。 4. 地域共生社会における看護師としてコミュニケーション技術を習得する。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 人間の存在と人間関係</p> <p>第 2 回 社会的相互作用と社会的役割</p> <p>第 3 回 コミュニケーションの基礎的理解</p> <p>第 4 回 コミュニケーション技術の習得</p> <p>第 5 回 人間関係を築く面接技法</p> <p>第 6 回 保健医療チームの人間関係</p> <p>第 7 回 闘病生活・終末期等の患者と家族を支える人間関係</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / ロールプレイ / 口頭発表</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>出欠席 / レポート / 口頭発表 / 期末試験から総合的、立体的な評価</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>人との関わりが得意な人も、苦手な人も職業人になることを意識して積極的に授業に取り組んでください。</p>						

死 生 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	小阪清行
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生と死について、文学者や宗教家たちの考え方を元に、一緒に考える。 2. 日本人と外国人の死生観の違いについて考える。 3. 死に関する多様な文化に触れる。 4. 自分自身の死生観について考えを深め、看護師としての仕事との関係を考える。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 死生学とは</p> <p>第 2 回 文学にみる生と死—文明の表在性と病根</p> <p>第 3 回 仏教にみる死生観—仏教理解のために</p> <p>第 4 回 キリスト教にみる死生観—キリスト教理解のために</p> <p>第 5 回 近代の抱える問題—ゲーテと三木成夫(解剖学者・思想家)</p> <p>第 6 回 医療現場と実践者たち—ナイチンゲール、ダミアン神父 etc.</p> <p>第 7 回 若さと老い—老いらくの恋、若さの秘訣</p> <p>第 8 回 試験 (あるいはレポート提出)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験、あるいはレポート提出</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師作成テキスト</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>われ未だ生を知らず、いづくんぞ死を知らんや (孔子)</p> <p>「生と死」について一緒に考えてみましょう。</p>						

家 族 社 会 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	高倉良一
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>家族は、生老病死に関する喜びや苦悩を共有する最も身近な人間関係であると思われる。授業では、家族社会学を中心にしつつ隣接諸科学の成果も参考にしながら、現代の家族が直面する様々な問題に関する理解を深めたい。その上で、家族に関する困難な問題で悩んでいる人々に対して、適切な支援ができるようになることを志す態度の習得を目標としたい。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 家族に関する受講生各自の問題意識を明確にする。</p> <p>第 2 回 家族関係図の作成を通じて、家族の定義をすることは可能かを考える。</p> <p>第 3 回 家族に関する基本的な概念を理解する。</p> <p>第 4 回 人生設計図の作成を通じて、家族が直面する問題を考える。</p> <p>第 5 回 戦前の家制度を中心として、日本の家族の特質を考える。</p> <p>第 6 回 戦後の家族法改正を中心として、日本の家族の特質を考える。</p> <p>第 7 回 映画「生きる」を素材として、親子の関係性を考える。</p> <p>第 8 回 映画「生きる」を素材として、危機に直面した人間の生き方を考える。</p> <p>第 9 回 映画「東京物語」を素材として、老親子関係の変化を考える。</p> <p>第 10 回 映画「東京物語」を素材として、親族の関係性を考える。</p> <p>第 11 回 映画「人生スイッチ」を素材として、結婚生活に関する問題を考える。</p> <p>第 12 回 映画「人生スイッチ」を素材として、離婚に関する問題を考える。</p> <p>第 13 回 映画「ロレンツォのオイル」を素材として、家族の健康問題を考える。</p> <p>第 14 回 映画「ロレンツォのオイル」を素材として、家族支援で求められる医療者の資質を考える。</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>授業終了後に、毎回提出を求める感想レポートと、筆記試験の内容に基づいて評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座別巻 家族看護学（医学書院）</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>授業の場を、教員と受講生がお互いに触発できるな空間とすることを旨したい。授業が開始されるまでに、教科書を通読しておくことが求められる。</p>						

発 達 心 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	宮地和樹
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>この講義では、人は生涯発達しているという視点から、人の成長過程と発達段階における生活上の変化や、そこで生じる「こころ」の問題について考えていきます。具体的には①各発達段階の特徴を理解することができること、②発達援助の方法について理解し、自分の意見にまとめることができることの二つを目標としたいと思います。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 発達とは何か / 生を受けて生まれてくること</p> <p>第 2 回 乳児期から幼児期 (1)</p> <p>第 3 回 乳児期から幼児期 (2)</p> <p>第 4 回 児童期にみる子どもの生活</p> <p>第 5 回 青年期から成人</p> <p>第 6 回 老年期</p> <p>第 7 回 発達を援助するために</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>出席、試験 などで評価</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>単に人間の発達の流れを追うのではなく、自分自身に置き換えながら理解をする視点を培ってもらいたいと思います。また、講義の最後に毎回感想と質問を書いてもらいます。</p>						

日 本 語 表 現 法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	金子えつこ 宿母順子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>社会における言語について再考し、言語表現について学び、日本語での読み書き・自己表現・語りの技術を磨くことを目的とする。具体的には言語学の基礎教養を身につけ、自分の考えを適切な敬語や論理的な構成をもって礼儀の範囲内で容易に語れるようになることを目標とする。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 概論 言語とは / ことばの力</p> <p>第 2 回 こどもの言語獲得プロセスおよび言語障害について / 言語中枢 / こどもとのコミュニケーション</p> <p>第 3 回 社会言語学 / 日本語のバラエティ</p> <p>第 4 回 書くという行為 / 執筆の基礎 / 表現する時の礼儀</p> <p>第 5 回 読むという行為 / 何のために何を読むか / どう読むか / 図書館の利用方法 / 有名書籍の紹介</p> <p>第 6 回 話すという行為 / 敬語の用法 / ビジネス敬語のルール</p> <p>第 7 回 適切な言葉づかいと話し方 / 履歴書等について</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p>第 9 回 日本の伝統文化から学ぶ礼儀作法</p> <p>第 10 回 華道の歴史・理論・演習</p> <p>第 11～12 回 茶道とは・理論・演習</p> <p>第 13～14 回 茶道の歴史・理論・演習</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center;">第 1～8 回 金子えつ子 (80)・第 9～15 回 宿母順子 (20)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>資料および毎回の書き込み式授業プリントに沿った講義形式です。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>授業プリントの提出、期末試験、実技、授業での諸成果による総合評価とします。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>積極的に学び、伸びたい学生を歓迎します。学生のレベルや希望を、ある程度、考慮します。日本人の伝統文化を学び、茶道の所作を身に付けましょう。</p>						

文化人類学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	伊藤松雄
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>風景には、自然の造景のみでなく、人々の活動の歴史が刻まれている。ここでは、地元香川の風景をもとに、その自然と人々の活動について、文化人類学的に読み解いていく。その中で、香川の文化を再発見する。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 イントロダクション：讃岐・香川の自然と文化</p> <p>第 2 回 人はなぜこんぴらさんに詣でるのか？ 1</p> <p>第 3 回 人はなぜこんぴらさんに詣でるのか？ 2</p> <p>第 4 回 人はなぜこんぴらさんに詣でるのか？ 3</p> <p>第 5 回 お大師さんのふる里に眠る水脈とは？ 1</p> <p>第 6 回 お大師さんのふる里に眠る水脈とは？ 2</p> <p>第 7 回 天狗伝説の本当の意味とは？ 1</p> <p>第 8 回 天狗伝説の本当の意味とは？ 2</p> <p>第 9 回 海の覇権は誰の手に？ 1</p> <p>第 10 回 海の覇権は誰の手に？ 2</p> <p>第 11 回 なぜ城は山から降りたのか？ 1</p> <p>第 12 回 なぜ城は山から降りたのか？ 2</p> <p>第 13 回 なぜ城は山から降りたのか？ 3</p> <p>第 14 回 瀬戸の海、龍宮城はどこに？ 1</p> <p>第 15 回 瀬戸の海、龍宮城はどこに？ 2</p> <p>第 16 回 まとめ/試験、レポート</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験、レポート提出</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>香川県の自然風景、人文風景について理解し、私見を述べるができるようになってほしい。</p>						

臨床心理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																														
基礎分野	3 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	竹森元彦																														
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学に関する基礎的理論や歴史について学習する。 2. 心理テスト, 心理療法, カウンセリングに関する基礎的学習を行う。 3. 心理アセスメントや心理テスト, 映画分析などを通じて自分と他者について深く考える。 4. カウンセリングシナリオの実習を通じてカウンセリングコミュニケーションについて学習する。 																																				
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第 1 回</td><td>心への問い、臨床心理学とは</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>現代社会と臨床心理学</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>自分と臨床心理学</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>心理アセスメント 映画の臨床心理学</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>心理アセスメント 映画の臨床心理学</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>心理アセスメント 性格検査, 投影法</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>心理療法の実際</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>心理療法の実際</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>コラージュ療法</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>コラージュ療法</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>振り返り</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ / 試験 (レポート)</td></tr> </table>							第 1 回	心への問い、臨床心理学とは	第 2 回	現代社会と臨床心理学	第 3 回	自分と臨床心理学	第 4 回	心理アセスメント 映画の臨床心理学	第 5 回	心理アセスメント 映画の臨床心理学	第 6 回	心理アセスメント 性格検査, 投影法	第 7 回	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション	第 8 回	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション	第 9 回	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション	第 10 回	心理療法の実際	第 11 回	心理療法の実際	第 12 回	コラージュ療法	第 13 回	コラージュ療法	第 14 回	振り返り	第 15 回	まとめ / 試験 (レポート)
第 1 回	心への問い、臨床心理学とは																																			
第 2 回	現代社会と臨床心理学																																			
第 3 回	自分と臨床心理学																																			
第 4 回	心理アセスメント 映画の臨床心理学																																			
第 5 回	心理アセスメント 映画の臨床心理学																																			
第 6 回	心理アセスメント 性格検査, 投影法																																			
第 7 回	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション																																			
第 8 回	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション																																			
第 9 回	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション																																			
第 10 回	心理療法の実際																																			
第 11 回	心理療法の実際																																			
第 12 回	コラージュ療法																																			
第 13 回	コラージュ療法																																			
第 14 回	振り返り																																			
第 15 回	まとめ / 試験 (レポート)																																			
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / レポート / 演習</p> <p>毎回の授業について感想及び質問などを書いてもらう。それを次回の授業の際にとりあげ補足説明を行う。</p>																																				
<p>11 評 価 方 法</p> <p>出席を基礎として、平常時とレポートによって、評価を行う。</p>																																				
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>竹森元彦 「心の生まれる場所」 ふくろう出版</p> <p>竹森元彦 「スクールカウンセリングにおける生徒学校家庭の支え方について」 心理臨床研究第 18 巻第 4 号</p>																																				
<p>13 学生への要望</p> <p>心とからだの調和・バランスを考え人に癒しを与える看護師として成長してほしい。</p> <p>実習や演習など自分と関係しながら展開しますので、積極的・主体的に学習をしてください。</p>																																				

笑 い と 医 療

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	3 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	熊谷恵利子 山本幸男
8 授業概要および到達目標 1. 笑いがもたらす医学的効用と笑いを通して患者さんとの対人間コミュニケーション力の向上を図る。 2. 患者さんと心が通うコミュニケーションをはかるためのユーモアセンス・実践力を養う。 3. ピエロセラピーの学びを看護の実践に活かすことができる。						
9 授 業 計 画 第 1 回 ユーモアとは— 3つのユーモア理論 / ユーモア力と対人間コミュニケーション力 第 2 回 日本の伝統文化とユーモア、笑い / 欧米文化とユーモア— 比較文化論的アプローチ 第 3 回 笑いの医学的効用Ⅰ 笑いと関節リウマチ 日本医科大学吉野慎一教授の研究事例より 笑いの医学的効用Ⅱ 笑いと遺伝子— 筑波大学村上和男名誉教授の研究事例より 第 4 回 笑いの医学的効用Ⅲ 笑いと免疫力活性化Ⅰ— 伊丹仁郎医師の“生きがい療法”の試みより 笑いの医学的効用Ⅳ 笑いと免疫力活性化Ⅱ— 中央群馬脳神経外科医院中島秀雄医師の試みより 第 5 回 笑いの医学的効用Ⅴ 笑いと免疫力活性化Ⅲ— クリニクラウン、映画「パッチアダムズ」鑑賞 信頼関係を築く癒しのコミュニケーションⅠ— 金城学院大学柏木哲夫先生の研究より（川柳、駄 洒落他） 第 6 回 信頼関係を築く癒しのコミュニケーション— 笑いのメカニズム 第 7 回 信頼関係を築く癒しのコミュニケーション— 笑いヨガ 第 8 回 試験 <div style="text-align: center;">第 1 回～4 回 熊谷恵利子（60）・第 5 回～7 回 山本幸男（40）</div>						
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / グループワーク / ロールプレイ / 口頭発表						
11 評 価 方 法 レポート / 口頭発表 / 試験						
12 教科書及び参考書 講師持参資料						
13 学生への要望 いつも笑顔を！（授業は楽しく人生は面白く）						

音 楽 療 法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	岩永十紀子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法の基礎理論や音楽史の学習と平行して進められる鑑賞、演奏等の活動を通して、情操豊かな人間形成を目指すとともに、生活の中に芸術を取り入れることによって得られる、より生き生きとして人間的価値あふれた生活を送ることの重要性を知る。 2. 人間関係の構築のためのコミュニケーションの手段としての音楽療法の有効性を知り、活用法を体得していく。 3. 音楽療法の有効性を示す歴史的背景や理論的考察、さらに具体的な技法について学習し、癒しや機能改善の役割を果たす音楽療法へのアプローチを図る。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 音楽療法の概要/ 音楽療法の歴史</p> <p>第 2 回 音楽の作用</p> <p>第 3 回 音楽療法演習—高齢者と音楽</p> <p>第 4 回 音楽療法演習—精神障害と音楽</p> <p>第 5 回 音楽療法演習—障害児（者）と音楽</p> <p>第 6 回 その他の音楽療法</p> <p>第 7 回 音楽療法の実際</p> <p>第 8 回 まとめ</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>記録 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>音楽療法についての知識の獲得だけでなく、演習に積極的に参加することによって、音楽の持つ力を体験的に学習してください。</p>						

健康科学論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	漆原光徳
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動の重要性を、運動学および健康スポーツ科学の立場から理解する。 2. 人間の身体の仕組みを理解し、健康科学の基礎的知識を身につける。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 健康科学とは？ 体重管理の基礎理論</p> <p>第 2 回 肥満と疾病・中年太りはなぜ起こる？</p> <p>第 3 回 有酸素運動と無酸素運動・筋肉と脂肪燃焼</p> <p>第 4 回 部分やせは科学的に可能か？</p> <p>第 5 回 食事と健康・太らない食事法</p> <p>第 6 回 最新のダイエット理論</p> <p>第 7 回 サプリメントと健康</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>「大学ダイエット講義」漆原光徳著, 二見書房</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>この講義で、人間のからだの基本的な仕組みを理解し、「健康」の基本的な概念を身につけて欲しい。</p>						

英 語 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1 学年	通年	1 単位	30 時間	必修	新宮久子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>中学程度の英語を使って日常会話を体得していきます。</p> <p>英語を使うさまざまな状況ですぐに役立つ英会話を身につけて、世界を広げていきましょう。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1～2 回 Unit 1 Hi, I'm Michiko.</p> <p>第 3～4 回 Unit 2 Can I get your telephone number?</p> <p>第 5～6 回 Unit 3 What's the time?</p> <p>第 7 回 第 1 回試験</p> <p>第 8～9 回 Unit 4 Hometowns</p> <p>第 10～11 回 Unit 5 What's your favorite food?</p> <p>第 12～13 回 Unit 6 How often do you . . . ?</p> <p>第 14 回 第 2 回試験</p> <p>第 15～16 回 Unit 7 Music in Your Life</p> <p>第 17～18 回 Unit 8 Who's older, you or your sister?</p> <p>第 19～20 回 Unit 9 How was your weekend?</p> <p>第 21～23 回 Unit 10 Movies and Dating</p> <p>第 24 回 第 3 回試験</p> <p>第 25～26 回 Unit11 Weather, Seasons, and Health</p> <p>第 27～29 回 Unit12 Cell phones, Computers, and Other Useful Things</p> <p>第 30～31 回 Unit13 Have you ever . . . ?</p> <p>第 32 回 第 4 回試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / ヒアリング / スピーキング / ロールプレイ</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>4 回の試験と毎回の暗誦</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>J. Cronin & E. Bray "Getting Into English" 南雲堂</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>知らない単語や熟語は前もって調べておくこと。</p> <p>中辞典を持っていない学生には“ジーニアス英和辞典”(大修館)をお薦めします。</p>						

英 語 Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	通年	1 単位	30 時間	必修	新宮久子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>英語 I で身に付けた基本的な英会話の世界を広げて、看護の現場で役立つ英語を修得しましょう。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1～2 回 Unit 1: Please speak more slowly.</p> <p>第 3～4 回 Unit 2: Where are you from?</p> <p>第 5～6 回 Unit 3: Could you tell me your address, please?</p> <p>第 7 回 第 1 回試験</p> <p>第 8～9 回 Unit 4: What department do you want to visit?</p> <p>第 10～12 回 Unit 5: Where is the X-ray department?</p> <p>第 13～15 回 Unit 6: What are your symptoms?</p> <p>第 16 回 第 2 回試験</p> <p>第 17～19 回 Unit 7: Where does it hurt?</p> <p>第 20～22 回 Unit 8: Have you ever had any serious illnesses?</p> <p>第 23～24 回 Unit 9: Take one tablet, four times a day.</p> <p>第 25 回 第 3 回試験</p> <p>第 26～27 回 Unit 10: Let me make an appointment for your test.</p> <p>第 28～29 回 Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.</p> <p>第 30～31 回 Unit 12: How are you feeling today?</p> <p>第 32 回 第 4 回試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / ヒアリング / スピーキング / ロールプレイ</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>4 回の試験と毎回の暗誦</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>クリスティーンのやさしい看護英会話 知念クリスティーン 上瀧真紀恵 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>知らない単語はあらかじめ調べておくこと。</p>						

英 語 Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	3 学年	通年	1 単位	30 時間	必修	尾張豊
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>医療系分野全般にわたる英語力の基礎を培い、聞く・話す・読む・書くの4技能を用いる活動を通して、次のような力をつけることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者と接する場面で求められる英語表現を習得し、それを使うことができる。 ・医療従事者が知っておくべき基本的専門語を理解し、使うことができる。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 イントロダクション 英語学習一般及び医療・看護系英語についてのガイダンス</p> <p>第 2 回 Chapter 1 First Encounter with a Patient</p> <p>第 3 回 Chapter 2 Symptoms</p> <p>第 4 回 Review of the prerequisites</p> <p>第 5 回 Chapter 3 Patient Profile</p> <p>第 6 回 Chapter 4 Medical History and Lifestyle Habits</p> <p>第 7 回 中間試験</p> <p>第 8 回 Chapter 5 Unit Orientation</p> <p>第 9 回 Chapter 6 Activities of Daily Living (ADL)</p> <p>第 10 回 Review of the prerequisites</p> <p>第 11 回 Chapter 7 Vital Signs</p> <p>第 12 回 Chapter 8 Tests & Procedures</p> <p>第 13 回 Review of the prerequisites</p> <p>第 14 回 Chapter 9 Medication Administration</p> <p>第 15 回 Chapter 10 Discharge Instructions</p> <p>第 16 回 期末試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>演習 / ペア・グループワークを含む</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>出欠席・授業中の活動・試験の結果を総合的に評価</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>Nursing English in Action～Invest in your future～ <NPO 法人プロフェッショナルイングリッシュコミュニケーション協会> 英和辞典（電子辞書可）<毎時間携帯のこと></p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>必ず準備をして授業に臨み、積極的に参加すること。</p>						

英 語 IV

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																																
基礎分野	4 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	新宮久子																																																
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>短い看護のエピソードを購読します。</p> <p>今後英文を読む機会に役立ちそうな構文を確認しながら、看護のさまざまな面を見ていきましょう。</p> <p>毎回短い会話も取り入れて、これまでに培ってきた会話力が鈍らないようにしましょう。</p>																																																						
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">第1回</td> <td style="width: 60%;">Paid in Full</td> <td style="width: 30%;">／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>A Parade for Lucy</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>Tears for Stephanie</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>The Mirror</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>We Are Diminished by One</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>Therapeutic Touch in Hospice Care</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>第1回試験</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>Dollie's Good-bye</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>Summer Hours</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>Katie's and Millie's Eyes</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>Their Own Songs</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>The Truth About Harry</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>Graduation</td> <td>／短い会話</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>第2回試験</td> <td>／短い会話</td> </tr> </tbody> </table>							第1回	Paid in Full	／短い会話	第2回	A Parade for Lucy	／短い会話	第3回	Tears for Stephanie	／短い会話	第4回	The Mirror	／短い会話	第5回	We Are Diminished by One	／短い会話	第6回	Therapeutic Touch in Hospice Care	／短い会話	第7回	"	／短い会話	第8回	第1回試験	／短い会話	第9回	Dollie's Good-bye	／短い会話	第10回	"	／短い会話	第11回	Summer Hours	／短い会話	第12回	Katie's and Millie's Eyes	／短い会話	第13回	Their Own Songs	／短い会話	第14回	The Truth About Harry	／短い会話	第15回	Graduation	／短い会話	第16回	第2回試験	／短い会話
第1回	Paid in Full	／短い会話																																																				
第2回	A Parade for Lucy	／短い会話																																																				
第3回	Tears for Stephanie	／短い会話																																																				
第4回	The Mirror	／短い会話																																																				
第5回	We Are Diminished by One	／短い会話																																																				
第6回	Therapeutic Touch in Hospice Care	／短い会話																																																				
第7回	"	／短い会話																																																				
第8回	第1回試験	／短い会話																																																				
第9回	Dollie's Good-bye	／短い会話																																																				
第10回	"	／短い会話																																																				
第11回	Summer Hours	／短い会話																																																				
第12回	Katie's and Millie's Eyes	／短い会話																																																				
第13回	Their Own Songs	／短い会話																																																				
第14回	The Truth About Harry	／短い会話																																																				
第15回	Graduation	／短い会話																																																				
第16回	第2回試験	／短い会話																																																				
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習</p>																																																						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / 予習</p>																																																						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>“Silent Partners — 英語で読む看護のエピソード — ” 南雲堂</p> <p>英語Ⅱの教科書（クリスティーンのやさしい看護英会話）</p>																																																						
<p>13 学生への要望</p> <p>予習を欠かさないこと。</p>																																																						

中国語

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	選択	東郷俊宏
8 授業概要および到達目標 中国語の基礎文法を習得し、簡単な挨拶や日常会話を身につけることを目標とした授業です。 教科書に沿って会話の練習を中心に授業を進めます。中国の文化、歴史等について、講義の内容に合わせて紹介し、中国の看護事情等についても紹介する。 1. ピンイン（中国語の発音記号）に従って、中国語の発音の基礎ができるようにする。 2. 基本的な会話能力の習得を目指す。						
9 授 業 計 画 第 1 回 ウォーミングアップ（中国事情紹介、中国はどんな国？、中国語はどんな言葉？）、発音練習 第 2 回 発音練習・第 1 課 あなたのお名前は？ 人称代名詞と「～である」の文法を学習する。 第 3 回 第 2 課 これは何ですか？ 疑問文と「～の～」の文法を学習する。 第 4 回 第 3 課 どこへ行くのですか？ 動詞文、所有を表す「有」の文法を学習する。 第 5 回 第 4 課 この指輪はいくらですか？ 助数詞の使い方、疑問詞の入った文法を学習する。 第 6 回 第 5 課 今晚予定がありますか？ 数字を使って、日付、時刻の表現を学習する。 第 7 回 第 6 課 一週間に何日それをしますか？ 時間量の表現を学習する。 第 8 回 まとめ / 試験 ※毎授業開始時に発音の練習、前回の復習をします。						
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / グループワーク						
11 評 価 方 法 試験 / レポート						
12 教科書及び参考書 ≪最新版≫中国語はじめの一步 白水社刊（CD 付）						
13 学生への要望 中国語で一番難しいのは発音だといわれます。“よく聞く”、“よく話す”を続けることが上達の近道ですので、恥ずかしがること無く、しっかりと声を出して発音の練習をしてください。 また、付属の CD も充分活用ください。						

教 育 原 理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																								
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	選択	柳澤良明																								
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の歴史や制度を理解し、家庭教育、学校教育、社会教育に関する認識を深める。 2. 看護領域に関わる教育の目的や方法を学び、看護教育の諸問題について考察することができる。 3. 教育分野の中で興味・関心あるテーマに関して、自分の見解をプレゼンテーションすることができる。 																														
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 40%;">人間形成と教育</td> <td style="width: 50%;">(教育の理念と制度Ⅰ)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>家庭教育の課題</td> <td>(教育の理念と制度Ⅱ)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>初等教育の課題</td> <td>(教育の理念と制度Ⅲ)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>中等教育の課題</td> <td>(教育の理念と制度Ⅳ)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>高等教育の課題</td> <td>(教育の理念と制度Ⅴ)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>社会教育の課題</td> <td>(教育の理念と制度Ⅵ)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>看護教育の課題</td> <td>(教育の理念と制度Ⅶ)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td colspan="2">まとめ / 試験</td> </tr> </table>							第 1 回	人間形成と教育	(教育の理念と制度Ⅰ)	第 2 回	家庭教育の課題	(教育の理念と制度Ⅱ)	第 3 回	初等教育の課題	(教育の理念と制度Ⅲ)	第 4 回	中等教育の課題	(教育の理念と制度Ⅳ)	第 5 回	高等教育の課題	(教育の理念と制度Ⅴ)	第 6 回	社会教育の課題	(教育の理念と制度Ⅵ)	第 7 回	看護教育の課題	(教育の理念と制度Ⅶ)	第 8 回	まとめ / 試験	
第 1 回	人間形成と教育	(教育の理念と制度Ⅰ)																												
第 2 回	家庭教育の課題	(教育の理念と制度Ⅱ)																												
第 3 回	初等教育の課題	(教育の理念と制度Ⅲ)																												
第 4 回	中等教育の課題	(教育の理念と制度Ⅳ)																												
第 5 回	高等教育の課題	(教育の理念と制度Ⅴ)																												
第 6 回	社会教育の課題	(教育の理念と制度Ⅵ)																												
第 7 回	看護教育の課題	(教育の理念と制度Ⅶ)																												
第 8 回	まとめ / 試験																													
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>																														
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>																														
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。</p>																														
<p>13 学生への要望</p> <p>授業では各自にプレゼンテーションの機会を与えるので、教育分野の中で自分の興味・関心あるテーマを見つけておくこと。</p>																														

教 育 評 価

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	選択	松下文夫
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 教育を評価することの意義を理解し具体的な評価の方法を学ぶことにより、多面的に評価ができる基礎が身につく。</p> <p>2. 4 年次の教育方法論Ⅱに活かすことができる。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 教育評価の意義 / 教育評価の歩みと今日的意義</p> <p>第 2 回 教育活動の目標・評価 / 形成的な評価</p> <p>第 3 回 到達基準に準拠した測定・評価 / 教育評価の分類体系（タキソミー）とその教育的活用</p> <p>第 4 回 学校における評価の実際</p> <p>第 5 回 評価の心理的影響 / 授業・教師・学校の評価</p> <p>第 6 回 わが国における教育評価の展開</p> <p>第 7 回 看護教育における教授・学習目標と評価 看護教育評価の方法</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>『教育評価[補訂版]』 梶田叡一 (有斐閣)</p> <p>ブルーム理論を学ぶ 梶田叡一 明治図書 (参考図書)</p> <p>看護教育評価の基礎と実際 田島桂子 医学書院 (参考図書)</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>教育においては、カリキュラムに沿った学習によって得た子どもの変容と、教育目標との差異を随時検討している。この活動を評価と呼び、良い教育を施すには、この差異を小さくするために教育システムの工夫・改善が必要とされている。ここでは、工夫・改善に関わる諸般の知識・技術の基礎をしっかりと学んでもらいたい。</p>						

教育方法論 I (理論)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	選択	松下文夫
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 教育方法の理論と授業展開に必要な教育技術の基本を学び、わかりやすく興味ある授業にデザインしていく視点を身につける。</p> <p>2. 看護領域における教育目的・方法について理解できる。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 学習はどのように進むか / 教科理解とその指導</p> <p>第 2 回 学習の方法 (教師中心の授業)</p> <p>第 3 回 学習の方法 (学習者中心の授業)</p> <p>第 4 回 個人差に応じた教育</p> <p>第 5 回 他者との相互交渉による学習</p> <p>第 6 回 教授・学習の研究方法</p> <p>第 7 回 看護教育の概念と目的 看護教育方法</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / ビデオ / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / グループ討議への参加状況 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>吉田 甫・栗山 和弘 (編著) 『教室でどう教えるかどう学ぶか』 北大路書房</p> <p>看護教育学 第4版 杉森みどり 舟島なをみ 医学書院 (参考図書)</p> <p>「看護教育評価の基礎と実際」 田島桂子 医学書院 (参考図書)</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>学習指導要領では、目標が「主体的で対話的な深い学び」とあるが、グループでの対話で質の高い学びを得させるところに高いハードルを感じる。ここでは、ヒトに教育はなぜ必要か、ヒトの認知と記憶、動機付けと学習との関係など、最近の諸科学によって教育の原点を学ぶことで、深い学びとは何かを、考えてもらいたい。</p>						

教育方法論Ⅱ（演習）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																		
基礎分野	4 学年	後期	1 単位	30 時間	選択	山下妙子（看護師） 荻田育代（看護師）																		
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の理論を生かし、模擬患者に合った生活指導が教育方法を使って実施できる。 2. 模擬患者に行った教育方法の実際を相互に評価できる。 3. 看護学生に対して模擬患者に合った実技指導ができる。 <p style="padding-left: 20px;">（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践における教育の方法について講義する。）</p>																								
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">第 1 回</td> <td>看護教育の概念と目的、意義 看護教育方法 看護教育評価</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>視覚教材・聴覚教材を用いた教育方法の意義 パンフレット、ポスター、VTR、標示物など</td> </tr> <tr> <td>第 3～5 回</td> <td>模擬患者を設定しパンフレット/ポスターの作成 発表、評価表作成と相互評価</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>体験学習による教育方法の意義 高齢者、妊婦、障害者の体験により対象の安全を重視した指導</td> </tr> <tr> <td>第 7～8 回</td> <td>臨地実習で体験し課題になったコミュニケーション場面の再現と検討</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>事例を通した指導計画、指導案作成</td> </tr> <tr> <td>第 10～11 回</td> <td>指導案作成</td> </tr> <tr> <td>第 12～14 回</td> <td>実技指導の実際（学内演習） 評価表に基づく他者評価</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ / 試験</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">1～8 回 山下妙子（50）・9～15 回 荻田育代（50）</p>							第 1 回	看護教育の概念と目的、意義 看護教育方法 看護教育評価	第 2 回	視覚教材・聴覚教材を用いた教育方法の意義 パンフレット、ポスター、VTR、標示物など	第 3～5 回	模擬患者を設定しパンフレット/ポスターの作成 発表、評価表作成と相互評価	第 6 回	体験学習による教育方法の意義 高齢者、妊婦、障害者の体験により対象の安全を重視した指導	第 7～8 回	臨地実習で体験し課題になったコミュニケーション場面の再現と検討	第 9 回	事例を通した指導計画、指導案作成	第 10～11 回	指導案作成	第 12～14 回	実技指導の実際（学内演習） 評価表に基づく他者評価	第 15 回	まとめ / 試験
第 1 回	看護教育の概念と目的、意義 看護教育方法 看護教育評価																							
第 2 回	視覚教材・聴覚教材を用いた教育方法の意義 パンフレット、ポスター、VTR、標示物など																							
第 3～5 回	模擬患者を設定しパンフレット/ポスターの作成 発表、評価表作成と相互評価																							
第 6 回	体験学習による教育方法の意義 高齢者、妊婦、障害者の体験により対象の安全を重視した指導																							
第 7～8 回	臨地実習で体験し課題になったコミュニケーション場面の再現と検討																							
第 9 回	事例を通した指導計画、指導案作成																							
第 10～11 回	指導案作成																							
第 12～14 回	実技指導の実際（学内演習） 評価表に基づく他者評価																							
第 15 回	まとめ / 試験																							
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習</p>																								
<p>11 評 価 方 法</p> <p>パンフレット等提出物 / 学習態度 / 実技指導 / 筆記試験</p>																								
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 教育学 医学書院（参考図書） 看護教育学 第4版 杉森みどり 舟島なをみ 医学書院（参考図書） 講師持参資料</p>																								
<p>13 学生への要望</p> <p>教育・指導は看護師に求められる看護技術の1つです。学習者から教師へ。教育・指導の実体験を通して教育の楽しさ・難しさを学んで下さい。</p>																								

教 育 心 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	選択	宮地和樹
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>この講義では、学習者の心理と学習過程における心理学的な特徴を学ぶことを目的として行います。具体的には、①対象となる青年期の心理的発達過程について理解し、心理的アプローチができる。②教育学と心理学との関連づけができ、教育上の諸問題点に柔軟に対処する姿勢を身につけることの二つを目標とします。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 教育心理学とは何か</p> <p>第 2 回 発達</p> <p>第 3 回 学習の理論 / 教授と学習</p> <p>第 4 回 人格</p> <p>第 5 回 適応と指導</p> <p>第 6 回 社会性の発達</p> <p>第 7 回 教師の悩み / 学校教育が持つ意義</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>それぞれの内容をよく理解しその意味を熟知しながら進めていくこと。また、授業の最後に毎回感想と質問を書いてもらいます。</p>						

解剖生理学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	山内高圓
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>解剖生理学は、医学体系の中でも基礎となる領域である。人体の構造と機能がもとになって、病気のなりたちをはじめとしてすべての科目に関連性を持っている。人体の構造と機能の知識が、看護学の理解へとつながることを認識し、病気との関係について学ぶ。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 人体の発生、細胞・組織学</p> <p>第 2 回 生殖器</p> <p>第 3 回 免疫器官</p> <p>第 4 回 循環器</p> <p>第 5 回 中枢神経</p> <p>第 6 回 末梢神経</p> <p>第 7 回 消化管</p> <p>第 8 回 肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜</p> <p>第 9 回 軟骨および骨の構造</p> <p>第 10 回 全身の骨格</p> <p>第 11 回 筋の構造</p> <p>第 12 回 全身の筋</p> <p>第 13 回 呼吸器、泌尿器、内分泌器</p> <p>第 14 回 感覚器：目、鼻耳、皮膚</p> <p>第 15 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本 / 人体解剖見学</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>この科目はすべての分野の基礎となるので、きちんと理解、記憶して欲しい。人の生命との関連を考え学習して欲しい。</p>						

解剖生理学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	山西重機
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>解剖生理学は、医学体系の中でも基礎となる領域である。人体の構造と機能がもとになって、病気のなりたちをはじめとしてすべての科目に関連性を持っている。人体の構造と機能の知識が、看護学の理解へとつながることを認識し、病気との関係について学ぶ。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 細胞の構造と機能</p> <p>第 2 回 血液と体液の組成と働き</p> <p>第 3 回 循環器系のしくみと機能</p> <p>第 4 回 消化器系の構成と働き</p> <p>第 5 回 栄養と代謝の調節</p> <p>第 6 回 腎臓の機能と尿の生成</p> <p>第 7 回 体温の調節と発熱</p> <p>第 8 回 内分泌による調節</p> <p>第 9 回 自律神経系による調節</p> <p>第 10 回 情報の受容と処理 (神経系の構造と機能)</p> <p>第 11 回 情報の受容と処理 (運動機能)</p> <p>第 12 回 情報の受容と処理 (感覚器系のはたらき)</p> <p>第 13 回 情報の受容と処理 (脳の高次機能)</p> <p>第 14 回 生殖・発生と老化のしくみ</p> <p>第 15 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>この科目はすべての分野の基礎となるので、きちんと記憶、理解して欲しい。人の生命との関連を考え学習して欲しい。</p>						

病 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	成澤裕子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>疾病の成り立ちや機能と基本的疾病について学び、その病因、病理発生について理解する。</p> <p>病理学総論では疾病の成り立ちを理解する上で重要な基本的病変について学ぶ。各論では、総論で学んだ基礎事項をふまえながら、臓器別に代表的疾患について、その病因・病理発生について学ぶ。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 病理学とは</p> <p>第 2 回 代謝障害</p> <p>第 3 回 循環障害</p> <p>第 4 回 炎症</p> <p>第 5 回 感染症と免疫、膠原病</p> <p>第 6 回 腫瘍</p> <p>第 7 回 老化と死</p> <p>第 8 回 循環器系の疾患</p> <p>第 9 回 血液・造血器系の疾患</p> <p>第 10 回 呼吸器系の疾患</p> <p>第 11 回 消化器系の疾患</p> <p>第 12 回 腎・泌尿器・生殖・内分泌系の疾患</p> <p>第 13 回 脳・神経・筋肉系の疾患</p> <p>第 14 回 骨・関節・耳・眼・皮膚の疾患</p> <p>第 15 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本 / 人体解剖見学</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>他科目との関連のある科目のためしっかり学習すること。</p> <p>特に解剖生理学を想起し復習しながら授業に臨むこと。</p>						

生 化 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	平峯千春																																
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命現象が、多数の化学物質による化学反応から成り立っていることを理解する。 2. 人体の機能が生体組織のどのような細胞の機能に結びついているか、どのような化学現象と結びついているか、いかにして生体の恒常性が保たれているかを理解する。 3. 遺伝子および遺伝情報とその発現について理解する。 																																						
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第 1 回</td><td>生化学を学ぶための基礎知識</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>代謝の基礎と酵素・補酵素</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>ビタミン、酵素の反応速度、酵素阻害</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>糖質の構造と機能</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>糖質代謝（グルコースの分解、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>糖質代謝（グリコーゲン代謝、糖新生）</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>脂質の構造と機能</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>脂質代謝</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>タンパク質の構造と機能</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>タンパク質代謝</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>ポルフィリン代謝と異物代謝</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>遺伝と核酸</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>遺伝子の複製・修復・組換え</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>遺伝子の転写・翻訳</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>細胞のシグナル伝達、内分泌の生化学的基盤、がん</td></tr> <tr><td>第 16 回</td><td>試験</td></tr> </table>							第 1 回	生化学を学ぶための基礎知識	第 2 回	代謝の基礎と酵素・補酵素	第 3 回	ビタミン、酵素の反応速度、酵素阻害	第 4 回	糖質の構造と機能	第 5 回	糖質代謝（グルコースの分解、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）	第 6 回	糖質代謝（グリコーゲン代謝、糖新生）	第 7 回	脂質の構造と機能	第 8 回	脂質代謝	第 9 回	タンパク質の構造と機能	第 10 回	タンパク質代謝	第 11 回	ポルフィリン代謝と異物代謝	第 12 回	遺伝と核酸	第 13 回	遺伝子の複製・修復・組換え	第 14 回	遺伝子の転写・翻訳	第 15 回	細胞のシグナル伝達、内分泌の生化学的基盤、がん	第 16 回	試験
第 1 回	生化学を学ぶための基礎知識																																					
第 2 回	代謝の基礎と酵素・補酵素																																					
第 3 回	ビタミン、酵素の反応速度、酵素阻害																																					
第 4 回	糖質の構造と機能																																					
第 5 回	糖質代謝（グルコースの分解、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）																																					
第 6 回	糖質代謝（グリコーゲン代謝、糖新生）																																					
第 7 回	脂質の構造と機能																																					
第 8 回	脂質代謝																																					
第 9 回	タンパク質の構造と機能																																					
第 10 回	タンパク質代謝																																					
第 11 回	ポルフィリン代謝と異物代謝																																					
第 12 回	遺伝と核酸																																					
第 13 回	遺伝子の複製・修復・組換え																																					
第 14 回	遺伝子の転写・翻訳																																					
第 15 回	細胞のシグナル伝達、内分泌の生化学的基盤、がん																																					
第 16 回	試験																																					
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>																																						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート/試験</p>																																						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能② 生化学 医学書院</p>																																						
<p>13 学生への要望</p> <p>各章終了時に、ゼミナールの問題で必ず復習しておくこと。</p> <p>種々の生体機能の中で、正常から異常（疾患）へと変化する際に、どの物質・どの経路が関連するのかを意識しながら学んで欲しい。</p>																																						

微 生 物 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	山西重機
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の疾患に関わる微生物の分類や形態・特徴を知り、感染予防・化学療法など理解する。 2. 人の疾患に関わる微生物の分類、形態、発育とそれに関与する因子、微生物による免疫を中心とする免疫学、感染、消毒、滅菌、院内感染とその予防、主要感染症化学療法を理解し、各種疾患における生体防御機構についての基礎概念を学ぶ。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 微生物と微生物学</p> <p>第 2 回 細菌の性質</p> <p>第 3 回 真菌の性質</p> <p>第 4 回 原虫の性質</p> <p>第 5 回 ウイルスの性質</p> <p>第 6 回 感染と感染症</p> <p>第 7 回 感染に対する生体防御機構</p> <p>第 8 回 感染源・感染経路からみた感染症</p> <p>第 9 回 感染症の予防</p> <p>第 10 回 感染症の診断</p> <p>第 11 回 感染症の治療</p> <p>第 12 回 感染症の現状と対策</p> <p>第 13 回 病原細菌と細菌感染症</p> <p>第 14 回 真菌・原虫と感染症・ウイルス感染症</p> <p>第 15 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>臨床での感染予防に役立てて欲しい。</p>						

疾 病 と 治 療 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																								
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	古川正強																								
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>疾病の成り立ちと回復の促進について学び、呼吸器・消化器・循環器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。主に症候から病態を把握し、疾患に合った適切な看護につなげる。</p>																														
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 20%;">呼吸器系疾患</td> <td style="width: 70%;">構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td></td> <td>症状とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td></td> <td>検査、治療・処置</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（感染症、間質性肺炎、気道疾患、）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（肺血栓塞栓症、呼吸不全）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常）</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、胸部外傷）</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>試験</td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	呼吸器系疾患	構造と機能	第 2 回		症状とその病態生理	第 3 回		検査、治療・処置	第 4 回		疾患の理解（感染症、間質性肺炎、気道疾患、）	第 5 回		疾患の理解（肺血栓塞栓症、呼吸不全）	第 6 回		疾患の理解（肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常）	第 7 回		疾患の理解（胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、胸部外傷）	第 8 回	試験	
第 1 回	呼吸器系疾患	構造と機能																												
第 2 回		症状とその病態生理																												
第 3 回		検査、治療・処置																												
第 4 回		疾患の理解（感染症、間質性肺炎、気道疾患、）																												
第 5 回		疾患の理解（肺血栓塞栓症、呼吸不全）																												
第 6 回		疾患の理解（肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常）																												
第 7 回		疾患の理解（胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、胸部外傷）																												
第 8 回	試験																													
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>																														
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																														
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②呼吸器 医学書院</p>																														
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。各系統別看護につなげる。</p>																														

疾 病 と 治 療 Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	須崎規之 次田誠 六車輝美 (看護師)
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 血液・造血器・内分泌・アレルギーの構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。</p> <p>2. 医学知識を身につけ、科学的根拠に基づいた看護に生かすことができる。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が血液疾患に対する病態・検査・治療について講義する。)</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 血液造血器疾患の症状と病態生理</p> <p>第 2 回 血液疾患の理解</p> <p>第 3 回 血液疾患の検査と治療</p> <p>第 4 回 内分泌代謝疾患の症状と病態生理、検査と治療</p> <p>第 5 回 内分泌・代謝疾患の理解</p> <p>第 6 回 アレルギー反応とその機序、検査と治療</p> <p>第 7 回 アレルギー疾患の理解</p> <p>第 8 回 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～3 回、8 回 六車輝美 (40)・第 4～5 回 次田誠 (30)・第 6～7 回 須崎規之 (30)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学④血液・造血器 ⑥内分泌・代謝 ⑩アレルギー 膠原病 感染症 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し、疾患の理解につなげること。 各系統別看護につなげる。</p>						

疾 病 と 治 療 Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	東藤智
8 授業概要および到達目標						
1. 脳・神経・筋・骨関節・運動器疾患の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。 2. 疾病の成り立ちと回復の促進を理解し、科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、看護につなげることができる。						
9 授 業 計 画						
第 1 回	脳・神経系の疾患	構造と機能	脳・神経系の症状とその病態生理	検査と治療		
第 2 回	疾患の理解	(脳疾患)				
第 3 回	疾患の理解	(脊髄疾患、末梢神経疾患、神経・筋疾患)				
第 4 回	疾患の理解	(脳神経系の感染症、中毒、てんかん、認知症)				
第 5 回	運動器系の疾患	構造と機能	症状とその病態生理	検査・治療		
第 6 回	疾患の理解	(先天性疾患、骨折、脱臼)				
第 7 回	疾患の理解	(捻挫および打撲、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍、骨系統疾患、代謝性骨疾患)				
	疾患の理解	(筋および腱の疾患、麻痺性疾患、上肢および上肢帯の疾患、脊椎の疾患、下肢および下肢帯の疾患)				
第 8 回	まとめ / 試験					
10 学 習 方 法						
講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本						
11 評 価 方 法						
レポート / 試験						
12 教科書及び参考書						
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑦脳・神経 ⑩運動器 医学書院						
13 学生への要望						
解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。						
運動器疾患患者の看護につなげること。						

疾 病 と 治 療 IV

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	3 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	中江秀美（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 疾病の成り立ちと回復の促進について学び、母性疾患の構造と機能・病態生理について理解する。</p> <p>2. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常について学び、診断、治療過程から看護につなげるよう理解する。 （病院の産科に携わった経験を持つ教員が母性疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 妊娠の異常（ハイリスク妊娠）</p> <p>第 2 回 妊娠の異常（妊娠期の感染症）</p> <p>第 3 回 妊娠の異常（多胎・異所性妊娠）</p> <p>第 4 回 分娩の異常（産道・娩出力の異常）</p> <p>第 5 回 分娩の異常（産道・娩出力胎児附属物の異常）</p> <p>第 6 回 産褥の異常</p> <p>第 7 回 新生児の異常</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。</p>						

疾 病 と 治 療 V

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	古川正強
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 小児疾患の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。</p> <p>2. 疾病の成り立ちと回復の促進について学び、疾患と病態生理を科学的に理解し、適切な看護につなげられる。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 小児染色体異常の主な疾患/新生児の主な疾患</p> <p>第 2 回 小児代謝性疾患 / 内分泌 / 免疫アレルギー疾患・感染症</p> <p>第 3 回 小児の呼吸器 / 循環器 / 消化器疾患</p> <p>第 4 回 小児の血液造血器疾患 / 悪性新生物 / 腎泌尿器疾患</p> <p>第 5 回 小児の神経疾患 / 運動器疾患 / 皮膚疾患</p> <p>第 6 回 小児の眼疾患 / 耳鼻咽喉疾患 / 精神疾患</p> <p>第 7 回 小児の事故 / 外傷</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。</p>						

疾 病 と 治 療 VI

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																								
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	古川正強																								
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>疾病の成り立ちと回復の促進について学び、消化器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。主に症候から病態を把握し、疾患に合った適切な看護につなげる。</p>																														
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">第 1 回</td> <td style="width: 15%;">消化器系の疾患</td> <td style="width: 70%;">構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td></td> <td>症状とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td></td> <td>検査と治療・処置（治療と診断の流れ、検査）</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td></td> <td>検査と治療・処置（治療・処置）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（食道の疾患、胃・十二指腸疾患、腸および腹膜疾患）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（肝臓・胆嚢の疾患）</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（膵臓の疾患、急性腹症、腹部外傷）</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>試験</td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	消化器系の疾患	構造と機能	第 2 回		症状とその病態生理	第 3 回		検査と治療・処置（治療と診断の流れ、検査）	第 4 回		検査と治療・処置（治療・処置）	第 5 回		疾患の理解（食道の疾患、胃・十二指腸疾患、腸および腹膜疾患）	第 6 回		疾患の理解（肝臓・胆嚢の疾患）	第 7 回		疾患の理解（膵臓の疾患、急性腹症、腹部外傷）	第 8 回	試験	
第 1 回	消化器系の疾患	構造と機能																												
第 2 回		症状とその病態生理																												
第 3 回		検査と治療・処置（治療と診断の流れ、検査）																												
第 4 回		検査と治療・処置（治療・処置）																												
第 5 回		疾患の理解（食道の疾患、胃・十二指腸疾患、腸および腹膜疾患）																												
第 6 回		疾患の理解（肝臓・胆嚢の疾患）																												
第 7 回		疾患の理解（膵臓の疾患、急性腹症、腹部外傷）																												
第 8 回	試験																													
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>																														
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																														
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤消化器 医学書院</p>																														
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげる。各系統別看護につなげる。</p>																														

疾 病 と 治 療 VII

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																								
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	古川正強																								
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>疾病の成り立ちと回復の促進について学び、循環器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。主に症候から病態を把握し、疾患に合った適切な看護につなげる。</p>																														
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 20%;">循環器系の疾患</td> <td>構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td></td> <td>症状とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td></td> <td>検査と治療・処置（診察と診断の流れ、検査）</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td></td> <td>検査と治療・処置（治療・処置）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（虚血性心疾患、心不全、血圧異常）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋疾患、肺性心）</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td></td> <td>疾患の理解（先天性心疾患、動脈系・静脈系・リンパ系疾患、高脂血症）</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>試験</td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	循環器系の疾患	構造と機能	第 2 回		症状とその病態生理	第 3 回		検査と治療・処置（診察と診断の流れ、検査）	第 4 回		検査と治療・処置（治療・処置）	第 5 回		疾患の理解（虚血性心疾患、心不全、血圧異常）	第 6 回		疾患の理解（不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋疾患、肺性心）	第 7 回		疾患の理解（先天性心疾患、動脈系・静脈系・リンパ系疾患、高脂血症）	第 8 回	試験	
第 1 回	循環器系の疾患	構造と機能																												
第 2 回		症状とその病態生理																												
第 3 回		検査と治療・処置（診察と診断の流れ、検査）																												
第 4 回		検査と治療・処置（治療・処置）																												
第 5 回		疾患の理解（虚血性心疾患、心不全、血圧異常）																												
第 6 回		疾患の理解（不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋疾患、肺性心）																												
第 7 回		疾患の理解（先天性心疾患、動脈系・静脈系・リンパ系疾患、高脂血症）																												
第 8 回	試験																													
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>																														
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																														
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学③循環器 医学書院</p>																														
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。</p>																														

疾 病 と 治 療 VIII

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	丸川将臣 次田誠 小泉敬子 (看護師)
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 膠原病・感染症、腎・泌尿器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。</p> <p>2. 医学知識を身につけ、科学的根拠に基づいた看護に生かすことができる。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が腎泌尿器疾患に対する病態・検査・治療について講義する。)</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 膠原病における免疫学・症状と病態生/検査と治療</p> <p>第 2 回 膠原病の理解</p> <p>第 3 回 感染のメカニズムと予防/症状と病態生理</p> <p>第 4 回 感染症疾患の理解</p> <p>第 5 回 腎・泌尿器疾患の理解</p> <p>第 6 回 腎泌尿器疾患の症状と病態生理</p> <p>第 7 回 腎泌尿器疾患の検査と治療</p> <p>第 8 回 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～2 回 次田誠 (30)・第 3～4 回 丸川将臣 (30)・第 5～8 回 小泉敬子 (40)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑧腎・泌尿器 ⑩アレルギー 膠原病 感染症 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。</p>						

疾 病 と 治 療 Ⅸ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	金岡文 大垣修一 中江秀美（看護師） 小泉敬子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 生殖器・感覚器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。</p> <p>2. 医学知識を身につけ、科学的根拠に基づいた看護に生かすことができる。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が女性生殖器・皮膚・耳鼻咽喉疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 女性生殖器疾患の症状と病態生理 検査と治療</p> <p>第 2 回 女性生殖器疾患の理解</p> <p>第 3 回 眼疾患の症状と病態生理 検査と治療</p> <p>第 4 回 眼疾患の理解</p> <p>第 5 回 皮膚疾患の症状と病態生理 検査と治療 皮膚疾患の理解</p> <p>第 6 回 耳鼻咽喉頭疾患の症状と病態生理 検査と治療 耳鼻咽喉頭疾患の理解</p> <p>第 7 回 歯・口腔疾患の症状とその病態生理 検査と治療</p> <p>第 8 回 歯・口腔疾患の理解</p> <p>第 9 回 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～2 回 中江秀美（25）・第 3～4 回 大垣修一（25）・第 5～6 回 小泉敬子（25）・ 第 7～8 回 金岡文（25）</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 ⑨女性生殖器 ⑬眼 ⑭耳鼻咽喉 ⑮歯・口腔 ⑯皮膚 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。</p>						

リハビリテーション医学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	東藤智
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害とはどういうことか学び、さまざまな障害に対する理解を深める。 2. リハビリテーションのしくみや疾病の成り立ちと病態を把握し、回復への促進と精神的・身体的・社会的に具体的なリハビリテーションについて学ぶ。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 リハビリテーション概論</p> <p>第 2 回 運動器系の障害とリハビリテーション（骨折・関節リウマチ）</p> <p>第 3 回 中枢神経系の障害とリハビリテーション（脳血管障害）</p> <p>第 4 回 中枢神経系の障害とリハビリテーション（パーキンソン病）</p> <p>第 5 回 中枢神経系の障害とリハビリテーション（脊髄損傷）</p> <p>第 6 回 呼吸器・循環器系障害とリハビリテーション</p> <p>第 7 回 障害とリハビリテーション</p> <p style="padding-left: 40px;">1) 移動技術・杖歩行、その他</p> <p style="padding-left: 40px;">2) 運動訓練</p> <p style="padding-left: 40px;">3) 自助・補助用具について</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>すべての疾患において必要とされるリハビリテーションの考え方と実技を臨地実習で応用できるようにして欲しい。</p>						

薬理学・薬物療法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	吉村友良 佐藤アキ
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>薬効の発生機序、作用特性、有害作用などの知識を学び、各疾患に対する薬物療法を理論的に習得すると共に、薬物の管理方法や扱いについて理解する。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 薬理学の基礎知識 第 2 回 薬理学の基礎知識 第 3 回 薬理学の基礎知識（処方せん、添付文書情報を含む） 第 4 回 抗感染薬 第 5 回 抗がん薬、免疫治療薬 第 6 回 抗アレルギー薬・抗炎症薬 第 7 回 末梢神経作用薬 第 8 回 中枢神経作用薬 第 9 回 中枢神経作用薬 第 10 回 心臓・血管系作用薬 第 11 回 呼吸器・消化器・生殖器系作用薬 第 12 回 物質代謝作用薬 第 13 回 皮膚・眼科用薬、漢方薬 第 14 回 救急時使用薬、中毒時使用薬 第 15 回 消毒薬・輸液・輸血剤 第 16 回 試験</p> <p style="text-align: right;">第 1～10、16 回 吉村友良・第 11～15 回 佐藤アキ (100)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験等</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>看護師はもっとも患者に身近な存在であり、薬のことを聞かれることも多いので、薬物の作用・副作用だけでなく、取り扱いや管理も学んで欲しい。</p>						

栄養学・食事療法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																														
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	村川みなみ																														
8 授業概要および到達目標 [概要] 栄養学の基礎として、栄養素の中心を学びます。エネルギー産生栄養素の代謝を知るために必要なキーワードを理解します。食品と栄養素の関係、栄養素の役割、特性などの身体と食事の関係を知るために必要な基本的な知識を理解します。 [到達目標] 1. 食物と栄養の関係、栄養素などの身体内での働きや代謝を理解し、ライフステージ毎の栄養特性を学ぶ。 2. 栄養と疾病・障害の関係を知り食事療法について理解し、調理実習を行い、その理解を深める。																																				
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第 1 回</td><td>オリエンテーション、栄養学・食事療法の概要</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>栄養素の種類とはたらき① 糖質の栄養</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>栄養素の種類とはたらき② 脂質の栄養</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>栄養素の種類とはたらき③ たんぱく質の栄養</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>栄養素の種類とはたらき④ ビタミン・ミネラルの栄養</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>栄養素の消化・吸収・代謝</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>ライフステージと栄養①母性栄養と小児栄養の特性とその特徴</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>ライフステージと栄養②成人栄養と老年期栄養の特性とその特徴</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>臨床栄養①栄養ケアの概要 (1)</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>臨床栄養②栄養ケアの概要 (2)</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>臨床栄養③治療食の基礎</td></tr> <tr><td>第 12・13 回</td><td>調理実習：エネルギーコントロール食の実際</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>臨床栄養④疾患別治療食の基本 (1)</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>臨床栄養⑤疾患別治療食の基本 (2)</td></tr> <tr><td>第 16 回</td><td>試験</td></tr> </table>							第 1 回	オリエンテーション、栄養学・食事療法の概要	第 2 回	栄養素の種類とはたらき① 糖質の栄養	第 3 回	栄養素の種類とはたらき② 脂質の栄養	第 4 回	栄養素の種類とはたらき③ たんぱく質の栄養	第 5 回	栄養素の種類とはたらき④ ビタミン・ミネラルの栄養	第 6 回	栄養素の消化・吸収・代謝	第 7 回	ライフステージと栄養①母性栄養と小児栄養の特性とその特徴	第 8 回	ライフステージと栄養②成人栄養と老年期栄養の特性とその特徴	第 9 回	臨床栄養①栄養ケアの概要 (1)	第 10 回	臨床栄養②栄養ケアの概要 (2)	第 11 回	臨床栄養③治療食の基礎	第 12・13 回	調理実習：エネルギーコントロール食の実際	第 14 回	臨床栄養④疾患別治療食の基本 (1)	第 15 回	臨床栄養⑤疾患別治療食の基本 (2)	第 16 回	試験
第 1 回	オリエンテーション、栄養学・食事療法の概要																																			
第 2 回	栄養素の種類とはたらき① 糖質の栄養																																			
第 3 回	栄養素の種類とはたらき② 脂質の栄養																																			
第 4 回	栄養素の種類とはたらき③ たんぱく質の栄養																																			
第 5 回	栄養素の種類とはたらき④ ビタミン・ミネラルの栄養																																			
第 6 回	栄養素の消化・吸収・代謝																																			
第 7 回	ライフステージと栄養①母性栄養と小児栄養の特性とその特徴																																			
第 8 回	ライフステージと栄養②成人栄養と老年期栄養の特性とその特徴																																			
第 9 回	臨床栄養①栄養ケアの概要 (1)																																			
第 10 回	臨床栄養②栄養ケアの概要 (2)																																			
第 11 回	臨床栄養③治療食の基礎																																			
第 12・13 回	調理実習：エネルギーコントロール食の実際																																			
第 14 回	臨床栄養④疾患別治療食の基本 (1)																																			
第 15 回	臨床栄養⑤疾患別治療食の基本 (2)																																			
第 16 回	試験																																			
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / 調理実習																																				
11 評 価 方 法 提出物/ 試験などから総合的に判断する。																																				
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 その他、参考図書等については、授業でその都度紹介する。																																				
13 学生への要望 ①生化学、生理学等で学ぶことをよく理解した上で授業に臨んでください。 ②学ぶことは、自身の生活に直結していますので、知識を生活に取り入れてください。 ③復習をしっかりとってください。テキストや参考書をよく読んで理解の助けにして、質問もあれば積極的に行ってください。 ④調理実習では、体調管理、衛生管理に気をつけてください。事前に配布される資料をよく読んでください。																																				

臨床検査学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	立石謹也																
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態把握に必要な検査の目的や方法を知り、検査データの査定について学ぶ。 2. 臨床検査が医療の中で果たす役割を理解すると共に、患者への説明責任、業務上の注意点、心得を理解する。 3. 病態把握に必要な検査の目的やデータの基準範囲を学ぶ。 																						
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td>臨床検査とその役割</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>一般検査・血液検査</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>化学検査</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>免疫・血清検査</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>ホルモン検査</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>微生物検査</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>臨床検査値の読み方 病理検査・生理機能検査</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>まとめ / 試験</td> </tr> </table>							第 1 回	臨床検査とその役割	第 2 回	一般検査・血液検査	第 3 回	化学検査	第 4 回	免疫・血清検査	第 5 回	ホルモン検査	第 6 回	微生物検査	第 7 回	臨床検査値の読み方 病理検査・生理機能検査	第 8 回	まとめ / 試験
第 1 回	臨床検査とその役割																					
第 2 回	一般検査・血液検査																					
第 3 回	化学検査																					
第 4 回	免疫・血清検査																					
第 5 回	ホルモン検査																					
第 6 回	微生物検査																					
第 7 回	臨床検査値の読み方 病理検査・生理機能検査																					
第 8 回	まとめ / 試験																					
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本 / 検査</p>																						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院</p>																						
<p>13 学生への要望</p> <p>患者の状態を把握したり、治療を行う上で検査データの査定は重要である。臨床で検査データの判断ができるようになって欲しい。</p>																						

医療経済論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	平尾智広 渡邊照代
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. わが国の医療保険の仕組みや現状を知り医療が抱える問題を理解する。</p> <p>2. 看護職として調整、カウンセリング、コンサルタント、意思決定など臨床実践能力に必要な経済理論を学び、医療保険のしくみや現状、今後の展望、医療が抱える問題などを医療者サイド、患者サイドの両サイドから理解する。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 医療サービスの経済的特長</p> <p>第 2 回 人々の健康と生活</p> <p>第 3 回 医療経済について</p> <p>第 4 回 社会保障の供給と資格制度について</p> <p>第 5 回 経済発展と国民の水準との関連</p> <p>第 6 回 これからの看護活動</p> <p>第 7 回 これからの医療経済</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～2 回 平尾智広・第 3～8 回渡邊照代 (100)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / VTR</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>配布資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>看護職として患者の相談に応える知識を身につけ、患者が意思決定できるように役立てて欲しい。</p>						

医療行政論（関係法規）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	高木耕司
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の理念と基本的な制度、医療に関する関係法規を理解する。 2. 生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について考え、理解する。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 法規の概念 / 医療法規（保健師助産師看護師法、医師法、医療法など）</p> <p>第 2 回 医事法規（看護師の人材確保の促進に関する法律など）</p> <p>第 3 回 薬事法規</p> <p>第 4 回 保健衛生法規</p> <p>第 5 回 予防衛生法規 / 環境衛生法規</p> <p>第 6 回 公害関係法規 / 福祉関係法規</p> <p>第 7 回 その他の関係法規</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>配付資料</p> <p>保健医療福祉の仕組み・看護と法律 メヂカルフレンド社</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>医療、看護に携わる人の身分や業務が法令で規制されていることを理解し、より良い安全な看護を行なうようにしてください。</p>						

公衆衛生学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	須那滋
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>公衆衛生の目的は、組織的な社会の活動と努力を通じて、地域に暮らす全ての人々の健康を保持増進することである。公衆衛生学ではそのための理論と方法について学ぶが、講義では、まず公衆衛生学の成り立ちと発展、保健・医療における疾病予防の概念、わが国の健康水準、疫学的方法論等について学習し、さらに、地域、学校、産業の場における公衆衛生の制度と保健衛生活動の実際について学習していく。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 健康と公衆衛生：公衆衛生の定義、健康の概念、公衆衛生の歴史、憲法・法・制度</p> <p>第 2 回 健康と公衆衛生：包括的保健医療、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション</p> <p>第 3 回 人口と公衆衛生：出生、人口の年齢構造、死亡</p> <p>第 4 回 人口と公衆衛生：平均寿命、国民の傷病と健康</p> <p>第 5 回 疫学と公衆衛生：記述疫学と分析疫学</p> <p>第 6 回 疫学と公衆衛生：演習</p> <p>第 7 回 感染症対策</p> <p>第 8 回 環境と健康：公害、大気汚染、水質汚濁</p> <p>第 9 回 環境と健康：廃棄物問題、地球環境</p> <p>第 10 回 地域保健：栄養改善、国民栄養、食品保健対策</p> <p>第 11 回 地域保健：母子保健、成人・老人保健、老人福祉、精神保健福祉</p> <p>第 12 回 学校保健：学齢期の健康、保健管理と保健教育、学校環境衛生、学校給食</p> <p>第 13 回 産業保健：労働衛生行政、労働衛生管理体制、健康保持増進対策、労災補償</p> <p>第 14 回 産業保健：作業環境管理、作業管理、生物学的モニタリング</p> <p>第 15 回 産業保健：健康管理、産業中毒、職業病、作業関連疾患ほか</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>出席 / レポート / 試験など</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院</p> <p>厚生統計協会編集 『国民衛生の動向』</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>公衆衛生学は自然科学から社会科学まで、きわめて広範囲の応用科学により成り立つ実践的な学問であり、このため総合的な理解力が要求されることを念頭に置き、学習してほしい。</p>						

社会福祉概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	山下妙子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 社会福祉の基本理念、人間に対する視座について理解する。</p> <p>2. 社会福祉の歴史を通して、人間が社会的問題にどう関わってきたか理解する。</p> <p>3. 社会保障の制度全体を把握しつつ、医療・看護との関連分野との連携について理解する。 （病院の看護業務に携わった経験を持ち、社会福祉分野の資格を有する教員が社会福祉について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 社会福祉とは何か― 社会福祉の基本理念について</p> <p>第 2 回 社会福祉の対象― 歴史に学ぶ</p> <p>第 3 回 社会保障制度と社会福祉 / 社会福祉の動向</p> <p>第 4 回 医療保障 / 介護保障</p> <p>第 5 回 所得保障 / 公的扶助</p> <p>第 6 回 社会福祉の分野とサービス</p> <p>第 7 回 社会福祉実践と医療・看護</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループ討議</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>限られた回数で全体像を把握しなければならないので、予習を必ずすること。 講義は学生の発表・討論を主体とするので、積極的に発言すること。</p>						

地域福祉論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	3 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	山下妙子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>医療・看護の目的を達成する上での社会福祉との連携の重要性を理解し、連携に関する基本的事項や実際の方法が理解できる。</p> <p>1. 地域福祉の理念と内容が理解できる。</p> <p>2. 地域福祉の推進方法が理解できる。</p> <p>3. 事例を活用し、実際の場面を想定しながら、医療機関や地域との連携について考えられる。 （病院の看護業務に携わった経験を持ち、社会福祉分野の資格を有する教員が社会福祉について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 現代社会におけるコミュニティと地域福祉 現代における地域社会の変容 / 現代社会におけるコミュニティの意味 / 地域福祉とコミュニティ 地域福祉の理念とその展開 地域福祉[理念]の発達 / 地域福祉の概念と範囲 / 地域福祉の展開</p> <p>第 2 回 地域福祉のサービス体系 地域福祉サービスのネットワーク / 地域福祉の構成</p> <p>第 3 回 地域福祉の推進方法 地域福祉ニーズの把握とコミュニティワーク / 地域福祉計画 / 福祉教育 / 地域福祉の財源</p> <p>第 4 回 地域福祉の実際 地域福祉サービスの供給主体 / 関連行政施策との共同化、有機化 / 地域福祉のマンパワー</p> <p>第 5 回 地域福祉の相談援助活動 地域福祉における相談援助活動の意義と特質 / 相談援助活動の展開と留意点</p> <p>第 6 回 社会福祉と医療・看護— 連携とその実際</p> <p>第 7 回 地域福祉における相談援助の事例研究</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 医学書院 社会福祉士養成講座 7 地域福祉論（第 4 版）福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>地域福祉に関しては多くの出版物があるので図書館などで目を通しておくこと。</p>						

東 洋 医 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	松木宣嘉
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>統合医療の考え方について理解できる。</p> <p>統合医療に用いられる、補完代替医療や伝統医療の位置づけが理解できる。</p> <p>伝統医療の一部である東洋医学の考え方が理解できる。</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 統合医療とは</p> <p>第 2～3 回 統合医療に用いる補完代替医療</p> <p>第 4～5 回 東洋医学とその運用</p> <p>第 6～7 回 EBM と東洋医学</p> <p>第 8 回 東洋医学的身体観 1 気血水</p> <p>第 9 回 東洋医学的身体観 2 臓腑経絡</p> <p>第 10 回 東洋医学的疾病観 3 診察法</p> <p>第 11～12 回 実技デモンストレーション</p> <p>第 13～14 回 漢方の利用</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 実技</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>授業後レポート(2,000 字)にて評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>担当講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>積極的に質問してほしい。</p>						

リラクゼーション方法論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																													
専門基礎分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	大麻陽子																																													
8 授業概要および到達目標 1. 看護の基本は“手当て”である。手を用いたケアの有用性を自覚し実践する。 2. タクティールケア（背中、手、足）ができる。 3. 東洋医学の考え方を理解し、マッサージやお灸などセルフケアに活かすことができる。																																																			
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1～2 回</td> <td style="width: 10%;">講義</td> <td>日本の三大手技療法（あん摩マッサージ指圧）の歴史や手技の特徴について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>マッサージの基本手技</td> </tr> <tr> <td>第 3～4 回</td> <td>講義</td> <td>からだのバランスチェックとマッサージの効果</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>マッサージの基本手技</td> </tr> <tr> <td>第 5～6 回</td> <td>講義</td> <td>手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>背中のタクティールケア</td> </tr> <tr> <td>第 7～8 回</td> <td>講義</td> <td>手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>手のタクティールケア</td> </tr> <tr> <td>第 9～10 回</td> <td>講義</td> <td>手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識③</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>背中・手・足のタクティールケアの復習</td> </tr> <tr> <td>第 11～12 回</td> <td>講義</td> <td>東洋医学のお灸とツボ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>各種お灸の体験とセルフケア</td> </tr> <tr> <td>第 13・14 回</td> <td>講義</td> <td>東洋医学で体質チェック</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技</td> <td>症状別のツボ療法とセルフケア</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td></td> <td>まとめとタクティールケアの実技試験</td> </tr> </table>							第 1～2 回	講義	日本の三大手技療法（あん摩マッサージ指圧）の歴史や手技の特徴について		実技	マッサージの基本手技	第 3～4 回	講義	からだのバランスチェックとマッサージの効果		実技	マッサージの基本手技	第 5～6 回	講義	手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識①		実技	背中のタクティールケア	第 7～8 回	講義	手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識②		実技	手のタクティールケア	第 9～10 回	講義	手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識③		実技	背中・手・足のタクティールケアの復習	第 11～12 回	講義	東洋医学のお灸とツボ		実技	各種お灸の体験とセルフケア	第 13・14 回	講義	東洋医学で体質チェック		実技	症状別のツボ療法とセルフケア	第 15 回		まとめとタクティールケアの実技試験
第 1～2 回	講義	日本の三大手技療法（あん摩マッサージ指圧）の歴史や手技の特徴について																																																	
	実技	マッサージの基本手技																																																	
第 3～4 回	講義	からだのバランスチェックとマッサージの効果																																																	
	実技	マッサージの基本手技																																																	
第 5～6 回	講義	手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識①																																																	
	実技	背中のタクティールケア																																																	
第 7～8 回	講義	手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識②																																																	
	実技	手のタクティールケア																																																	
第 9～10 回	講義	手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識③																																																	
	実技	背中・手・足のタクティールケアの復習																																																	
第 11～12 回	講義	東洋医学のお灸とツボ																																																	
	実技	各種お灸の体験とセルフケア																																																	
第 13・14 回	講義	東洋医学で体質チェック																																																	
	実技	症状別のツボ療法とセルフケア																																																	
第 15 回		まとめとタクティールケアの実技試験																																																	
10 学 習 方 法 講義 / デモンストレーション / ペアでの実技練習																																																			
11 評 価 方 法 試験 / レポート																																																			
12 教科書及び参考書 配布資料																																																			
13 学生への要望 手技療法の実際を看護に活かせるように学んでください。																																																			

看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	中江秀美 (看護師)
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 看護の定義と概念について理解する。</p> <p>2. 健康・人間・環境の概念を理解する。</p> <p>3. 保健・医療・福祉における看護の現状と看護の役割を理解する。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護の概念について講義する。)</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 看護の概念</p> <p>第 2 回 歴史の中の看護</p> <p>第 3 回 歴史の中の看護</p> <p>第 4 回 看護の機能と役割</p> <p>第 5 回 健康のとらえ方</p> <p>第 6 回 健康生活の全体像の把握</p> <p>第 7 回 少子高齢化と健康寿命</p> <p>第 8 回 看護の対象の理解</p> <p>第 9 回 生活者としての人間の暮らし</p> <p>第 10 回 看護理論家に見る看護の定義</p> <p>第 11 回 看護理論家における概念モデル</p> <p>第 12 回 職業倫理としての看護倫理</p> <p>第 13 回 看護の提供者</p> <p>第 14 回 看護の提供のしくみ</p> <p>第 15 回 国際化と看護</p> <p>第 16 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院</p> <p>『看護覚え書』 フローレンス・ナイチンゲール著 湯槇ます訳 現代社</p> <p>『看護の基本となるもの』 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます訳 日本看護協会出版会</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>自己の看護観につながる、なりたい看護師像を描きつつ授業に参加してほしいと思います。</p> <p>そして、すばらしい専門職業人としての看護師を目指して共にステップアップして行きましょう。</p>						

看護理論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	江川隆子
8 授業概要および到達目標 1. 看護理論の中の概念を通して、看護の本質を理解し、健康障害時の看護の特徴について学ぶ。 2. 自己の看護観を育成する基礎とする。						
9 授業計画 第 1 回 看護モデルの本質 理論とモデル 第 2 回 看護理論と看護モデル 第 3 回 看護モデルと看護実践・研究・教育との関連 第 4 回 看護問題、患者のニーズ及び看護診断との関係 第 5 回 各看護理論・モデルの考え方（人間・環境・健康・看護）と違い、および看護問題の違い 第 6 回 F. ナイチンゲール 第 7 回 V. ヘンダーソン 第 8 回 D. Eオレム 第 9 回 C. Cロイ 第 10 回 人間関係の考え方 第 11 回 H. Eペプロウ 第 12 回 ウイーデンバック 第 13 回 NANDA-I の分類 第 14 回 ゴードンの機能的健康パターンと看護過程と看護診断 第 15 回 まとめ / 試験						
10 学習方法 講義 / 演習 / グループワーク						
11 評価方法 レポート / 試験						
12 教科書及び参考書 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版 ニューヴェルヒロカワ NANDA-I 看護診断 定義と分類 監訳 日本看護診断学会 医学書院 これなら使える看護診断～厳選 NANDA-I 看護診断 83～ コンパクト新版 医学書院 看護覚え書 フロレンス・ナイティンゲール、日本看護協会出版会 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン、日本看護協会出版会 関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録 かみくだき診断過程 日総研出版						
13 学生への要望 理論中に含まれる看護観を深く学び、自己の看護観の形成の基礎にしてください。						

医療と看護倫理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	政本好子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生命に対する基本的理念が理解できる。 2. 専門職業人としての職業倫理が理解できる。 3. 医療現場で起こりうる倫理的諸問題について理解し、倫理的配慮の考え方を修得することができる。 （病院の看護管理業務に携わった経験を持つ教員が、看護倫理について講義する。） 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 倫理とは何か</p> <p>第 2 回 医と看護の倫理綱領</p> <p>第 3 回 患者の権利と公共の福祉</p> <p>第 4 回 生命の始まりにおける倫理的問題（人工授精/体外受精/代理母/代理出産/妊娠中絶など）</p> <p>第 5 回 生命の終末期における倫理的問題（脳死の再定義）</p> <p>第 6 回 生命の終末期における倫理的問題（臓器移植と倫理）</p> <p>第 7 回 ロールプレイング：グループでテーマを選択し演習・発表</p> <p style="padding-left: 40px;">テーマ 1：信仰上の理由による治療拒否</p> <p style="padding-left: 40px;">テーマ 2：悪い病名や予後をどの様に伝えるか</p> <p>第 9 回 テーマ 3：重度の障害を持つ新生児の治療</p> <p>第 10 回 看護師の礼儀・作法・心構え</p> <p>第 11 回 看護師の義務と責任</p> <p>第 12 回 看護に必要とされる権利擁護</p> <p>第 13 回 具体的ジレンマ事例を用いての演習</p> <p style="padding-left: 40px;">1. こちらの重症患者かあちらの重症患者か</p> <p style="padding-left: 40px;">2. 服従か主張か</p> <p>第 14 回 3. 真実を言うべきか偽りも方便か</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク / ロールプレイ</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院</p> <p>医療倫理学の方法原則・手順・ナラティブ 著：宮坂 道夫 医学書院</p> <p>ケースブック医療倫理 著：家永 登/白浜雅司/中尾久子/村岡潔/森下直貴 医学書院</p> <p>生命と倫理について考える 生命と倫理に関する懇談報告 編集 厚生省健康政策局医事課 医学書院</p> <p>身近な事例で学ぶ看護倫理 著：宮脇美保子 医学書院</p> <p>具体的なジレンマからみた看護倫理の基本 責任編集：坪倉繁美 医学芸術社</p> <p>『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例 30 著：医療人権を考える会日本看護協会出版会</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>命の深さと尊さを学び、よりよい看護につなげてください。看護倫理の大切さを学び、看護師としての資質を養ってください。高い倫理性と責任感を持って判断し、行動できる能力の育成に努めること。</p>						

基礎看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員		
専門分野 I	1 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	木戸みどり 逢坂幸佳 佐藤みか（看護師）		
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 看護活動の基本となる基礎看護技術とは何か考え理解する。</p> <p>2. バイタルサイン・環境・食事援助等の技術を習得する。</p> <p>3. 看護の基本原則である安全・安楽を学び、技術を習得する。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護活動の基本となる基礎看護技術について講義する。）</p>								
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第 1 回 看護技術の基本原則</p> <p>第 2 回 環境調整：環境とは</p> <p>第 3 回 環境調整技術：環境整備、ベッドメイキング</p> <p>第 4 回 環境調整技術：環境整備（演習）</p> <p>第 5 回 環境調整技術：ベッドメイキング（演習）</p> <p>第 6 回 環境調整技術：シーツ交換</p> <p>第 7 回 環境調整技術：シーツ交換（演習）</p> <p>第 8 回 ヘルスアセスメントとは</p> <p>第 9 回 健康歴、セルフケア能力のアセスメント</p> <p>第 10 回 ヘルスアセスメントの実際</p> <p>第 11 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン、計測</p> <p>第 12 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン測定（演習）</p> <p>第 13 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン測定（演習）</p> <p>第 14 回 実技試験</p> <p>第 15 回 筆記試験</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第 16 回 食事援助技術</p> <p>第 17 回 食事援助技術の実際</p> <p>第 18 回 食事援助技術（演習）</p> <p>第 19 回 食事援助技術</p> <p>第 20 回 口腔ケア</p> <p>第 21 回 口腔ケア</p> <p>第 22 回 摂食・嚥下訓練</p> <p>第 23 回 摂食・嚥下訓練</p> <p>第 24 回 排泄援助技術</p> <p>第 25 回 排泄援助技術の実際</p> <p>第 26 回 排泄援助技術（演習）</p> <p>第 27 回 排泄援助技術（演習）</p> <p>第 28 回 排泄援助技術</p> <p>第 29 回 実技試験</p> <p>第 30 回 筆記試験</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">第 1～19 回、第 24～30 回佐藤みか（90）・第 20～21 回木戸みどり・第 22～23 回逢坂幸佳（10）</p>							<p>第 1 回 看護技術の基本原則</p> <p>第 2 回 環境調整：環境とは</p> <p>第 3 回 環境調整技術：環境整備、ベッドメイキング</p> <p>第 4 回 環境調整技術：環境整備（演習）</p> <p>第 5 回 環境調整技術：ベッドメイキング（演習）</p> <p>第 6 回 環境調整技術：シーツ交換</p> <p>第 7 回 環境調整技術：シーツ交換（演習）</p> <p>第 8 回 ヘルスアセスメントとは</p> <p>第 9 回 健康歴、セルフケア能力のアセスメント</p> <p>第 10 回 ヘルスアセスメントの実際</p> <p>第 11 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン、計測</p> <p>第 12 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン測定（演習）</p> <p>第 13 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン測定（演習）</p> <p>第 14 回 実技試験</p> <p>第 15 回 筆記試験</p>	<p>第 16 回 食事援助技術</p> <p>第 17 回 食事援助技術の実際</p> <p>第 18 回 食事援助技術（演習）</p> <p>第 19 回 食事援助技術</p> <p>第 20 回 口腔ケア</p> <p>第 21 回 口腔ケア</p> <p>第 22 回 摂食・嚥下訓練</p> <p>第 23 回 摂食・嚥下訓練</p> <p>第 24 回 排泄援助技術</p> <p>第 25 回 排泄援助技術の実際</p> <p>第 26 回 排泄援助技術（演習）</p> <p>第 27 回 排泄援助技術（演習）</p> <p>第 28 回 排泄援助技術</p> <p>第 29 回 実技試験</p> <p>第 30 回 筆記試験</p>
<p>第 1 回 看護技術の基本原則</p> <p>第 2 回 環境調整：環境とは</p> <p>第 3 回 環境調整技術：環境整備、ベッドメイキング</p> <p>第 4 回 環境調整技術：環境整備（演習）</p> <p>第 5 回 環境調整技術：ベッドメイキング（演習）</p> <p>第 6 回 環境調整技術：シーツ交換</p> <p>第 7 回 環境調整技術：シーツ交換（演習）</p> <p>第 8 回 ヘルスアセスメントとは</p> <p>第 9 回 健康歴、セルフケア能力のアセスメント</p> <p>第 10 回 ヘルスアセスメントの実際</p> <p>第 11 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン、計測</p> <p>第 12 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン測定（演習）</p> <p>第 13 回 ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン測定（演習）</p> <p>第 14 回 実技試験</p> <p>第 15 回 筆記試験</p>	<p>第 16 回 食事援助技術</p> <p>第 17 回 食事援助技術の実際</p> <p>第 18 回 食事援助技術（演習）</p> <p>第 19 回 食事援助技術</p> <p>第 20 回 口腔ケア</p> <p>第 21 回 口腔ケア</p> <p>第 22 回 摂食・嚥下訓練</p> <p>第 23 回 摂食・嚥下訓練</p> <p>第 24 回 排泄援助技術</p> <p>第 25 回 排泄援助技術の実際</p> <p>第 26 回 排泄援助技術（演習）</p> <p>第 27 回 排泄援助技術（演習）</p> <p>第 28 回 排泄援助技術</p> <p>第 29 回 実技試験</p> <p>第 30 回 筆記試験</p>							
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 視聴覚教材 / 実技演習</p>								
<p>11 評 価 方 法</p> <p>筆記試験 / 実技試験 / 校内実習記録 / 小テスト / 演習態度</p>								
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p>								
<p>13 学生への要望</p> <p>安全・安楽な看護が提供できるよう、基礎看護技術を根拠に基づいて学習してください。</p> <p>校内実習記録では、自己の看護技術を根拠とともに振り返り記録するようにしてください。</p> <p>講義や校内実技演習の予習、復習は必ず行ってください。</p>								

基礎看護方法論 II

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	2 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	松田美穂 (看護師) 小泉敬子 (看護師)
8 授業概要および到達目標						
1. 対象に必要な経過別、症状別、治療処置別看護についての基礎が理解できる。 2. 治療・処置に伴う看護援助技術のための基本技術が習得できる。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、経過別・症状別・治療処置に伴う看護について講義する。)						
9 授 業 計 画						
第 1 回	健康上のニーズをもつ生活者と家族 健康生活と看護					
第 2～3 回	経過に基づく患者の看護 (急性期・慢性期/リハビリテーション期/終末期)					
第 4～5 回	検査・治療における援助 (看護師の役割、検査、治療・処置)					
第 6～7 回	検査・治療における援助 (校内実習/酸素療法、体位ドレナージ、吸引)					
第 8 回	検査・治療における援助 (与薬に関する基礎知識、経口与薬)					
第 9 回	検査・治療における援助 (校内実習/吸入、点眼、吸引)					
第 10～11 回	検査・治療における援助 (与薬の技術・注射)					
第 12～13 回	検査・治療における援助 (校内実習/薬液の吸い上げ・皮下注射)					
第 14～15 回	検査・治療における援助 (校内実習/静脈内持続注射点滴の準備と管理)					
第 16 回	筆記試験					
第 17 回	実技試験					
第 18～19 回	検査・治療における援助 (検体検査・採血)					
第 20～21 回	検査・治療における援助 (針刺し事故・安全管理)					
第 22 回	検査・治療における援助 (輸血管理)					
第 23 回	その他の援助 (腰椎穿刺、胸椎穿刺、腹腔穿刺、骨髄穿刺)					
第 24 回	主要症状を示す患者の看護 (痛み、呼吸障害、循環障害、消化器・排泄障害のある患者の看護)					
第 25 回	主要症状を示す患者の看護 (消化器・排泄障害、意識障害、精神障害のある患者の看護)					
第 26 回	治療・処置を受けている患者の看護 (安静療法、食事療法、薬物療法、輸液療法を必要とする患者の看護)					
第 27 回	治療・処置を受けている患者の看護 (手術療法、創傷処置、人工臓器、放射線治療を必要とする患者の看護)					
第 28 回	治療・処置を受けている患者の看護 (精神療法、救急法、集中治療を必要とする患者の看護)					
第 29 回	実技試験					
第 30 回	筆記試験					
第 1～7 回、16 回、第 24～28 回 小泉敬子 (40) ・ 第 8～15 回、17～23 回、29～30 回 松田美穂 (60)						
10 学 習 方 法						
講義 / 視聴覚教材 / 演習						
11 評 価 方 法						
レポート / 筆記試験 / 実技試験						
12 教科書及び参考書						
系統看護学講座	専門 I	基礎看護学③	基礎看護技術 II	医学書院		
系統看護学講座	専門 I	基礎看護学④	臨床看護総論	医学書院		
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		医学書院				
13 学生への要望						
1 年生で学習した解剖生理学や疾病と治療を看護技術に関連させて学習しましょう。 毎回の予習、復習は必ず行ってください。						

基礎看護方法論 III

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																																						
専門分野 I	2 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	六車輝美（看護師） 山内豊明																																																						
8 授業概要および到達目標 1. フィジカルアセスメントの意義と目的が理解できる。 2. 系統的にフィジカルアセスメントのテクニックを習得できる。 3. 収集した情報を看護援助に結びつけてアセスメントができる。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、系統別のフィジカルアセスメントについて講義する。）																																																												
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">第 1～2 回</td> <td style="width: 45%;">フィジカルアセスメントとは</td> <td style="width: 40%;">アセスメントの視点</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>臓器の位置関係を理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4～5 回</td> <td>呼吸器系のアセスメント</td> <td>（肺の問診、視診、触診、打診、聴診）</td> </tr> <tr> <td>第 6～7 回</td> <td>呼吸器系のアセスメント</td> <td>（校内実習/触診・視診による呼吸の観察、呼吸音の聴取と評価）</td> </tr> <tr> <td>第 8～9 回</td> <td>循環器系のアセスメント</td> <td>（心臓の問診、視診、触診、打診、聴診）</td> </tr> <tr> <td>第 9～10 回</td> <td>循環器系のアセスメント</td> <td>（校内実習/中心静脈圧の推定、心音の聴取）</td> </tr> <tr> <td>第 11～12 回</td> <td>消化器系のアセスメント</td> <td>（腹部の問診、視診、触診、打診、聴診）</td> </tr> <tr> <td>第 13～14 回</td> <td>消化器系のアセスメント</td> <td>（校内実習/肝臓の大きさを推定、腹部の触診）</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>筆記試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 16～17 回</td> <td>運動器系のアセスメント</td> <td>（筋肉・骨格の問診、視診、触診）</td> </tr> <tr> <td>第 18～19 回</td> <td>運動器系のアセスメント</td> <td>（校内実習/筋力を測定、関節可動域を測定）</td> </tr> <tr> <td>第 20 回</td> <td>中枢神経系のアセスメント</td> <td>（神経系の問診、視診、触診、打診）</td> </tr> <tr> <td>第 21～22 回</td> <td>中枢神経系のアセスメント</td> <td>（校内実習/意識状態、瞳孔および対光反射）</td> </tr> <tr> <td>第 23 回</td> <td>感覚器系のアセスメント</td> <td>（感覚器の問診、視診、触診）</td> </tr> <tr> <td>第 24～25 回</td> <td>感覚器系のアセスメント</td> <td>（校内実習/眼位の異常の有無、リンネ試験、ウェーバー試験）</td> </tr> <tr> <td>第 26～27 回</td> <td>頭部・頸部・甲状腺・乳房・リンパのフィジカルアセスメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 28～29 回</td> <td>症状・徴候からのアセスメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 30 回</td> <td>筆記試験</td> <td></td> </tr> </table> <p style="margin-top: 20px;">第 1～30 回 六車輝美（100）・特別講義（4 コマ） 山内豊明</p>							第 1～2 回	フィジカルアセスメントとは	アセスメントの視点	第 3 回	臓器の位置関係を理解する		第 4～5 回	呼吸器系のアセスメント	（肺の問診、視診、触診、打診、聴診）	第 6～7 回	呼吸器系のアセスメント	（校内実習/触診・視診による呼吸の観察、呼吸音の聴取と評価）	第 8～9 回	循環器系のアセスメント	（心臓の問診、視診、触診、打診、聴診）	第 9～10 回	循環器系のアセスメント	（校内実習/中心静脈圧の推定、心音の聴取）	第 11～12 回	消化器系のアセスメント	（腹部の問診、視診、触診、打診、聴診）	第 13～14 回	消化器系のアセスメント	（校内実習/肝臓の大きさを推定、腹部の触診）	第 15 回	筆記試験		第 16～17 回	運動器系のアセスメント	（筋肉・骨格の問診、視診、触診）	第 18～19 回	運動器系のアセスメント	（校内実習/筋力を測定、関節可動域を測定）	第 20 回	中枢神経系のアセスメント	（神経系の問診、視診、触診、打診）	第 21～22 回	中枢神経系のアセスメント	（校内実習/意識状態、瞳孔および対光反射）	第 23 回	感覚器系のアセスメント	（感覚器の問診、視診、触診）	第 24～25 回	感覚器系のアセスメント	（校内実習/眼位の異常の有無、リンネ試験、ウェーバー試験）	第 26～27 回	頭部・頸部・甲状腺・乳房・リンパのフィジカルアセスメント		第 28～29 回	症状・徴候からのアセスメント		第 30 回	筆記試験	
第 1～2 回	フィジカルアセスメントとは	アセスメントの視点																																																										
第 3 回	臓器の位置関係を理解する																																																											
第 4～5 回	呼吸器系のアセスメント	（肺の問診、視診、触診、打診、聴診）																																																										
第 6～7 回	呼吸器系のアセスメント	（校内実習/触診・視診による呼吸の観察、呼吸音の聴取と評価）																																																										
第 8～9 回	循環器系のアセスメント	（心臓の問診、視診、触診、打診、聴診）																																																										
第 9～10 回	循環器系のアセスメント	（校内実習/中心静脈圧の推定、心音の聴取）																																																										
第 11～12 回	消化器系のアセスメント	（腹部の問診、視診、触診、打診、聴診）																																																										
第 13～14 回	消化器系のアセスメント	（校内実習/肝臓の大きさを推定、腹部の触診）																																																										
第 15 回	筆記試験																																																											
第 16～17 回	運動器系のアセスメント	（筋肉・骨格の問診、視診、触診）																																																										
第 18～19 回	運動器系のアセスメント	（校内実習/筋力を測定、関節可動域を測定）																																																										
第 20 回	中枢神経系のアセスメント	（神経系の問診、視診、触診、打診）																																																										
第 21～22 回	中枢神経系のアセスメント	（校内実習/意識状態、瞳孔および対光反射）																																																										
第 23 回	感覚器系のアセスメント	（感覚器の問診、視診、触診）																																																										
第 24～25 回	感覚器系のアセスメント	（校内実習/眼位の異常の有無、リンネ試験、ウェーバー試験）																																																										
第 26～27 回	頭部・頸部・甲状腺・乳房・リンパのフィジカルアセスメント																																																											
第 28～29 回	症状・徴候からのアセスメント																																																											
第 30 回	筆記試験																																																											
10 学 習 方 法 講義 / 視聴覚教材 / 演習 / グループワーク																																																												
11 評 価 方 法 レポート / 筆記試験 / 実技試験																																																												
12 教科書及び参考書 系統別看護講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 第 2 版 山内 豊明 医学書院																																																												
13 学生への要望 フィジカルアセスメント技術は、「患者様を知る」ためのひとつの手段です。決して難しいものではありません。今までの学習内容を活かし、技術の根拠を理解することで興味を持って取り組める教科です。																																																												

基礎看護方法論 IV

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																				
専門分野 I	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	佐藤みか（看護師）																																				
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義と目的が理解できる。 2. 看護過程の展開は、対象の状態を観察、判断、実施したケアの評価をする思考過程の手段であることを理解できる。 3. 看護過程の各段階について理解できる。 4. ペーパー・ペイシエントの事例をもとに看護過程を展開することができる。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護過程の展開について講義する。) 																																										
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 20%;">看護実践の方法論</td> <td style="width: 70%;">(看護過程とは、問題解決過程)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>看護実践の方法論</td> <td>(アセスメントとは、アセスメント枠組み)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(アセスメント/情報収集)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(情報の分析/解釈・分析/関連図)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(看護問題の明確化/看護問題と看護診断、看護問題の種類、優先順位)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(看護計画/期待される成果)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(看護計画の立案)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(看護計画の実施/実施の流れと記録)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>(評価/看護記録)</td> </tr> <tr> <td>第 10～13 回</td> <td>看護過程の実際</td> <td>(事例展開を含むグループワーク)</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>試験</td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	看護実践の方法論	(看護過程とは、問題解決過程)	第 2 回	看護実践の方法論	(アセスメントとは、アセスメント枠組み)	第 3 回	看護過程の展開	(アセスメント/情報収集)	第 4 回	看護過程の展開	(情報の分析/解釈・分析/関連図)	第 5 回	看護過程の展開	(看護問題の明確化/看護問題と看護診断、看護問題の種類、優先順位)	第 6 回	看護過程の展開	(看護計画/期待される成果)	第 7 回	看護過程の展開	(看護計画の立案)	第 8 回	看護過程の展開	(看護計画の実施/実施の流れと記録)	第 9 回	看護過程の展開	(評価/看護記録)	第 10～13 回	看護過程の実際	(事例展開を含むグループワーク)	第 14 回	まとめ		第 15 回	試験	
第 1 回	看護実践の方法論	(看護過程とは、問題解決過程)																																								
第 2 回	看護実践の方法論	(アセスメントとは、アセスメント枠組み)																																								
第 3 回	看護過程の展開	(アセスメント/情報収集)																																								
第 4 回	看護過程の展開	(情報の分析/解釈・分析/関連図)																																								
第 5 回	看護過程の展開	(看護問題の明確化/看護問題と看護診断、看護問題の種類、優先順位)																																								
第 6 回	看護過程の展開	(看護計画/期待される成果)																																								
第 7 回	看護過程の展開	(看護計画の立案)																																								
第 8 回	看護過程の展開	(看護計画の実施/実施の流れと記録)																																								
第 9 回	看護過程の展開	(評価/看護記録)																																								
第 10～13 回	看護過程の実際	(事例展開を含むグループワーク)																																								
第 14 回	まとめ																																									
第 15 回	試験																																									
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク</p>																																										
<p>11 評 価 方 法</p> <p>提出物 / 筆記試験</p>																																										
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>基礎看護技術 I 医学書院 看護過程の解体新書 学研 病態生理と実践がみえる関連図と事例展開 根拠がわかる疾患別看護過程 南江堂</p>																																										
<p>13 学生への要望</p> <p>看護過程は、看護の対象へ安楽で安全な援助を行うために必要な方法です。 今まで学習した内容が基礎知識となりますので復習も十分行って授業に取り組んでください。</p>																																										

基礎看護援助論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																																												
専門分野 I	1 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	小室直子（看護師） 徳地暢子（看護師）																																																												
8 授業概要および到達目標 1. 清潔・衣生活の基本を理解し、根拠に基づいた援助技術を習得する。 2. 感染予防と創傷管理について理解し、無菌操作方法を習得する。 3. 安楽に関連する症状を示す対象の看護として安楽に関連するニーズの充足にむけた援助技術を習得する。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術について講義する。）																																																																		
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">第 1 回</td> <td style="width: 40%;">看護技術を学ぶにあたって（安全・安楽の確保）</td> <td style="width: 15%;">第 16 回</td> <td style="width: 30%;">創傷管理の技術</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>標準予防策の基礎知識</td> <td>第 17 回</td> <td>創傷処置と看護</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>病床での衣生活の援助</td> <td>第 18 回</td> <td>包帯法</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>病床での衣生活の援助</td> <td>第 19 回</td> <td>褥瘡予防</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>清潔援助の実際 入浴・シャワー浴</td> <td>第 20 回</td> <td>褥瘡予防の実際</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>清潔援助の実際 整容</td> <td>第 21 回</td> <td>感染防止基礎知識</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>清潔援助の実際 手浴・足浴・爪切り</td> <td>第 22 回</td> <td>無菌操作・感染性廃棄物の取扱い</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>清潔援助の実際 全身清拭</td> <td>第 23 回</td> <td>滅菌手袋・滅菌ガウンの着脱の実際</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>清潔援助の実際 清拭と寝衣交換</td> <td>第 24 回</td> <td>一時的導尿</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>清潔援助の実際 全身清拭の実際</td> <td>第 25 回</td> <td>持続的導尿</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>清潔援助の実際 全身清拭の実際</td> <td>第 26 回</td> <td>持続的導尿の実際</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>清潔援助の実際 洗髪</td> <td>第 27 回</td> <td>持続的導尿の実際</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>清潔援助の実際 洗髪の実際</td> <td>第 28 回</td> <td>安楽に関連するニーズ充足の看護</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>清潔援助の実際 洗髪の実際</td> <td>第 29 回</td> <td>痛み・吐きけ・嘔吐に対するケア</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>筆記試験</td> <td>第 30 回</td> <td>筆記試験</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～15 回 小室直子（50）・第 15～30 回 徳地暢子（50）</p>							第 1 回	看護技術を学ぶにあたって（安全・安楽の確保）	第 16 回	創傷管理の技術	第 2 回	標準予防策の基礎知識	第 17 回	創傷処置と看護	第 3 回	病床での衣生活の援助	第 18 回	包帯法	第 4 回	病床での衣生活の援助	第 19 回	褥瘡予防	第 5 回	清潔援助の実際 入浴・シャワー浴	第 20 回	褥瘡予防の実際	第 6 回	清潔援助の実際 整容	第 21 回	感染防止基礎知識	第 7 回	清潔援助の実際 手浴・足浴・爪切り	第 22 回	無菌操作・感染性廃棄物の取扱い	第 8 回	清潔援助の実際 全身清拭	第 23 回	滅菌手袋・滅菌ガウンの着脱の実際	第 9 回	清潔援助の実際 清拭と寝衣交換	第 24 回	一時的導尿	第 10 回	清潔援助の実際 全身清拭の実際	第 25 回	持続的導尿	第 11 回	清潔援助の実際 全身清拭の実際	第 26 回	持続的導尿の実際	第 12 回	清潔援助の実際 洗髪	第 27 回	持続的導尿の実際	第 13 回	清潔援助の実際 洗髪の実際	第 28 回	安楽に関連するニーズ充足の看護	第 14 回	清潔援助の実際 洗髪の実際	第 29 回	痛み・吐きけ・嘔吐に対するケア	第 15 回	筆記試験	第 30 回	筆記試験
第 1 回	看護技術を学ぶにあたって（安全・安楽の確保）	第 16 回	創傷管理の技術																																																															
第 2 回	標準予防策の基礎知識	第 17 回	創傷処置と看護																																																															
第 3 回	病床での衣生活の援助	第 18 回	包帯法																																																															
第 4 回	病床での衣生活の援助	第 19 回	褥瘡予防																																																															
第 5 回	清潔援助の実際 入浴・シャワー浴	第 20 回	褥瘡予防の実際																																																															
第 6 回	清潔援助の実際 整容	第 21 回	感染防止基礎知識																																																															
第 7 回	清潔援助の実際 手浴・足浴・爪切り	第 22 回	無菌操作・感染性廃棄物の取扱い																																																															
第 8 回	清潔援助の実際 全身清拭	第 23 回	滅菌手袋・滅菌ガウンの着脱の実際																																																															
第 9 回	清潔援助の実際 清拭と寝衣交換	第 24 回	一時的導尿																																																															
第 10 回	清潔援助の実際 全身清拭の実際	第 25 回	持続的導尿																																																															
第 11 回	清潔援助の実際 全身清拭の実際	第 26 回	持続的導尿の実際																																																															
第 12 回	清潔援助の実際 洗髪	第 27 回	持続的導尿の実際																																																															
第 13 回	清潔援助の実際 洗髪の実際	第 28 回	安楽に関連するニーズ充足の看護																																																															
第 14 回	清潔援助の実際 洗髪の実際	第 29 回	痛み・吐きけ・嘔吐に対するケア																																																															
第 15 回	筆記試験	第 30 回	筆記試験																																																															
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / 視聴覚教材																																																																		
11 評 価 方 法 筆記試験 / レポート																																																																		
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院																																																																		
13 学生への要望 根拠に基づいた看護基礎技術アセスメントや援助技術を習得するために、自ら調べ・自分で考え・自分で看護技術を組み立てながら看護技術をみがいていきましょう。また、グループ演習ではお互いに調べ・話し合い、技術チェックし合いながら一緒に課題に取り組みながともに成長しましょう。																																																																		

基礎看護援助論 II

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員		
専門分野 I	1 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	高山蓮花（看護師） 高橋謙一 逢坂 幸佳		
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 日常生活者としての自立を援助する看護方法と技術を習得する。</p> <p>2. 救急時の看護を理解し、一次救命処置が実施できる。</p> <p>3. 死亡時の看護を理解し、対象を人間として尊厳し、家族の思いも配慮した対応ができる。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活の自立支援技術について講義する。）</p>								
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第 1 回 基本的活動の援助 基本体位・特殊体位</p> <p>第 2 回 体位変換</p> <p>第 3 回 体位変換・ポジショニング</p> <p>第 4 回 移乗・移送の援助</p> <p>第 5 回 移乗・移送の援助</p> <p>第 6 回 実技試験</p> <p>第 7 回 睡眠・覚醒の援助</p> <p>第 8 回 筆記試験</p> <p>第 9 回 ボディメカニクス</p> <p>第 10 回 ボディメカニクス</p> <p>第 11 回 ボディメカニクス</p> <p>第 12 回 ボディメカニクス</p> <p>第 13 回 ボディメカニクス</p> <p>第 14 回 ボディメカニクス</p> <p>第 15 回 ボディメカニクス（筆記試験）</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第 16 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 17 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 18 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 19 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 20 回 排たんケア</p> <p>第 21 回 排たんケア</p> <p>第 22 回 排たんケア（筆記試験）</p> <p>第 23 回 生体情報のモニタリング</p> <p>第 24 回 生体情報のモニタリング</p> <p>第 25 回 救命救急処置技術</p> <p>第 26 回 救命救急処置技術</p> <p>第 27 回 看護における教育・指導</p> <p>第 28 回 看護における教育・指導</p> <p>第 29 回 死の看取りの技術</p> <p>第 30 回 筆記試験</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～8 回、第 16～19 回、第 23～30 回 高山蓮花（70）・第 9～15 回 高橋謙一（20） 第 20～22 回 逢坂幸佳（10）</p>							<p>第 1 回 基本的活動の援助 基本体位・特殊体位</p> <p>第 2 回 体位変換</p> <p>第 3 回 体位変換・ポジショニング</p> <p>第 4 回 移乗・移送の援助</p> <p>第 5 回 移乗・移送の援助</p> <p>第 6 回 実技試験</p> <p>第 7 回 睡眠・覚醒の援助</p> <p>第 8 回 筆記試験</p> <p>第 9 回 ボディメカニクス</p> <p>第 10 回 ボディメカニクス</p> <p>第 11 回 ボディメカニクス</p> <p>第 12 回 ボディメカニクス</p> <p>第 13 回 ボディメカニクス</p> <p>第 14 回 ボディメカニクス</p> <p>第 15 回 ボディメカニクス（筆記試験）</p>	<p>第 16 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 17 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 18 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 19 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 20 回 排たんケア</p> <p>第 21 回 排たんケア</p> <p>第 22 回 排たんケア（筆記試験）</p> <p>第 23 回 生体情報のモニタリング</p> <p>第 24 回 生体情報のモニタリング</p> <p>第 25 回 救命救急処置技術</p> <p>第 26 回 救命救急処置技術</p> <p>第 27 回 看護における教育・指導</p> <p>第 28 回 看護における教育・指導</p> <p>第 29 回 死の看取りの技術</p> <p>第 30 回 筆記試験</p>
<p>第 1 回 基本的活動の援助 基本体位・特殊体位</p> <p>第 2 回 体位変換</p> <p>第 3 回 体位変換・ポジショニング</p> <p>第 4 回 移乗・移送の援助</p> <p>第 5 回 移乗・移送の援助</p> <p>第 6 回 実技試験</p> <p>第 7 回 睡眠・覚醒の援助</p> <p>第 8 回 筆記試験</p> <p>第 9 回 ボディメカニクス</p> <p>第 10 回 ボディメカニクス</p> <p>第 11 回 ボディメカニクス</p> <p>第 12 回 ボディメカニクス</p> <p>第 13 回 ボディメカニクス</p> <p>第 14 回 ボディメカニクス</p> <p>第 15 回 ボディメカニクス（筆記試験）</p>	<p>第 16 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 17 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 18 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 19 回 呼吸・循環を整える技術</p> <p>第 20 回 排たんケア</p> <p>第 21 回 排たんケア</p> <p>第 22 回 排たんケア（筆記試験）</p> <p>第 23 回 生体情報のモニタリング</p> <p>第 24 回 生体情報のモニタリング</p> <p>第 25 回 救命救急処置技術</p> <p>第 26 回 救命救急処置技術</p> <p>第 27 回 看護における教育・指導</p> <p>第 28 回 看護における教育・指導</p> <p>第 29 回 死の看取りの技術</p> <p>第 30 回 筆記試験</p>							
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 視聴覚教材 / グループワーク / 演習</p>								
<p>11 評 価 方 法</p> <p>筆記試験 / 実技試験 / 提出物</p>								
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I、基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p>								
<p>13 学生への要望</p> <p>人間の尊厳や羞恥心に配慮した看護の基本的知識や援助技術が身につくよう熱心に学習に取り組んで欲しい。</p>								

基礎看護援助論 III

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	松田美穂 (看護師)
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 看護活動の基礎となる共通基本技術と態度を理解する。</p> <p>2. 人間関係を発展させる技術を習得する。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が人間関係を発展させるコミュニケーション技術について講義する。)</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 コミュニケーションとは何か・コミュニケーションの種類</p> <p>第 2 回 コミュニケーションに影響するもの・看護におけるコミュニケーション</p> <p>第 3 回 良好なコミュニケーションに必要な技法—質問技法—</p> <p>第 4 回 積極的傾聴</p> <p>第 5 回 良好なコミュニケーションに必要な技法—関係構築の技法—</p> <p>第 6 回 看護面接のプロセス 13STEP</p> <p>第 7 回 看護面接のトレーニング</p> <p>第 8 回 演習「看護面接」</p> <p>第 9 回 高度なコミュニケーション</p> <p>第 10 回 多職種連携とコミュニケーション・患者家族とのコミュニケーション</p> <p>第 11 回 領域別コミュニケーション「急性期・慢性期」</p> <p>第 12 回 領域別コミュニケーション「老年期・認知症」</p> <p>第 13 回 領域別コミュニケーション「小児」</p> <p>第 14 回 領域別コミュニケーション「母性」</p> <p>第 15 回 領域別コミュニケーション「精神・在宅」</p> <p>第 16 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 視聴覚教材 / グループワーク / ロールプレイ</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>課題・演習・試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>基礎看護技術 I 医学書院</p> <p>看護コミュニケーション 医学書院</p> <p>対象を理解して学ぶ領域別コミュニケーション 学研メディカル秀潤社</p> <p>講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>人間関係を発展させる技術の習得に向けて、演習を多く含んだ授業を展開予定です。</p>						

看護研究 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	小槌聡子（看護師） 尾張豊
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 看護学領域における研究について学ぶ。</p> <p>2. 看護研究の目的と意義、質的・量的研究の概略、倫理的課題について学ぶ。</p> <p>3. 研究のプロセスや研究論文を批判する視点を学び、先行文献を批判的に検討し、自分の研究に繋げる。 （病院の看護業務及び看護研究に携わった経験を持つ教員が、看護学における研究について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 看護研究とは</p> <p>第 2 回 看護研究のはじめ方</p> <p>第 3 回 情報の探索と吟味</p> <p>第 4 回 研究における倫理的配慮</p> <p>第 5 回 研究デザイン</p> <p>第 6 回 データの収集</p> <p>第 7 回 データの分析</p> <p>第 8 回 研究計画書の作成</p> <p>第 9 回 研究を伝える</p> <p>第 10 回 ケースレポート・事例研究の進め方</p> <p>第 11 回 調査研究の進め方</p> <p>第 12 回 文献研究・実践報告の進め方</p> <p>第 13 回 質的な看護研究</p> <p>第 14 回 効果的なプレゼンテーション</p> <p>第 15 回 抄録の書き方・まとめ</p> <p>第 16 回 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～5 回 小槌聡子 (30) ・ 第 6～16 回 尾張豊 (70)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 自己学習 / グループ学習 / クラス討論</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護研究</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>「研究」の方法や手順をしっかりマスターして未来の臨床研究につなげてください。</p>						

看護研究Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅰ	4 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	六車輝美（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 事例研究を通して研究の流れを体得する。</p> <p>2. 倫理的配慮をしながらテーマに沿った研究計画を立案し、論文としてまとめることができる。 （病院の看護業務及び看護研究に携わった経験を持つ教員が、看護学領域における研究について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第1回 研究とは、文献検討</p> <p>第2回 文献検索、文献クリテーク、文献整理の方法</p> <p>第3回～4回 ケースレポートと事例研究の違い</p> <p>第5回 前回（3年生）の事例研究を振り返る</p> <p>第6回～8回 文献検討文献クリテーク、文献整理</p> <p>第9回 研究における倫理的配慮</p> <p>第10回 今回（4年生）の事例研究を深める</p> <p>第11回 研究計画書作成</p> <p>第12回 集録作成</p> <p>第13回 集録作成</p> <p>第14回 発表の基本</p> <p>第15回 まとめ、試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 自己学習</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート／筆記試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護研究</p> <p>看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>論文作成により、科学的な思考方法を体得し、常に学び、研究する姿勢を身につけてほしい。</p>						

基礎看護学実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野 I	1 学年	後期	1 単位	45 時間	必修	看護学科教員
8 目的 1. 病院の構造、機能を知り、患者を取り巻く環境を理解し、対象とのコミュニケーションがとれる。 2. 看護の知識・技術・看護師の役割や看護業務を理解する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。)						
9 実習目標及び実習内容 目 標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の構造、機能を知り対象を取り巻く環境を理解する。 2. 対象を理解し、コミュニケーションがとれる。 3. 看護師の役割や、看護業務を理解する。 内 容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の構造、病棟の構造の中で患者を取り巻く環境について知る。(温度、湿度、音、採光、プライバシー等) 2. 対象とコミュニケーションがとれ、人間関係を築くことができる。 3. 最初は看護師について見学実習を行い、対象者の人間を理解し入院生活、対象の環境としての病院の機能と役割を知り、看護師が病院の中でどのような役割を果たしているか実際の場면을体験し修得する。 4. 臨地実習指導者の指導・助言のもとに、患者の状態を判断し、安全安楽に援助できる。 5. 実習生としての責任のある言動を取り、積極的に実習に取り組む。 6. 社会人基礎力を培う。 						
10 実習方法 病院や病棟の構造や看護活動を知ったうえで、看護師と共に担当患者に関わり、バイタルサイン測定や清潔援助等を実践する。						
11 評価方法 援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。						
12 教科書及び参考書 テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材 詳細は実習概要参照						
13 学生への要望 患者様やご家族から学ばせて頂くという基本的な態度と心構えを忘れないこと。好感がもてる挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理も大切です。						

基礎看護学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅰ	2 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
8 目的 1. 日常生活の援助、診療の援助技術を習得する。 2. 看護過程展開の基礎を理解する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。)						
9 実習目標及び実習内容 目 標 1. 対象に応じた基本技術、日常生活援助が実施できる。 2. 対象に応じた看護過程の展開ができる。 内 容 1. 看護過程の展開 1 週目：情報収集、情報の整理・解釈・総合ができる。 2 週目：情報の分析・統合の後、問題点を抽出し、関連図で確認ができ、計画立案ができる。 3 週目：看護計画に従って実施できる。(セルフケアの1つを展開する) 2. 受け持ち患者の基本技術・日常生活援助技術は、実習2日目より、臨地実習指導者とともに実施する。 3. 受け持ち患者で経験できない技術は、他の患者で臨地実習指導者とともに実施する。 4. 患者の治療に携わる各部門との連携方法を学ぶ。 5. カンファレンスの実施。 6. 実習生としての責任のある言動を取り、積極的に学びを深める。 7. 社会人基礎力を培う。						
10 実習方法 グループを編成し講義、学内実習で学んだ日常生活の援助や診療の援助技術を対象者の、現状に合わせ実践する。						
11 評価方法 援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。						
12 教科書及び参考書 テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材 詳細は実習概要参照						
13 学生への要望 患者様やご家族から学ばせて頂くという基本的な態度と心構えを忘れないこと。対象や場に応じた挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理も大切です。看護過程やSOAPの基礎を学んで下さい。						

成人看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	北村弘江 (看護師)
8 授業概要および到達目標 1. 成人の生活と成人各期における健康問題を理解する。 2. 成人を看護するときのアプローチの基本を理解する。 3. 成人の健康レベルに応じた看護を理解する。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護について講義する。)						
9 授 業 計 画 第 1 回 成人期にある対象の特徴 第 2 回 慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病 (生活習慣病) 第 3 回 生活習慣病の予防と看護 第 4 回 保健・医療・福祉システムの連携の重要性 第 5 回 集団力学 (グループダイナミクス) の効果 第 6 回 クリニカルパスの実際 (事例を通してグループワーク) 第 7 回 クリニカルパスの実際 (事例を通してグループワーク・まとめ) 第 8 回 人間としての尊厳と権利を考える (事例を通してグループワーク) 第 9 回 人間としての尊厳と権利を考える (発表・総評) 第 10 回 身体不活動が健康に及ぼす影響 第 11 回 全人的苦痛への緩和ケア (癒しと希望) 第 12 回 医療事故予防・リスクマネジメント 第 13 回 新たな治療法、先端医療と看護 第 14 回 退院調整活動の実際 (事例より) 第 15 回 まとめ / 試験						
10 学 習 方 法 講義 / グループワーク / 視聴覚教材						
11 評 価 方 法 試験 / レポート						
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 成人看護学概論 南江堂						
13 学生への要望 成人に生じやすい健康上の問題を将来身近な問題としてとらえ、基本的なアプローチを理解してほしい。						

成人看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																														
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	北村弘江（看護師）																														
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の急性期の病態と看護の特徴を理解する。 2. 急激な健康状態の変化が起こっている患者に対し、観察や適切な対処、医療処置、心理的安定などを理解する。 3. 集中治療の特徴と治療を受けている患者の心理を理解する。 4. 急性期における看護技術を理解する。 <p style="padding-left: 40px;">（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人看護学領域における看護技術について講義する。）</p>																																				
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第 1 回</td><td>急性期看護概論</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>脳・神経系に障害を受けた患者の看護</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>呼吸器系に障害を受けた患者の看護</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>校内実習 気管内挿管の介助</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>校内実習 人工呼吸器装着中の管理・気管切開中の患者の看護</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>校内実習 胸腔ドレナージを受ける患者の看護</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>運動器系に障害を受けた患者の看護</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>循環器系に障害を受けた患者の看護</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>循環動態の評価（ショック状態・中心静脈圧）</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>カテーテル治療を受ける患者の看護</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>看護過程の展開・・・事例 急性期患者の看護（導入・グループワーク）</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>事例 急性期患者の看護（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>事例 急性期患者の看護（まとめ）</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>事例 急性期患者の看護（発表・総評）</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ / 試験</td></tr> </table>							第 1 回	急性期看護概論	第 2 回	脳・神経系に障害を受けた患者の看護	第 3 回	呼吸器系に障害を受けた患者の看護	第 4 回	校内実習 気管内挿管の介助	第 5 回	校内実習 人工呼吸器装着中の管理・気管切開中の患者の看護	第 6 回	校内実習 胸腔ドレナージを受ける患者の看護	第 7 回	運動器系に障害を受けた患者の看護	第 8 回	循環器系に障害を受けた患者の看護	第 9 回	循環動態の評価（ショック状態・中心静脈圧）	第 10 回	カテーテル治療を受ける患者の看護	第 11 回	看護過程の展開・・・事例 急性期患者の看護（導入・グループワーク）	第 12 回	事例 急性期患者の看護（グループワーク）	第 13 回	事例 急性期患者の看護（まとめ）	第 14 回	事例 急性期患者の看護（発表・総評）	第 15 回	まとめ / 試験
第 1 回	急性期看護概論																																			
第 2 回	脳・神経系に障害を受けた患者の看護																																			
第 3 回	呼吸器系に障害を受けた患者の看護																																			
第 4 回	校内実習 気管内挿管の介助																																			
第 5 回	校内実習 人工呼吸器装着中の管理・気管切開中の患者の看護																																			
第 6 回	校内実習 胸腔ドレナージを受ける患者の看護																																			
第 7 回	運動器系に障害を受けた患者の看護																																			
第 8 回	循環器系に障害を受けた患者の看護																																			
第 9 回	循環動態の評価（ショック状態・中心静脈圧）																																			
第 10 回	カテーテル治療を受ける患者の看護																																			
第 11 回	看護過程の展開・・・事例 急性期患者の看護（導入・グループワーク）																																			
第 12 回	事例 急性期患者の看護（グループワーク）																																			
第 13 回	事例 急性期患者の看護（まとめ）																																			
第 14 回	事例 急性期患者の看護（発表・総評）																																			
第 15 回	まとめ / 試験																																			
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク / 校内実習</p>																																				
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>																																				
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学③循環器、②呼吸器、⑦脳・神経、⑩運動器 医学書院 急性期看護Ⅰ 南江堂</p>																																				
<p>13 学生への要望</p> <p>成人の定義、成人であることの自覚、成人の特徴などを学び臨地実習での援助に役立てて欲しい。</p>																																				

成人看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																														
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	本村香代子 西紋かな 塩田和代 中谷洋見（看護師）																														
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期の病態を理解し、心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした対象とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程の看護を理解する。 2. リハビリテーションの概念と看護の役割を理解する。 3. 機能障害別リハビリテーション看護について理解する。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人領域における障害を受けた患者の看護について講義する。) 																																				
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">第 1 回</td> <td>リハビリテーション看護の考え方、倫理と法的問題</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>リハビリテーション看護を必要とする対象の特徴と理解</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>消化器系の障害を受けた患者の看護</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>運動器系に障害を受けた患者の看護（脊椎損傷）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）、嚥下リハビリ</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>女性生殖器に障害を受けた患者の看護（乳がん）</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>看護過程の展開・・・事例 乳がんの患者の看護（導入・グループワーク）</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>事例 乳がんの患者の看護（グループワーク）</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>事例 乳がんの患者の看護（まとめ）</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>事例 乳がんの患者の看護（発表/総評）</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク）</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク・まとめ）</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（発表・総評）</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ / 試験</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～3 回 中谷洋見（10）・第 4～6 回 塩田和代（30）・第 7～11 回 西紋かな（30）・ 第 8～15 回本村香代子（30）</p>							第 1 回	リハビリテーション看護の考え方、倫理と法的問題	第 2 回	リハビリテーション看護を必要とする対象の特徴と理解	第 3 回	消化器系の障害を受けた患者の看護	第 4 回	運動器系に障害を受けた患者の看護（脊椎損傷）	第 5 回	脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）	第 6 回	脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）、嚥下リハビリ	第 7 回	女性生殖器に障害を受けた患者の看護（乳がん）	第 8 回	看護過程の展開・・・事例 乳がんの患者の看護（導入・グループワーク）	第 9 回	事例 乳がんの患者の看護（グループワーク）	第 10 回	事例 乳がんの患者の看護（まとめ）	第 11 回	事例 乳がんの患者の看護（発表/総評）	第 12 回	日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク）	第 13 回	日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク・まとめ）	第 14 回	日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（発表・総評）	第 15 回	まとめ / 試験
第 1 回	リハビリテーション看護の考え方、倫理と法的問題																																			
第 2 回	リハビリテーション看護を必要とする対象の特徴と理解																																			
第 3 回	消化器系の障害を受けた患者の看護																																			
第 4 回	運動器系に障害を受けた患者の看護（脊椎損傷）																																			
第 5 回	脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）																																			
第 6 回	脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）、嚥下リハビリ																																			
第 7 回	女性生殖器に障害を受けた患者の看護（乳がん）																																			
第 8 回	看護過程の展開・・・事例 乳がんの患者の看護（導入・グループワーク）																																			
第 9 回	事例 乳がんの患者の看護（グループワーク）																																			
第 10 回	事例 乳がんの患者の看護（まとめ）																																			
第 11 回	事例 乳がんの患者の看護（発表/総評）																																			
第 12 回	日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク）																																			
第 13 回	日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク・まとめ）																																			
第 14 回	日常生活行動の援助技術 ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（発表・総評）																																			
第 15 回	まとめ / 試験																																			
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク / 校内実習 / 視聴覚教材</p>																																				
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>																																				
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑦脳・神経、⑩運動器、⑤消化器、⑨女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院</p>																																				
<p>13 学生への要望</p> <p>リハビリテーションの基本や方法などを学び、臨地実習での援助に役立てて欲しい。</p>																																				

成人看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	金丸とも子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法における看護に必要な知識と方法を理解する。 2. 主な手術療法を受ける人の術前術後の看護の特徴と援助方法について理解する。 3. 手術を受ける患者、家族の精神的援助方法について理解する。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 周手術期にある患者の術前/術中/術後の看護 手術療法の過程 周手術期におけるチーム医療 インフォームドコンセント</p> <p>第 2 回 校内実習 術後ベッドメイキング/手術前の剃毛/外科的手洗い</p> <p>第 3 回 意識レベルの測定と記録の仕方</p> <p>第 4 回 開腹術を受ける人の看護（術前の看護、術前に行われる検査、処置）</p> <p>第 5 回 開腹術を受ける人の看護（術後合併症の予防と看護）</p> <p>第 6 回 開胸術を受ける人の看護（術前の看護/術後合併症の予防と看護） 呼吸リハビリ</p> <p>第 7 回 開頭術を受ける人の看護（脳神経症状の観察と看護/術後合併症の予防と看護） 内視鏡による手術の看護</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 校内実習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>術前、術中、術後の看護を学び臨地実習での援助に役立てて欲しい。 自宅での学習も十分にしておいて欲しい。</p>						

成人看護方法論Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	西村登志子（看護師） 中澤尚子
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 慢性期の病態を理解し、セルフケア再獲得についての援助を理解する。</p> <p>2. セルフケアが低下した状態に陥ったとき、セルフケアを再獲得し、その人らしく生きていく看護を理解する。（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、成人疾患におけるセルフケアと看護について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 セルフケアマネジメント・セルフケア低下状態にある対象の理解</p> <p>第 2 回 セルフケア再獲得を支援する看護（システム・アドボカシー）</p> <p>第 3～4 回 腎不全をもつ患者の看護（日常生活指導/食事指導など）</p> <p>第 5 回 慢性閉塞性肺疾患をもつ患者の看護</p> <p>第 6 回 糖尿病合併症の予防と看護</p> <p>第 7 回 糖尿病をもつ患者の食事指導及びインスリン自己注射（視聴覚教材/デモスト）</p> <p>第 8 回 糖尿病患者の自己血糖測定法の実際</p> <p>第 9～10 回 肝障害をもつ患者患者の看護（肝硬変症・C型肝炎患者の看護）</p> <p>第 11～12 回 人工肛門造設術をうける看護（ストーマ管理/社会資源の活用その他）</p> <p>第 13 回 心不全の患者の看護</p> <p>第 14 回 脳・神経の障害をもつ患者の看護（脳梗塞患者の合併症の予防）</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～10 回、第 13～15 回 西村登志子（100）・第 11～12 回 中澤尚子</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 校内実習 / グループワーク / 視聴覚教材 / デモスト</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②呼吸器、⑤消化器、⑩運動器、⑥内分泌・代謝、⑧腎・泌尿器、⑦脳・神経 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>セルフケア再獲得における精神面、身体面、社会面の援助を学び臨地実習で役立てて欲しい。</p>						

成人看護方法論Ⅴ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	北村弘江（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期の病態や対象を理解し、その援助を理解する。 2. 人間の死をどうとらえるか、また延命治療との違いなどターミナルを理解しそのアプローチや苦痛の緩和、精神的援助を理解する。 3. 終末期における患者や家族を理解し、様々な苦痛に対する援助を理解する。 4. 死生観や QOL の視点から日常生活援助を理解する。 (病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、終末期における看護について講義する。) 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 生と死を支えるケア</p> <p>第 2 回 緩和ケアにおける倫理的課題</p> <p>第 3 回 緩和ケアにおける看護介入</p> <p>第 4 回 緩和ケアにおけるチームアプローチ</p> <p>第 5 回 緩和ケアとギアチェンジ</p> <p>第 6 回 終末期患者の身体的苦痛に対する緩和ケア</p> <p>第 7 回 終末期患者の精神的ケア</p> <p>第 8 回 社会的苦痛に対するアプローチ</p> <p>第 9 回 スピリチュアルケア</p> <p>第 10 回 終末期の家族ケア</p> <p>第 11 回 校内実習（死後の処置）</p> <p>第 12 回 事例展開 緩和ケアの実際（グループワーク）</p> <p>第 13 回 事例展開 緩和ケアの実際（まとめ）</p> <p>第 14 回 事例展開 緩和ケアの実際（発表・総評）</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 校内実習 / グループワーク / 視聴覚教材</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②呼吸器 医学書院</p> <p>緩和ケア 南江堂</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>死生論、生命倫理学、哲学などを想起し、人の死をどうとらえるか考え、臨地実習での援助に役立てて欲しい。</p>						

老年看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	小室直子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 高齢者の特徴や加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を看護の視点から理解できる。</p> <p>2. 高齢者の生活を保健・医療・福祉と関連づけて理解できる。</p> <p>3. 高齢者と家族及び支える人を対象とした、老年看護の機能と役割が理解できる。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護における特徴とその理解について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 老いるということ、老いを生きるということ 高齢者の理解 グループワーク「老いとは何か」</p> <p>第 2～4 回 超高齢社会と社会保障 保健医療福祉の動向と超高齢社会の現況（権利擁護・虐待・身体拘束） 新聞記事を用いてのグループワーク</p> <p>第 5 回 老年看護の成り立ち 老年看護教育の発展 老年看護の役割</p> <p>第 6～7 回 高齢者のヘルスアセスメント 身体の高齢変化とアセスメント（感覚器・循環器・呼吸器・運動器）</p> <p>第 8 回 まとめ・試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>老化現象というマイナスイメージだけでなく、エイジングの多様でポジティブな側面に着眼しつつ、広い視野から老年看護を学んで欲しい。また、高齢者を取りまく施策の動きに注目して欲しい。</p>						

老年看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	小室直子（看護師）
8 授業概要および到達目標 1. 老年看護の原理と倫理を機軸に置いた活動の展開方法が理解できる。 2. 加齢現象が日常生活に及ぼす影響をふまえ、生活機能の観点から日常生活援助の基本が習得できる。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、加齢現象が日常生活に及ぼす援助について講義する。）						
9 授 業 計 画 第 1～5 回 高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本的活動、食事・食生活、排泄、清潔、生活リズム、 コミュニケーション セクシュアリティ、社会参加 第 6～9 回 健康逸脱から回復を促す看護 症候のアセスメントと看護、身体疾患のある高齢者の看護、 認知機能障害のある高齢者の看護 第 10～ 治療を必要とする高齢者の看護 12 回 検査・薬物療法を受ける高齢者の看護、手術を受ける高齢者の看護 リハビリテーション・入院治療を受ける高齢者の看護 第 13 回 エンドオブライフケア エンドオブライフケアの概念、死生観、意思決定支援、末期段階に求められる援助 第 14 回 生活療養の場における看護 高齢者とヘルスプロモーション、住まい・家族への援助 第 15 回 高齢者のリスクマネジメント 医療安全・救命救急・災害						
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / グループワーク						
11 評 価 方 法 試験 / レポート						
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院						
13 学生への要望 超高齢社会における健康長寿をめざし、高齢者への対応を学びそれを実践して社会に貢献してほしい。						

老年看護方法論 II

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員														
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	井川咲子														
8 授業概要および到達目標 1. 老年者の生理的特徴から症状の現れ方や罹患しやすい疾患を関連づけて考えることができる。 2. 老年者の健康障害の特徴をふまえ、QOL を重視した看護を展開できる基礎的能力が習得できる。																				
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; vertical-align: top;">第 1 回</td> <td style="vertical-align: top;">高齢者の生理的特徴</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 2～4 回</td> <td style="vertical-align: top;"> 老年症候群 老年症候群の特徴、おもに急性疾患に付随する症候、おもに慢性疾患に付随する症候 主に ADL 低下に合併する症候、フレイル </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 5～6 回</td> <td style="vertical-align: top;"> 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 高齢者のフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定・身体測定、 訪問場面での健康状態の把握、高齢者総合機能評価 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 7～11 回</td> <td style="vertical-align: top;"> 高齢者の疾患の特徴 認知症、精神・神経疾患、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、 内分泌・代謝系の疾患、自己免疫疾患、血液の疾患、腎・泌尿器系の疾患、運動器の疾患 皮膚の疾患、感覚器の疾患、歯・口腔の疾患、感染症 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 12 回</td> <td style="vertical-align: top;">高齢者と薬</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 13～14 回</td> <td style="vertical-align: top;"> 高齢者のリハビリテーション 高齢者におけるリハビリテーションとは、内部障害リハビリテーション 肢体不自由リハビリテーション、廃用性疾患のリハビリテーション、 非薬物療法としてのリハビリテーション </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 15 回</td> <td style="vertical-align: top;">まとめ・試験</td> </tr> </table>							第 1 回	高齢者の生理的特徴	第 2～4 回	老年症候群 老年症候群の特徴、おもに急性疾患に付随する症候、おもに慢性疾患に付随する症候 主に ADL 低下に合併する症候、フレイル	第 5～6 回	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 高齢者のフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定・身体測定、 訪問場面での健康状態の把握、高齢者総合機能評価	第 7～11 回	高齢者の疾患の特徴 認知症、精神・神経疾患、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、 内分泌・代謝系の疾患、自己免疫疾患、血液の疾患、腎・泌尿器系の疾患、運動器の疾患 皮膚の疾患、感覚器の疾患、歯・口腔の疾患、感染症	第 12 回	高齢者と薬	第 13～14 回	高齢者のリハビリテーション 高齢者におけるリハビリテーションとは、内部障害リハビリテーション 肢体不自由リハビリテーション、廃用性疾患のリハビリテーション、 非薬物療法としてのリハビリテーション	第 15 回	まとめ・試験
第 1 回	高齢者の生理的特徴																			
第 2～4 回	老年症候群 老年症候群の特徴、おもに急性疾患に付随する症候、おもに慢性疾患に付随する症候 主に ADL 低下に合併する症候、フレイル																			
第 5～6 回	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 高齢者のフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定・身体測定、 訪問場面での健康状態の把握、高齢者総合機能評価																			
第 7～11 回	高齢者の疾患の特徴 認知症、精神・神経疾患、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、 内分泌・代謝系の疾患、自己免疫疾患、血液の疾患、腎・泌尿器系の疾患、運動器の疾患 皮膚の疾患、感覚器の疾患、歯・口腔の疾患、感染症																			
第 12 回	高齢者と薬																			
第 13～14 回	高齢者のリハビリテーション 高齢者におけるリハビリテーションとは、内部障害リハビリテーション 肢体不自由リハビリテーション、廃用性疾患のリハビリテーション、 非薬物療法としてのリハビリテーション																			
第 15 回	まとめ・試験																			
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / グループワーク																				
11 評 価 方 法 試験 / レポート																				
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院																				
13 学生への要望 高齢者におこりやすい疾患と看護について学習します。「疾病と治療」で学習した内容を確認しておきましょう。																				

老年看護方法論 III

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	荻田育代（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 老年期にある対象を総合的に理解し、高齢者の特性に応じた看護過程の展開の方法を習得する。</p> <p>2. 老年看護を实践するうえで必要な看護理論を活用する方法を習得する。 （病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年期にある対象の看護過程について講義・演習する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 老年看護過程の考え方</p> <p>第 2 回 老年看護過程における理論・概念の活用</p> <p>第 3・4 回 老年看護過程におけるアセスメント（ヘルスケア・生活機能）</p> <p>第 5 回 老年看護過程における看護情報の分析</p> <p>第 6 回 老年看護過程の看護の焦点（問題解決思考・目標志向型思考）と全体像</p> <p>第 7 回 健康障害をもつ高齢者の看護上の問題点の明確化</p> <p>第 8 回 老年看護過程の倫理的側面</p> <p>第 9・10 回 老年看護過程の具体的展開（看護計画）①②</p> <p>第 11・12 回 老年看護過程の具体的展開（実施・実施後の評価）①②</p> <p>第 13 回 老年看護過程の実施におけるリフレクション</p> <p>第 14 回 質の高い老年看護の提供に向けた看護理論の活用</p> <p>第 15 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>筆記試験・レポート・演習態度等の総合評価</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>看護過程の解体新書 学研</p> <p>根拠が分かる疾患別看護過程 南江堂</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>老年期に関わる看護職は様々な場面で看護を实践しているため、高齢者の尊厳や生活をまもりながらエンドオブライフケアを实践する方法として老年看護過程を学びます。学生自身の看護観・老年観・死生観を統合しながら学習を深めていきましょう。</p>						

小児看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																								
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	松田美穂（看護師）																								
8 授業概要および到達目標 1. 小児看護の特徴、理念と目標、役割を理解する。 2. 小児期の発達過程と各期の特徴を理解する。 3. 小児の発達課題とその意義について理解する。 4. 小児を取り巻く環境と社会システムや制度について理解する。 （病院の小児看護に携わった経験を持つ教員が、小児特徴の特徴と成長発達について講義する。）																														
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 40%;">小児看護の特徴と理念 諸統計)</td> <td style="width: 50%;">（小児看護の目指すところ・小児看護の変遷・課題・小児と家族の</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>小児の成長発達</td> <td>（成長発達とは・成長発達に影響する因子）</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>小児の栄養</td> <td>（子どもにとっての栄養の意義・発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護）</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>家族の特徴とアセスメント</td> <td>（子どもにとっての家族とは・家族アセスメント）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td colspan="2">小児を取り巻く現代社会の動向（小児保健・福祉行政の推移）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>小児をめぐる法律と政策</td> <td>（児童福祉法・母子保健法・児童虐待防止法・少子化対策 etc）</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>小児と家族を取り巻く社会</td> <td>（学校保健・予防接種・病児教育）</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td colspan="2">まとめ / 試験</td> </tr> </table>							第 1 回	小児看護の特徴と理念 諸統計)	（小児看護の目指すところ・小児看護の変遷・課題・小児と家族の	第 2 回	小児の成長発達	（成長発達とは・成長発達に影響する因子）	第 3 回	小児の栄養	（子どもにとっての栄養の意義・発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護）	第 4 回	家族の特徴とアセスメント	（子どもにとっての家族とは・家族アセスメント）	第 5 回	小児を取り巻く現代社会の動向（小児保健・福祉行政の推移）		第 6 回	小児をめぐる法律と政策	（児童福祉法・母子保健法・児童虐待防止法・少子化対策 etc）	第 7 回	小児と家族を取り巻く社会	（学校保健・予防接種・病児教育）	第 8 回	まとめ / 試験	
第 1 回	小児看護の特徴と理念 諸統計)	（小児看護の目指すところ・小児看護の変遷・課題・小児と家族の																												
第 2 回	小児の成長発達	（成長発達とは・成長発達に影響する因子）																												
第 3 回	小児の栄養	（子どもにとっての栄養の意義・発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護）																												
第 4 回	家族の特徴とアセスメント	（子どもにとっての家族とは・家族アセスメント）																												
第 5 回	小児を取り巻く現代社会の動向（小児保健・福祉行政の推移）																													
第 6 回	小児をめぐる法律と政策	（児童福祉法・母子保健法・児童虐待防止法・少子化対策 etc）																												
第 7 回	小児と家族を取り巻く社会	（学校保健・予防接種・病児教育）																												
第 8 回	まとめ / 試験																													
10 学 習 方 法 講義 / グループワーク																														
11 評 価 方 法 課題 / 試験																														
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 配布資料																														
13 学生への要望 成長・発達する子どものあり様について学びましょう。 小児とその家族を取り巻く環境について学び、小児看護の役割や目的について考えましょう。																														

小児看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	松田美穂（看護師）
8 授業概要および到達目標 1. 小児の成長発達およびそれぞれの発達段階に応じたかかわりについて理解する。 2. 小児が健康な生活を送り健全に発達を遂げるため必要な援助について理解する。 （病院の小児看護に携わった経験を持つ教員が、小児各期における特徴と発達課題への援助について講義する。）						
9 授 業 計 画 第 1 回 新生児期の成長・発達の特徴と発達課題への援助 第 2 回 乳児期の成長・発達の特徴と発達課題への援助 第 3 回 幼児期の成長・発達の特徴と発達課題への援助 第 4 回 学童期の成長・発達の特徴と発達課題への援助 第 5 回 思春期の成長・発達の特発達課題への援助 第 6 回 小児期における事故防止 第 7 回 校内演習・小児の日常生活援助 第 8 回 まとめ / 試験						
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / グループワーク						
11 評 価 方 法 レポート / 試験 / 提出物						
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院						
13 学生への要望 小児各期の発達段階における特徴について学びましょう。 身体・精神・社会的各側面での成長発達を具体的にとらえ望ましい援助について学びましょう。						

小児看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	徳地暢子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 疾病や障害が小児とその家族に及ぼす影響と反応を理解する。</p> <p>2. 疾病や障害を持つ小児とその家族に応じた看護を理解する。</p> <p>3. 小児看護に必要な看護技術を習得する。</p> <p style="padding-left: 20px;">（病院の小児看護に携わった経験を持つ教員が、疾病や障害を持つ小児に必要な看護について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 病気・障害を持つ小児と家族の看護・21 トリソミーの小児の看護</p> <p>第 2 回 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護</p> <p>第 3 回 慢性期にある小児と家族の看護・糖尿病の小児の看護</p> <p>第 4 回 急性期にある小児と家族の看護・ファロー四徴症の子どもの看護</p> <p>第 5 回 周手術期にある小児と家族の看護・口唇口蓋裂の小児の看護</p> <p>第 6 回 終末期の小児と家族の看護</p> <p>第 7 回 小児のアセスメント（バイタルサイン・身体測定・呼吸器系・心血管系）</p> <p>第 8 回 小児のアセスメント（筋・骨格系・神経系・生殖器系）</p> <p>第 9 回 症状を示す小児と家族の看護（疼痛・啼泣・発熱・嘔吐・下痢・脱水・発疹ほか）</p> <p>第 10 回 症状を示す小児と家族の看護（呼吸困難・チアノーゼ・意識障害・けいれん・出血・ショック）</p> <p>第 11 回 検査・処置を受ける小児と家族の看護</p> <p>第 12 回 障害のある小児と家族の看護・脳性麻痺の小児の看護</p> <p>第 13 回 災害を受けた小児の看護</p> <p>第 14 回 虐待と看護</p> <p>第 15 回 筆記試験 / 実技試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / ビデオ / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>筆記試験 / 提出物</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門 Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>健康障害を持つ小児の特徴と症状、看護の実際について学びましょう。</p> <p>健康障害を持つ小児を支える家族に対する看護について学びましょう。</p>						

小児看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	高畑美佳（看護師）
8 授業概要および到達目標 1. 小児の健康上の問題を解決するため、事例を通して看護過程を展開する。 2. 自己の育児観を養う。 （病院の小児看護業務に携わった経験を持つ教員が、小児の健康上の問題について講義する。）						
9 授 業 計 画 第 1 回 小児看護における看護過程/アセスメントの視点 （白血病の小児と家族の看護） 第 2 回 小児看護における看護過程/看護診断 （白血病の小児と家族の看護） 第 3 回 看護過程の展開 学童期にある気管支喘息の小児とその家族の看護・・・導入・グループ討議 第 4 回 学童期にある気管支喘息の小児とその家族の看護・・・グループ討議 第 5 回 学童期にある気管支喘息の小児とその家族の看護・・・発表・意見交換・総評 第 6 回 看護過程の展開 幼児期にある川崎病の小児とその家族の看護・・・導入・グループ討議 第 7 回 幼児期にある川崎病の小児とその家族の看護・・・グループ討議 第 8 回 幼児期にある川崎病の小児とその家族の看護・・・発表・意見交換・総評 第 9 回 看護過程の展開 乳児期にあるロタウイルス感染症の小児と家族の看護・・・導入・グループ討議 第 10 回 乳児期にあるロタウイルス感染症の小児と家族の看護・・・グループ討議 第 11 回 乳児期にあるロタウイルス感染症の小児と家族の看護・・・発表・意見交換・総評 第 12 回 模擬患者を設定しパンフレット/ポスターの作成 第 13 回 模擬患者を設定しパンフレット/ポスターの作成 第 14 回 模擬患者を設定しパンフレット/ポスターの作成と発表 第 15 回 まとめ / 試験						
10 学 習 方 法 毎回 2 グループ（1 グループ 5 名）が、それぞれのテーマに沿って学習した内容を発表し、その内容を中心に意見交換、解説を行なって学習内容を深める。						
11 評 価 方 法 試験 / レポート						
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院						
13 学生への要望 小児の看護をさらに実践に移した形で深めていく。 一人一人の子供観、看護観、病気観をさらに見つめ、真剣に子供とその家族と対面できる自分を育ててほしい。						

母性看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	中江秀美（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性とは何か、現代における母性のとらえ方について理解を深める。 2. 母性統計の変遷から母性の特徴を理解する。 3. 母性に関連した法的保護を理解する 4. 母性を取り巻く性の多様性と国際化について学ぶ。 （病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、母性を取り巻く現況について講義する。） 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 （母性とは/リプロダクティブヘルス）</p> <p>第 2 回 人間の性と生殖 （性の多様性/性同一性障害）</p> <p>第 3 回 母子保健統計の動向</p> <p>第 4 回 母子保健における関係法規</p> <p>第 5 回 母子保健における関係法規</p> <p>第 6 回 女性保護に関連した現状と法律</p> <p>第 7 回 母子保健の国際化/在日外国人の母子保健</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>母性を取り巻く環境、特に国際化と性の多様性とは大きく変化し、その変化は法にまで及んでいる。社会情勢にも注意を払ってもらいたい。</p>						

母性看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	中江秀美（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 女性のライフサイクルの変化と健康問題が理解できる。</p> <p>2. 母性各期のホルモン変動を理解しリプロダクティブヘルスへの援助について学ぶ。 （病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、母性各期の健康問題について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 ライフサイクルにおける女性の健康</p> <p>第 2 回 母性各期のホルモン変動</p> <p>第 3 回 思春期女性の健康問題と看護</p> <p>第 4 回 成熟期女性の健康問題と看護</p> <p>第 5 回 家族計画／リプロダクティブヘルス</p> <p>第 6 回 性周期と受胎調節</p> <p>第 7 回 更年期女性の健康問題と看護</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / 演習の成果</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 家族計画と受胎調節については配布資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>対象となる学生は成熟期に向かう時期にあることから、基礎体温を測定してもらいたい。この取り組みにより、授業の理解を助け、自らの卵巣機能を知る機会になることを期待する。</p>						

母性看護方法論 II

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																																
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	藤川シズ子 中江秀美（看護師） 湯浅幸子（看護師）																																																
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期における看護ができる能力を養う。 2. 妊娠・分娩・産褥の期間を通して、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話することができるように援助する方法を学ぶ。 3. 母性看護に必要な看護技術を習得できる。 (病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、周産期における看護について講義する。) 																																																						
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 50%;">遺伝相談・出生前診断</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>不妊症・不妊検査・不妊治療における制度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>妊娠期における看護</td> <td>(妊娠期の身体的特性)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>妊娠期における看護</td> <td>(妊娠期の心理・社会的変化)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>妊娠期における看護</td> <td>(妊婦と胎児のアセスメント/妊婦と家族の看護)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>妊娠期の看護に必要な技術</td> <td>(妊婦健康診査) 腹囲測定・子宮底の測定・レオポルド触診法 妊婦体験・妊婦体操・乳房の手当て</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>分娩期における看護</td> <td>(分娩の要素/分娩の経過)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>分娩期における看護</td> <td>(産婦・胎児・家族のアセスメント)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>分娩期における看護</td> <td>(産婦と家族の看護/分娩期の看護の実際)</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>産褥期における看護</td> <td>(産褥経過/褥婦のアセスメント)</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>産褥期における看護</td> <td>(褥婦と家族の看護/施設退院後の看護)</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td colspan="2">妊娠・分娩・産褥期における看護過程</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>新生児期における看護</td> <td>(新生児の生理/新生児のアセスメント)</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>新生児期における看護</td> <td>(新生児の看護)</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>新生児の看護に必要な技術</td> <td>新生児諸計測・沐浴</td> </tr> <tr> <td>第 16 回</td> <td colspan="2">試験</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～2 回 中江秀美 (10)・第 3～14 回 藤川シズコ (80)・第 15 回 湯浅幸子 (10)</p>							第 1 回	遺伝相談・出生前診断		第 2 回	不妊症・不妊検査・不妊治療における制度		第 3 回	妊娠期における看護	(妊娠期の身体的特性)	第 4 回	妊娠期における看護	(妊娠期の心理・社会的変化)	第 5 回	妊娠期における看護	(妊婦と胎児のアセスメント/妊婦と家族の看護)	第 6 回	妊娠期の看護に必要な技術	(妊婦健康診査) 腹囲測定・子宮底の測定・レオポルド触診法 妊婦体験・妊婦体操・乳房の手当て	第 7 回	分娩期における看護	(分娩の要素/分娩の経過)	第 8 回	分娩期における看護	(産婦・胎児・家族のアセスメント)	第 9 回	分娩期における看護	(産婦と家族の看護/分娩期の看護の実際)	第 10 回	産褥期における看護	(産褥経過/褥婦のアセスメント)	第 11 回	産褥期における看護	(褥婦と家族の看護/施設退院後の看護)	第 12 回	妊娠・分娩・産褥期における看護過程		第 13 回	新生児期における看護	(新生児の生理/新生児のアセスメント)	第 14 回	新生児期における看護	(新生児の看護)	第 15 回	新生児の看護に必要な技術	新生児諸計測・沐浴	第 16 回	試験	
第 1 回	遺伝相談・出生前診断																																																					
第 2 回	不妊症・不妊検査・不妊治療における制度																																																					
第 3 回	妊娠期における看護	(妊娠期の身体的特性)																																																				
第 4 回	妊娠期における看護	(妊娠期の心理・社会的変化)																																																				
第 5 回	妊娠期における看護	(妊婦と胎児のアセスメント/妊婦と家族の看護)																																																				
第 6 回	妊娠期の看護に必要な技術	(妊婦健康診査) 腹囲測定・子宮底の測定・レオポルド触診法 妊婦体験・妊婦体操・乳房の手当て																																																				
第 7 回	分娩期における看護	(分娩の要素/分娩の経過)																																																				
第 8 回	分娩期における看護	(産婦・胎児・家族のアセスメント)																																																				
第 9 回	分娩期における看護	(産婦と家族の看護/分娩期の看護の実際)																																																				
第 10 回	産褥期における看護	(産褥経過/褥婦のアセスメント)																																																				
第 11 回	産褥期における看護	(褥婦と家族の看護/施設退院後の看護)																																																				
第 12 回	妊娠・分娩・産褥期における看護過程																																																					
第 13 回	新生児期における看護	(新生児の生理/新生児のアセスメント)																																																				
第 14 回	新生児期における看護	(新生児の看護)																																																				
第 15 回	新生児の看護に必要な技術	新生児諸計測・沐浴																																																				
第 16 回	試験																																																					
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>																																																						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>																																																						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院</p>																																																						
<p>13 学生への要望</p> <p>授業予定内容については、学習効果を上げるためにも予習をして授業に望むこと。</p>																																																						

精神看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																								
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	中谷洋見（看護師）																								
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の位置づけ、目的、対象の特徴、心の健康について、看護の機能と役割について理解できる。 2. 人格がそれぞれの人の生活にどのように影響するか理解できる。 3. 人間関係としての家族・集団の特性とダイナミクスについて学ぶ。 4. 精神を病むとはどういうものなのか考える。 (病院の精神看護業務に携わった経験を持つ教員が、人間の心のはたらきについて講義する。) 																														
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 40%;">精神看護学で学ぶこと 「心のケア」と現代社会</td> <td style="width: 50%;">精神看護学とその課題</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>精神看護学で学ぶこと</td> <td>精神障害者の体験と精神看護 精神看護学で何を学ぶのか</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td colspan="2">精神保健の考え方</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>人間の心のはたらきとパーソナリティ</td> <td>人間の心の諸活動</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>人間の心のはたらきとパーソナリティ</td> <td>心のしくみと人格の発達</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td colspan="2">関係のなかの人間</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td colspan="2">関係のなかの人間</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td colspan="2">まとめ / 試験</td> </tr> </table>							第 1 回	精神看護学で学ぶこと 「心のケア」と現代社会	精神看護学とその課題	第 2 回	精神看護学で学ぶこと	精神障害者の体験と精神看護 精神看護学で何を学ぶのか	第 3 回	精神保健の考え方		第 4 回	人間の心のはたらきとパーソナリティ	人間の心の諸活動	第 5 回	人間の心のはたらきとパーソナリティ	心のしくみと人格の発達	第 6 回	関係のなかの人間		第 7 回	関係のなかの人間		第 8 回	まとめ / 試験	
第 1 回	精神看護学で学ぶこと 「心のケア」と現代社会	精神看護学とその課題																												
第 2 回	精神看護学で学ぶこと	精神障害者の体験と精神看護 精神看護学で何を学ぶのか																												
第 3 回	精神保健の考え方																													
第 4 回	人間の心のはたらきとパーソナリティ	人間の心の諸活動																												
第 5 回	人間の心のはたらきとパーソナリティ	心のしくみと人格の発達																												
第 6 回	関係のなかの人間																													
第 7 回	関係のなかの人間																													
第 8 回	まとめ / 試験																													
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>																														
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																														
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院</p>																														
<p>13 学生への要望</p> <p>心を病むという意味を真剣に考えてほしい。</p>																														

精神看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																													
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	山野泰子																																													
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 精神障害とよばれている心の不健康状態に、どのような種類があるか、どんな領域に広がっているのかを概観的に知り、精神障害とは何かを正しく理解できる。</p> <p>2. 精神障害のときにしばしばみられる精神症状の主なものについて学ぶ。</p> <p>3. 精神科での治療について学ぶ。</p>																																																			
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 40%;">精神科で出会う人々</td> <td style="width: 50%;">精神を病むことと生きること</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>精神科で出会う人々</td> <td>精神症状論と状態像</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>精神科での治療</td> <td>精神科における治療</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>精神科での治療</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>精神科での治療</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>精神科での治療</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ / 試験</td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	精神科で出会う人々	精神を病むことと生きること	第 2 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 3 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 4 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 5 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 6 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 7 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 8 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 9 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 10 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	第 11 回	精神科での治療	精神科における治療	第 12 回	精神科での治療		第 13 回	精神科での治療		第 14 回	精神科での治療		第 15 回	まとめ / 試験	
第 1 回	精神科で出会う人々	精神を病むことと生きること																																																	
第 2 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 3 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 4 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 5 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 6 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 7 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 8 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 9 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 10 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像																																																	
第 11 回	精神科での治療	精神科における治療																																																	
第 12 回	精神科での治療																																																		
第 13 回	精神科での治療																																																		
第 14 回	精神科での治療																																																		
第 15 回	まとめ / 試験																																																		
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>																																																			
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																																																			
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院</p>																																																			
<p>13 学生への要望</p> <p>精神看護の基礎となるものを学習し、精神看護の役割と進むべき方向を展望してほしい。</p>																																																			

精神看護方法論 II

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																																												
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	中谷洋見(看護師) 篠原亘広・柏民泰尚 松本仁宏・岩田正剛 三浦幸子																																																												
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 精神障害や疾患をかかえた人をケアする際の原則が理解できる。</p> <p>2. 入院治療と看護の展開について理解できる。</p> <p>3. 精神保健医療福祉をめぐる法制度（精神保健福祉法）について学ぶとともに、サービス提供の場と機能、それぞれの場における看護師の役割について理解することができる。 (病院の精神看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神障害を持つ患者の看護と制度について講義する。)</p>																																																																		
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 30%;">リエゾン精神看護</td> <td style="width: 30%;"></td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>リエゾン精神看護</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>社会のなかの精神障害</td> <td>精神障害と治療の歴史</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>社会のなかの精神障害</td> <td>精神障害と法制度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>地域における精神看護</td> <td>生活を支える制度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>ケアの人間関係</td> <td>ケアの原則</td> <td>関係をアセスメントする</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>ケアの人間関係</td> <td>患者－看護師関係でおこること</td> <td>チームのダイナミクス</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>回復を助ける</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>回復を助ける</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>安全を守る</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>安全を守る</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>身体をケアする</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>身体をケアする</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>地域における精神看護</td> <td>地域で精神障害者を支援するための方法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ / 試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="margin-left: 40px;">第 1～5 回、中谷洋見 (30) ・ 第 6～7 回 篠原亘広 ・ 第 8～9 回 柏民泰尚 第 10～11 回 松本仁宏 ・ 第 12～13 回 岩田正剛 ・ 第 14 回 三浦幸子 (70)</p>							第 1 回	リエゾン精神看護			第 2 回	リエゾン精神看護			第 3 回	社会のなかの精神障害	精神障害と治療の歴史		第 4 回	社会のなかの精神障害	精神障害と法制度		第 5 回	地域における精神看護	生活を支える制度		第 6 回	ケアの人間関係	ケアの原則	関係をアセスメントする	第 7 回	ケアの人間関係	患者－看護師関係でおこること	チームのダイナミクス	第 8 回	回復を助ける			第 9 回	回復を助ける			第 10 回	安全を守る			第 11 回	安全を守る			第 12 回	身体をケアする			第 13 回	身体をケアする			第 14 回	地域における精神看護	地域で精神障害者を支援するための方法		第 15 回	まとめ / 試験		
第 1 回	リエゾン精神看護																																																																	
第 2 回	リエゾン精神看護																																																																	
第 3 回	社会のなかの精神障害	精神障害と治療の歴史																																																																
第 4 回	社会のなかの精神障害	精神障害と法制度																																																																
第 5 回	地域における精神看護	生活を支える制度																																																																
第 6 回	ケアの人間関係	ケアの原則	関係をアセスメントする																																																															
第 7 回	ケアの人間関係	患者－看護師関係でおこること	チームのダイナミクス																																																															
第 8 回	回復を助ける																																																																	
第 9 回	回復を助ける																																																																	
第 10 回	安全を守る																																																																	
第 11 回	安全を守る																																																																	
第 12 回	身体をケアする																																																																	
第 13 回	身体をケアする																																																																	
第 14 回	地域における精神看護	地域で精神障害者を支援するための方法																																																																
第 15 回	まとめ / 試験																																																																	
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>																																																																		
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																																																																		
<p>12 教科書及び参考書</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">系統看護学講座</td> <td style="width: 15%;">専門Ⅱ</td> <td style="width: 15%;">精神看護学①</td> <td style="width: 15%;">精神看護の基礎</td> <td style="width: 40%;">医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門Ⅱ</td> <td>精神看護学②</td> <td>精神看護の展開</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>							系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学①	精神看護の基礎	医学書院	系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学②	精神看護の展開	医学書院																																																		
系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学①	精神看護の基礎	医学書院																																																														
系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学②	精神看護の展開	医学書院																																																														
<p>13 学生への要望</p> <p>多様な精神症状の背景には、解決できないまま抱え続けてきた葛藤や、傷ついた体験があり、精神障害者ゆえにスティグマを負った人生があるということに気づいてほしい。</p>																																																																		

精神看護方法論 III

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																																																												
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	中谷洋見（看護師）																																																																												
8 授業概要および到達目標 1. 事例・演習を通して看護過程を展開し、精神看護の能力を養う。 2. 地域で生活する精神障害者の援助を理解することができる。 （病院の精神看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神障害のある患者の看護の展開について講義する。）																																																																																		
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 30%;">精神看護の特徴</td> <td style="width: 30%;"></td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>精神看護の特徴</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 1) 統合失調症の急性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 1) 統合失調症の急性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 1) 統合失調症の急性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 1) 統合失調症の急性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 1) 統合失調症の急性期</td> <td>発表・意見交換・評価</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 2) 統合失調症の慢性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 2) 統合失調症の慢性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 2) 統合失調症の慢性期</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 2) 統合失調症の慢性期</td> <td>発表・意見交換・評価</td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 3) 気分障害患者</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 3) 気分障害患者</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 3) 気分障害患者</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 3) 気分障害患者</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護過程の展開</td> <td>事例 3) 気分障害患者</td> <td>発表・意見交換・評価</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ / 試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	精神看護の特徴			第 2 回	精神看護の特徴			第 3 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期		第 4 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期		第 5 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期		第 6 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期		第 7 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期	発表・意見交換・評価	第 8 回	看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期			看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期			看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期			看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期	発表・意見交換・評価		看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者			看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者			看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者			看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者			看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者	発表・意見交換・評価	第 13 回	看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス			第 14 回	看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス			第 15 回	まとめ / 試験		
第 1 回	精神看護の特徴																																																																																	
第 2 回	精神看護の特徴																																																																																	
第 3 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期																																																																																
第 4 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期																																																																																
第 5 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期																																																																																
第 6 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期																																																																																
第 7 回	看護過程の展開	事例 1) 統合失調症の急性期	発表・意見交換・評価																																																																															
第 8 回	看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期																																																																																
	看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期																																																																																
	看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期																																																																																
	看護過程の展開	事例 2) 統合失調症の慢性期	発表・意見交換・評価																																																																															
	看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者																																																																																
	看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者																																																																																
	看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者																																																																																
	看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者																																																																																
	看護過程の展開	事例 3) 気分障害患者	発表・意見交換・評価																																																																															
第 13 回	看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス																																																																																	
第 14 回	看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス																																																																																	
第 15 回	まとめ / 試験																																																																																	
10 学 習 方 法 講義 / 演習 / グループワーク / クラス討論 / VTR																																																																																		
11 評 価 方 法 試験 / レポート																																																																																		
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 教員持参資料																																																																																		
13 学生への要望 人間関係という視点は、病気の成り立ちを理解する上でも、傷ついた心が癒されるためにも重要であることを学んで欲しい。																																																																																		

成人看護学実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
8 目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。 2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。 3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
9 実習目標及び実習内容 <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。 2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。 3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。 4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。 5. セルフケア再獲得における精神面、身体面、社会面の援助ができる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病の病態の特徴や慢性病をもちながら生活している人の特徴がわかる。 2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し生活習慣病など慢性経過をたどる対象が自己管理できるよう援助する。 3. 成人各期の対象の特徴を理解し長期経過における疾病のコントロールと生活習慣の関係、また社会資源の活用や対象をとりまく家族への援助ができる。 4. 糖尿病、高血圧、がん、肝疾患、肺気腫など慢性期の患者を受け持ち、看護過程の展開ができる。 5. セルフケア拡大への援助ができる。 						
10 実習方法 受け持ち患者の疾患・看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。						
11 評価方法 オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。						
12 教科書及び参考書 テキスト、資料、参考文献、DVD、詳細は実習概要参照						
13 学生への要望 成人看護学実習 I (セルフケア)の対象がもつ身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。						

成人看護学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。 2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。 3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。 2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。 3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。 4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。 5. 急激な健康状態の変化が起こっている患者に対し観察適切な対処、医療処置、心理的安定などの援助ができる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性経過をたどる患者を統合的に理解し、病態生理、治療の目的、症状、経過、検査など観察しアセスメントできる。 2. 術前、術中、術後患者の看護の体験ができ、術中の患者の変化がわかり、術直後の観察やアセスメント、また手術の経過や予後の不安などに対する支持的援助ができる。 3. 周手術期の患者、急性心筋梗塞など急性期の患者を受け持ち、看護過程の展開ができる。 4. 急性期にある対象と家族を理解し苦痛の緩和や、対象と家族に応じた援助ができる。 						
<p>10 実習方法</p> <p>受け持ち患者の疾患・看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。</p>						
<p>11 評価方法</p> <p>オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、DVD、詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>成人看護学実習Ⅱ(周手術期)の対象がもつ身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。</p>						

成人看護学実習Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。 2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。 3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。 2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。 3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。 4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回復過程を悪化、阻害する要因をアセスメントでき、合併症や二次感染をおこすことなく順調に回復できるよう援助できる。 2. 患者とその家族が欠損した形態や低下した機能の回復に向けてどのように受け止め、取り組もうとしているか知り、リハビリへの意欲を引き出せるよう援助できる。 3. 回復期、リハビリ期にある患者を受け持ち、看護過程の展開ができる。 4. 福祉との連携や社会資源の活用などを知り、援助できる。 						
<p>10 実習方法</p> <p>受け持ち患者の疾患・看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、DVD 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>成人期のリハビリテーション期にある対象の身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。</p>						

成人看護学実習Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。 2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。 3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。 2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。 3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。 4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICU・CCUの看護を理解し、参加できる。 2. 終末期における患者とその家族を理解し、さまざまな苦痛に対する援助ができる。 3. 患者とその家族が人生の最後をどのように過ごしたいかなど死生観を尊重した援助ができる。 4. QOLの視点から患者とその家族の希望を聞き、その人らしさを尊重した日常生活の援助ができる。 5. 死亡した患者および家族に対して適切な言動がとれ、死亡時のケアに参加できる。 						
<p>10 実習方法</p> <p>受け持ち患者の疾患・看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、DVD 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>成人期のクリティカルケア・終末期にある対象の身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。</p>						

老年看護学実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <p>介護・治療を必要とする在宅高齢者の老化による機能低下や適応力の低下を理解し、コミュニケーションがとれ、残存機能を生かした援助ができる。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。)</p>						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に及ぼす老化現象をアセスメントし、安全・安楽な援助ができる。 2. 認知症の特性を知り、症状に応じた援助ができる。 3. 対象の残存機能を生かした事故防止ができる。 4. 対象の生活を支える家族や地域の重要性について理解できる。 5. 高齢者を支える医療・福祉の支援体制と連携について理解できる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 週間の実習は、1 週間ごとに実習場所をローテーションで行う。 2. オリエンテーションを通じてそれぞれの病棟の特性と役割・機能を理解する。 3. レクリエーションは、対象を把握し、ねらいを明確にした上で、グループごとに実施する。 4. 看護処置・日常生活援助技術は、目的を明確にし、対象の特性を把握した上で実施する。 まとめの会までに経験録に当日分の経験項目のチェックをする。 5. 毎日 15 : 00 より、まとめの会で振り返りを行う。 						
<p>10 実習方法</p> <p>グループでチームワークよく、実習施設の特性を考慮しつつ看護援助を実施する。</p>						
<p>11 評価方法</p> <p>実習態度、実習記録、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考書、参考文献 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>高齢者の特性を理解し患者に必要な援助を考え実践してください。また実践した援助を評価し、次の実習に繋げて行ってほしいと思います。</p>						

老年看護学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <p>健康障害により治療を必要としている高齢者の、心理的特徴・身体的諸機能・セルフケア能力などを把握し、適切な援助ができる。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。)</p>						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢に伴う変化と健康障害との関連について理解できる。 2. 高齢者の健康障害と病状過程の特徴を捉えた看護過程を展開できる。 3. 高齢者とその家族関係を把握し、援助の必要性について理解できる。 4. 高齢者に関わる関係職種・機関について学び、チームアプローチの必要性と看護師の役割について理解できる。 5. 自己の課題を意識し、主体的・積極的に実習に参加できる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受け病棟の特性や構造について学ぶ。 2. 受け持ちについて看護学実習説明書を用いて患者(家族)に説明し、同意書を交わす。 3. 受け持ち患者について看護過程を展開し、看護計画を実施・評価する。 4. 臨地実習指導者とともに受け持ち患者の日常生活援助を行う。 5. 受け持ち患者で経験できない技術は臨地実習指導者とともに他の患者で実施する。 6. 15:00 よりまとめの会を行う1日の実習を振り返り、翌日の目標を明確にする。 7. テーマに関する資料を作成し1週目金曜日にテーマカンファレンスを行う。 8. 2週目水曜日に受け持ち患者の看護計画について中間カンファレンスを行う。 9. 実習最終日に、実施した看護計画の評価をもとに、最終カンファレンスを行う。 						
<p>10 実習方法</p> <p>受け持ち患者の疾患・看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>実習態度、実習記録、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考書、参考文献 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>実習目標の達成に向けて、自己の課題を意識し、主体的・積極的に実習に参加してください。</p>						

小児看護学実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	45 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健常な小児について発達段階に応じたコミュニケーションがとれる。 2. 日常生活援助と保育の実際が理解できる。 <p style="padding-left: 20px;">(看護業務に携わった経験を持つ教員が、実習方法について指導する。)</p>						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健常な小児の成長発達について対象を通して理解する。 2. 小児にとっての遊びの重要性がわかる。 3. 基本的日常生活の援助の実際を学ぶ。 4. 発達段階を考慮した事故防止について理解する。 5. 集団における感染予防について理解する。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に小児とコミュニケーションを取る。 2. 健康な小児の成長・発達の観察をし、発達の実際や個別性を知る。 3. 保育の実際について見学・経験し、日常生活援助や成長・発達を促す援助を理解する。 4. 発達段階に応じた事故防止への配慮や環境の工夫を理解する。 5. 集団における感染予防の実際を理解する。 6. 自己の行動が小児に及ぼす影響について考え、好ましい行動をとる。 						
<p>10 実習方法</p> <p>0 歳児から 5 歳児の年齢の異なる子どもへの日常生活における援助の実際を見学・経験し、健康な小児の発達や個別性をふまえた関わりを理解する。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等をふまえ、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、VTR</p> <p>詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児看護学で学習した理論や知識をふまえ、積極的に実習してください。 ・ 子どもの予測できない行動に注意を払い、事故防止に努めてください。 						

小児看護学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
8 目的 1. 健康障害のある子どもを理解し、発達段階と健康レベルに応じた看護の実際を学ぶ。 （看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）						
9 実習目標及び実習内容 目 標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患児の成長発達および健康問題をアセスメントできる。 2. 受け持ち患児の成長発達と健康レベルに応じた看護の展開ができる。 3. 子どもの成長発達と健康レベルに応じた日常生活援助が工夫できる。 4. 小児外来を受診する子どもの観察ができる。 5. 小児看護における事故防止や感染予防の必要性が分かり、必要な援助ができる。 内 容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの疾患や症状に応じて必要な援助を計画的に実施する。 2. 受け持ち患児に必要な看護技術を習得する。 3. 受け持ち患児の成長発達を観察・評価し、健やかな成長発達を促すため必要な援助を工夫し実施する。 4. 小児の特性を知り、家族とともに日常生活の援助を実施する中で看護の役割を果たす。 5. 受け持ち患児の成長発達にあわせた遊びや学習の援助を工夫し、基本的な生活習慣や QOL の向上を図る。 6. 小児外来における看護の役割や病棟、地域との連携を学ぶ。 7. 個人情報の保護に配慮して看護を実践する。 						
10 実習方法 受け持ち患児の成長発達や疾患・看護について理解を深め、必要なケアについて計画・実施・評価する。						
11 評 価 方 法 援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。						
12 教科書及び参考書 テキスト、資料、参考文献、ビデオ 詳細は実習概要参照						
13 学生への要望 成長発達についての視点を大切にして疾患を持つ子どもと関わってください。 子どもの事故防止と感染予防に配慮し、家族も含め患児へのケアについて学習してください。						

母性看護学実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の生涯を通じての性と生殖に関する理解を深め、妊娠、出産、産褥についての援助方法など母性看護の基礎を習得する。 2. 妊娠に伴う身体的、心理的、社会的変化を理解する。 3. 少子化の中で子供をより健康な状態で産み育てるための母性への援助、母子をめぐる生活環境など母性看護の役割拡大をふまえ、その支援体制や看護職の関わり方を習得する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母性及び新生児の生理的变化について理解できる。 2. 母子および家族も含めた身体的、精神的援助ができる。 3. 分娩における経過とそれに伴う援助ができる。 4. 妊娠期の異常について理解し、援助ができる。 5. 産褥の経過とそれに伴う援助ができる。 6. 母子保健医療チームの一員として他職種の役割、相互依存について理解できる。 7. 母子の生活や健康を包括的に理解できる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象が妊娠、出産、育児をどのように受け止めているか把握できる。 2. 妊娠高血圧症候群、流産、早産など妊娠中の異常や症状、経過を観察、アセスメントし援助できる。 3. 分娩の経過や異常について観察、アセスメントし援助できる。 4. 産褥の経過（感染、子宮復古、乳汁分泌）や異常について観察し、援助できる。 5. 母子の退院について母親の役割が果たせるよう指導援助できる。 6. 新生児の特徴を知り、バイタルサイン、黄疸、体重減少などを観察しアセスメントができる。 7. 新生児の感染や環境に配慮しながら、援助できる。 8. 妊産褥婦を受け持ち、援助できる。 						
<p>10 実習方法</p> <p>グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。</p>						
<p>11 評価方法</p> <p>援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、ビデオ 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>患者様との信頼関係を築く基礎を学んでください。</p>						

精神看護学実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患を持つ対象の特徴を理解し、看護を行なうための基礎知識、対人関係を基軸とした援助方法などを習得する。 2. 日常生活や対人関係を円滑に行えない対象を理解し家族援助も含めた看護過程の展開を実践し問題解決能力を養う。 3. 障害を持つ人が社会に参加しながら自分らしく生活するための支援体制や看護職の関わり方を習得する。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害を持つ対象の安全管理の特殊性、必要な環境調節の方法が理解できる。 2. 精神障害を持つ対象の日常生活を把握し、自立に向けて援助できる。 3. 治療（精神療法、作業療法、レクリエーション療法など）を受ける対象への援助ができる。 4. 精神に障害を持つ対象の生活や健康を包括的に理解し、問題解決のための看護過程が展開できる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 週目：情報収集および情報のアセスメントができる。 2 週目：看護上の問題が明確化でき、看護計画が立案できる。 3 週目：看護計画に基づいて実施でき、評価できる。 2. カンファレンスの実施 3. デイケア・作業療法の見学 						
<p>10 実習方法</p> <p>グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>患者様との信頼関係を築く基礎を学んでください。</p>						

在宅看護概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																												
統合分野	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	阿部美知子（看護師）																												
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解する。 2. 地域保健医療福祉の全体像、地域看護の概念枠組み、地域看護の行われる場について理解する。 3. 在宅療養者及びその家族を対象として、対象の理解を基に、在宅看護の基礎を学ぶ。 4. 生活者としての療養者と家族が理解でき、在宅で療養している人々の生活や特性がわかる。 5. 社会資源の活用及び関係職種との協働を理解できる。 (訪問看護の経験を持ち、在宅看護領域における資格を有する教員が、在宅看護について講義する。) 																																		
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第 1 回</td><td>在宅看護を学ぶにあたって</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>在宅看護の変遷と現状</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>在宅看護の目的・位置づけ</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>在宅看護の対象：療養者及び介護者・家族</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>在宅看護の特徴：生活の場における看護</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>在宅看護の特徴：自立を支援する看護</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>在宅看護の特徴：生活の中で起こる問題の予測と予防</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>訪問看護師に求められる基本姿勢</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>ケアマネジメントの概念</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>訪問看護を提供する場と制度</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>介護保険と在宅看護</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>地域包括システムにおける多職種連携</td></tr> <tr><td>第 13～14 回</td><td>在宅療養者の状態・状況にあわせた看護：医療機関・施設との入退院時の連携</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ / 試験</td></tr> </table>							第 1 回	在宅看護を学ぶにあたって	第 2 回	在宅看護の変遷と現状	第 3 回	在宅看護の目的・位置づけ	第 4 回	在宅看護の対象：療養者及び介護者・家族	第 5 回	在宅看護の特徴：生活の場における看護	第 6 回	在宅看護の特徴：自立を支援する看護	第 7 回	在宅看護の特徴：生活の中で起こる問題の予測と予防	第 8 回	訪問看護師に求められる基本姿勢	第 9 回	ケアマネジメントの概念	第 10 回	訪問看護を提供する場と制度	第 11 回	介護保険と在宅看護	第 12 回	地域包括システムにおける多職種連携	第 13～14 回	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護：医療機関・施設との入退院時の連携	第 15 回	まとめ / 試験
第 1 回	在宅看護を学ぶにあたって																																	
第 2 回	在宅看護の変遷と現状																																	
第 3 回	在宅看護の目的・位置づけ																																	
第 4 回	在宅看護の対象：療養者及び介護者・家族																																	
第 5 回	在宅看護の特徴：生活の場における看護																																	
第 6 回	在宅看護の特徴：自立を支援する看護																																	
第 7 回	在宅看護の特徴：生活の中で起こる問題の予測と予防																																	
第 8 回	訪問看護師に求められる基本姿勢																																	
第 9 回	ケアマネジメントの概念																																	
第 10 回	訪問看護を提供する場と制度																																	
第 11 回	介護保険と在宅看護																																	
第 12 回	地域包括システムにおける多職種連携																																	
第 13～14 回	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護：医療機関・施設との入退院時の連携																																	
第 15 回	まとめ / 試験																																	
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 自己学習 / グループワーク / ロールプレイ / クラス討論 / VTR</p>																																		
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>																																		
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p>																																		
<p>13 学生への要望</p> <p>在宅における生活援助を習得し、訪問における看護援助が実施できるようになって欲しい。</p>																																		

在宅看護方法論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	百合 葵 (看護師) 阿部美知子 (看護師)
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 在宅看護実践の展開について理解する。</p> <p>2. 在宅における療養状態別の看護及び介護者の看護が理解できる。 (訪問看護の経験をもつ教員が、在宅で療養における看護について講義する。)</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 在宅看護の展開 1) 在宅看護過程展開のポイント 2) 在宅看護の過程の展開方法</p> <p>第 2 回 脳血管障害 (脳卒中) の後遺症のある療養者の看護</p> <p>第 3 回 認知症療養者の看護</p> <p>第 4 回 難病療養者の看護</p> <p>第 5 回 ターミナルにある療養者の看護 在宅におけるエンドオブライフケア</p> <p>第 6 回 独居生活自立困難者の看護、感染症のある療養者の看護</p> <p>第 7 回 家族におけるリハビリテーション・緊急時のケア</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center;">第 1 回～8 回 百合 葵・阿部美知子 (100)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 自己学習 / グループワーク / ロールプレイ / クラス討論 / VTR</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>在宅における生活援助を習得し、訪問における看護援助が実施できるようになって欲しい。</p>						

在宅看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	百合 葵（看護師） 阿部美知子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 在宅看護の援助技術を学ぶ。援助技術の習得を目指しデモスト・グループ演習を通して実践能力を高める。</p> <p>2. 在宅での日常生活の援助を理解する。</p> <p>3. 在宅での医療処置技術の基本が理解でき、技術の習得ができる。 （訪問看護の経験をもつ教員が、在宅医療における看護処置について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 在宅で看護を展開するにあたって</p> <p>第 2 回 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション（講義）</p> <p>第 3 回 呼吸に関する在宅看護技術</p> <p>第 4 回 在宅療養者の日常生活援助：食生活、排泄（講義）</p> <p>第 5 回 在宅における日常生活援助の工夫：清潔・移動（校内実習）</p> <p>第 6 回 在宅医療と看護（講義）</p> <p>第 7 回 在宅における感染防止技術、褥創の予防とケア（講義）</p> <p>第 8 回 在宅における膀胱留置カテーテル法、ストーマケア（校内実習）</p> <p>第 9 回 在宅における服薬管理、在宅輸液療法、疼痛緩和療法（講義）</p> <p>第 10 回 在宅における中心静脈栄養法・経管栄養法・経腸栄養法（講義）</p> <p>第 11～12 回 処置に伴う援助技術：在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法（校内実習）</p> <p>第 13～14 回 処置に伴う援助技術：褥瘡及び気管切開管理、経管栄養法・胃瘻の管理（校内実習）</p> <p>第 15 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">第 1 回～15 回 百合 葵・阿部美知子 (100)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 自己学習 / グループワーク / ロールプレイ / クラス討論 / VTR</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>在宅における生活援助を習得し、訪問における看護援助が実施できるようになって欲しい。</p>						

在宅看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																																													
統合分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	阿部美知子(看護師) 百合 葵(看護師)																																													
8 授業概要および到達目標 1. 在宅看護の事例・演習を通して、看護過程の展開を学ぶ。 2. 情報収集・看護診断・計画立案・実施・評価ができる。 3. 在宅療養者の病期に応じた看護を理解する。 4. 在宅療養者やその家族に対し健康維持、QOLの維持・向上を目指した看護を理解する。 (病院の看護業務の経験を持ち在宅看護領域における資格を有する教員が、在宅での看護過程の展開について講義する。)																																																			
9 授 業 計 画 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 50%;">在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>在宅での看護過程の特徴 (移行期/安定期/変化期/終末期の理解)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>在宅看護に使われる看護技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>看護過程の展開 事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…導入・グループ討議</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>まとめ</td> <td>事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…グループ討議・</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>換・総評</td> <td>事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…発表・意見交</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td></td> <td>事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…グループ討議</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td></td> <td>事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…グループ討議・</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>まとめ</td> <td>事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…発表・意見交換・</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>総評</td> <td>事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td></td> <td>事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議・まと</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>め</td> <td>事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…発表・意見交換・総</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>評</td> <td>事例 4) 認知症がある在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td></td> <td>事例 4) 認知症がある在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">第 1 回～15 回 百合 葵・阿部美知子 (100)</p>							第 1 回	在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術		第 2 回	在宅での看護過程の特徴 (移行期/安定期/変化期/終末期の理解)		第 3 回	在宅看護に使われる看護技術		第 4 回	看護過程の展開 事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…導入・グループ討議		第 5 回	まとめ	事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…グループ討議・	第 6 回	換・総評	事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…発表・意見交	第 7 回		事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…グループ討議	第 8 回		事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…グループ討議・	第 9 回	まとめ	事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…発表・意見交換・	第 10 回	総評	事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議	第 11 回		事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議・まと	第 12 回	め	事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…発表・意見交換・総	第 13 回	評	事例 4) 認知症がある在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ	第 14 回		事例 4) 認知症がある在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評	第 15 回	在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術	
第 1 回	在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術																																																		
第 2 回	在宅での看護過程の特徴 (移行期/安定期/変化期/終末期の理解)																																																		
第 3 回	在宅看護に使われる看護技術																																																		
第 4 回	看護過程の展開 事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…導入・グループ討議																																																		
第 5 回	まとめ	事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…グループ討議・																																																	
第 6 回	換・総評	事例 1) がんで自宅での生活を送ろうとしている療養者への援助…発表・意見交																																																	
第 7 回		事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…グループ討議																																																	
第 8 回		事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…グループ討議・																																																	
第 9 回	まとめ	事例 2) 在宅で人工呼吸器を装着している ALS の療養者の場合…発表・意見交換・																																																	
第 10 回	総評	事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議																																																	
第 11 回		事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議・まと																																																	
第 12 回	め	事例 3) 脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…発表・意見交換・総																																																	
第 13 回	評	事例 4) 認知症がある在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ																																																	
第 14 回		事例 4) 認知症がある在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評																																																	
第 15 回	在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術																																																		
10 学 習 方 法 講義 / 自己学習 / グループワーク / ロールプレイ / クラス討論 / VTR																																																			
11 評 価 方 法 試験 / レポート																																																			
12 教科書及び参考書 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院																																																			
13 学生への要望 在宅における生活援助を習得し、訪問における看護援助が実施できるようになって欲しい。																																																			

高度先駆的看護

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	水重克文 前田寿和 長楽鉄乃祐 宮下郁子 六車輝美
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会の中で看護実践する専門職業人である自覚を持ち、広い視野で 21 世紀の看護を創造する能力を習得する。 2. 高度先駆的医療の動向について理解する。 3. 神経・筋疾患やがん患者や循環器医療を受ける対象の特徴と援助方法について理解できる。 4. 周産期医療の現場で行なわれる高度先駆的医療を必要とする患者や家族を援助するために必要な知識を習得する。 5. 最新の精神障害者看護を理解し、対象のニーズにあった看護実践ができる。 6. 看護のキャリアアップを目指し、認定看護師や専門看護師の役割と実践能力を理解し卒業後の指針とする。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 現代における高度先駆的医療と特徴的な看護について調査する①</p> <p style="text-align: center;">～</p> <p>第 2 回 現代における高度先駆的医療と特徴的な看護について調査する②</p> <p>第 3 回 呼吸循環ケア (最新の循環器医療に伴う検査・治療と看護)</p> <p>第 4 回 呼吸循環ケア (最新の循環器医療に伴う検査・治療と看護)</p> <p>第 5 回 精神看護 (精神医療の動向 / 心理教育における看護の役割)</p> <p>第 6 回 周産期ケア (3D / 4D 胎児超音波画像診断 / 周産期医療に必要な緊急処置とケアポイント) 育成医療の方向性と最新の小児医療のあり方</p> <p>第 7 回 診療看護師の役割と看護実践活動</p> <p>第 8 回 試験</p> <p style="text-align: center;">第 1・2・8 回六車輝美 (60)・第 3～4 回水重克文 (10)・第 5 回長楽鉄乃祐 (10) ・第 6 回前田寿和 (10)・7 回宮下郁子 (10)</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>適宜資料配布、新刊雑誌を随時紹介</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>各自、新刊雑誌には常に目を通しておくこと。</p>						

医療安全管理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	小槌聡子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護事故の構造と事故防止の考え方を学ぶ。 2. 診療の補助業務に伴う事故防止の視点から、現場に即した医療安全の行動が培われる。 3. 療養上の世話に伴う事故防止の視点から、現場に即した医療安全の行動が培われる。 4. 業務領域を超えて共通する業務上の危険を明らかにし、事故防止の視点からの知識・技術を習得する。 （病院の看護管理業務に携わった経験を持つ教員が、医療安全について講義する。） 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 医療安全を学ぶことの大切さ</p> <p>第 2 回 事故防止の考え方</p> <p>第 3～4 回 診療の補助業務に伴う事故防止</p> <p>第 5 回 療養上の世話における事故防止</p> <p>第 6 回 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因</p> <p>第 7 回 組織としての医療安全対策 わが国の医療安全対策の展望</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 統合 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>医療事故は、実務者にとって常に背中合わせにある重大な問題です。専門職を目指す皆さんには特に注意を向けて考えて欲しい。</p>						

国 際 看 護 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	鎌野倫加 高山蓮花（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 国際看護の概念を理解する。</p> <p>2. 戦争・紛争と難民・避難民の政治的・社会文化的背景をふまえて、国際貢献のあり方を考える。</p> <p>3. 世界のヘルスニーズの現状を把握し、保健・医療システムを理解する。</p> <p>4. 国内外における国際保健医療活動の役割と課題・展望を述べられる。 （病院勤務経験を持つ教員が、医療における看護の国際化について講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 看護における国際化の視点</p> <p>第 2 回 国際社会における看護の対象</p> <p>第 3 回 国際協力活動と看護－①</p> <p>第 4 回 国際協力活動と看護－②</p> <p>第 5 回 国際協力活動と看護－③</p> <p>第 6 回 国際協力活動と看護－④</p> <p>第 7 回 多様な文化と看護</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">第 3～6 回 鎌野倫加・第 1、2、7、8 回 高山蓮花（100）</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク / 視聴覚教材</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>提出物 / 筆記試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 統合 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>地球人として、国境を越えて活躍する保健・医療従事者の存在意義について考えてみてください。</p>						

看護管理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	小泉敬子（看護師）																
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップを養い、看護管理能力の習得のために幅広く、これからの看護管理のあり方について考える。 2. 看護管理の概念が理解できる。 3. マネジメントプロセスとマネジメントサイクルの概要について述べられる。 4. 看護のマネジメントが必要とされる場について理解できる。 5. 看護におけるマネジメントの変遷と課題分析を述べられる。 6. 21 世紀に必要なとされる医療システム、看護マネジメントが述べられる。 (病院の看護管理業務に携わった経験を持つ教員が、看護管理について講義する。) 																						
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td>看護とマネジメント 看護管理とは / マネジメントとは / 看護におけるマネジメント</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>看護におけるマネジメントの前提 看護の定義 / 看護職 / 看護実践の領域と場 / 医療制度</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>ケアのマネジメント ケアのマネジメントと看護職の機能 / 看護基準と看護手順 / 患者の権利の尊重 / 安全管理</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>看護職の協働 / 他職種との協働 / 情報</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>看護サービスのマネジメント</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>看護サービスのマネジメント / 組織目的のマネジメント / 協働のためのマネジメント / 情報のマネジメント / 技術のマネジメント / 評価</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>マネジメントに必要な知識と技術 組織とマネジメント / 組織のなかの人間関係 / 組織の調整 / 組織と個人</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>これからの看護管理の課題分析 まとめ / 試験</td> </tr> </table>							第 1 回	看護とマネジメント 看護管理とは / マネジメントとは / 看護におけるマネジメント	第 2 回	看護におけるマネジメントの前提 看護の定義 / 看護職 / 看護実践の領域と場 / 医療制度	第 3 回	ケアのマネジメント ケアのマネジメントと看護職の機能 / 看護基準と看護手順 / 患者の権利の尊重 / 安全管理	第 4 回	看護職の協働 / 他職種との協働 / 情報	第 5 回	看護サービスのマネジメント	第 6 回	看護サービスのマネジメント / 組織目的のマネジメント / 協働のためのマネジメント / 情報のマネジメント / 技術のマネジメント / 評価	第 7 回	マネジメントに必要な知識と技術 組織とマネジメント / 組織のなかの人間関係 / 組織の調整 / 組織と個人	第 8 回	これからの看護管理の課題分析 まとめ / 試験
第 1 回	看護とマネジメント 看護管理とは / マネジメントとは / 看護におけるマネジメント																					
第 2 回	看護におけるマネジメントの前提 看護の定義 / 看護職 / 看護実践の領域と場 / 医療制度																					
第 3 回	ケアのマネジメント ケアのマネジメントと看護職の機能 / 看護基準と看護手順 / 患者の権利の尊重 / 安全管理																					
第 4 回	看護職の協働 / 他職種との協働 / 情報																					
第 5 回	看護サービスのマネジメント																					
第 6 回	看護サービスのマネジメント / 組織目的のマネジメント / 協働のためのマネジメント / 情報のマネジメント / 技術のマネジメント / 評価																					
第 7 回	マネジメントに必要な知識と技術 組織とマネジメント / 組織のなかの人間関係 / 組織の調整 / 組織と個人																					
第 8 回	これからの看護管理の課題分析 まとめ / 試験																					
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク / ロールプレイング</p>																						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験</p>																						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院</p>																						
<p>13 学生への要望</p> <p>チームでケアを展開する専門職として重要な管理の能力を身につけてください。</p>																						

災 害 看 護 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	高山蓮花（看護師） 射場光一
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 災害の種類と各期の特徴、法制度について理解できる。 3. 災害時の支援体制と医療体制が理解できる。 4. 災害各期における看護の対象と役割が理解できる。 <p style="padding-left: 20px;">（病院の看護業務の経験と災害看護活動の経験を持つ教員が講義する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 視聴覚教材で学ぶ災害看護</p> <p>第 2 回 災害と災害医療の基礎知識</p> <p>第 3 回 災害看護の基礎知識 / 災害と心のケア</p> <p>第 4 回 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護</p> <p>第 5 回 被災者特性に応じた災害看護の展開</p> <p>第 6 回 災害訓練の実際－①</p> <p>第 7 回 災害訓練の実際－②</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～5、8 回 高山蓮花（70）・第 6～7 回 射場光一（30）</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 視聴覚教材 / グループワーク / ロールプレイング</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>提出物 / 筆記試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 統合 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>自然現象や人為的な原因によって、人命や社会生活に被害が生じる事態を災害と言います。24 時間ケアにあたる看護師は災害時の病棟管理能力も求められます。看護のスペシャリストを目指してともに学びましょう。</p>						

救 急 看 護

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員																
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	吉川圭																
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場での救急処置・救護が確実に出来る看護師を養成する。 2. 救急領域の実態と問題点、関連知識を身につける。 3. 急性期に関する医学・医療の深さと広さ、救急看護の多様性が述べられる。 4. 救急医療の中の救急看護の役割を理解し、広い視点で将来の救急看護を考える。 																						
<p>9 授 業 計 画</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td>救急看護の概念 / 救急看護の対象の理解 救急看護とは / BLS (一次救命処置)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>ACLS (二次救命処置)、急変を起こす病態の理解</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>外傷患者の救急処置</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>救急時に使用される医薬品</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>一次救命処置 実習 (成人の救命処置 AED の使用法)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>一次救命処置 実習 (小児の救命処置)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>一次救命処置 実習 (チーム蘇生、窒息患者の救命処置)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>まとめ / 試験</td> </tr> </table>							第 1 回	救急看護の概念 / 救急看護の対象の理解 救急看護とは / BLS (一次救命処置)	第 2 回	ACLS (二次救命処置)、急変を起こす病態の理解	第 3 回	外傷患者の救急処置	第 4 回	救急時に使用される医薬品	第 5 回	一次救命処置 実習 (成人の救命処置 AED の使用法)	第 6 回	一次救命処置 実習 (小児の救命処置)	第 7 回	一次救命処置 実習 (チーム蘇生、窒息患者の救命処置)	第 8 回	まとめ / 試験
第 1 回	救急看護の概念 / 救急看護の対象の理解 救急看護とは / BLS (一次救命処置)																					
第 2 回	ACLS (二次救命処置)、急変を起こす病態の理解																					
第 3 回	外傷患者の救急処置																					
第 4 回	救急時に使用される医薬品																					
第 5 回	一次救命処置 実習 (成人の救命処置 AED の使用法)																					
第 6 回	一次救命処置 実習 (小児の救命処置)																					
第 7 回	一次救命処置 実習 (チーム蘇生、窒息患者の救命処置)																					
第 8 回	まとめ / 試験																					
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 校内実習</p>																						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>																						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル—AHA ガイドライン G2015 準拠 日本語版</p>																						
<p>13 学生への要望</p> <p>より実りのある講義にしていくため、予習・復習して授業に参加して欲しい。</p>																						

看護情報システム論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	岡田宏基 高畑美佳（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を理解する。 2. どのようにデータを情報として活用するか理解する。 3. 電子カルテ導入が進む医療機関の中で看護分野での情報科学技術の活用について理解する。 （病院の看護業務の経験を持つ教員が、医療機関における電子化と情報について講義する。） 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 看護情報システム化に必要な法的・倫理的視点</p> <p>第 2 回 患者情報の管理</p> <p>第 3 回 医療における情報の記録 （ グループワーク ）</p> <p>第 4 回 個人情報の保護 （ ロールプレイ、グループワーク ）</p> <p>第 5 回 個人情報の保護 / 情報保護の取扱い （ グループワーク ）</p> <p>第 6 回 医療における情報システム （ グループワーク ）</p> <p>第 7 回 情報活用の未来</p> <p>第 8 回 まとめ / 試験</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">第 1～2 回 岡田宏基・第 3～8 回 高畑美佳（100）</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / グループワーク / ロールプレイ</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート / 試験</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院, 講師持参資料</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>看護の分野で情報科学をどのように活用しているか、その上で守らなければならない倫理や法的根拠知り、今後の活用について考えて欲しい。データと情報の違いを理解してどのようなデータを情報として看護に活用できるかの理解を欲しい。</p>						

看護ゼミナール

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	高山蓮花（看護師） 小室直子（看護師）
<p>8 授業概要および到達目標</p> <p>1. 学生が向上意欲を持ち、主体的に学習する態度を習得する。</p> <p>2. 自由にテーマを選択し情報収集、意見交換をしながら発表できるなど、看護を探求する態度を習得する。 （病院の看護業務の経験を持つ教員が、看護を探求する方法について演習する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 ガイダンス グループ学習 テーマ決定（各グループ毎） テーマ例：看護師の職業倫理観、臓器移植と看護師の役割、家族看護のあり方、情報の伝達と管理、癒しと看護、在宅看護における看護師の役割など</p> <p>第 2 回 グループワーク（文献検索 / 調査 / 情報収集）</p> <p>第 3 回 グループワーク（文献検索 / 調査 / 情報収集）</p> <p>第 4 回 グループワーク（グループ内の意見交換 / まとめ）</p> <p>第 5 回 講演受講（学会等）</p> <p>第 6 回 講演受講（学会等）</p> <p>第 7 回 講演受講（学会等）</p> <p>第 8 回 まとめ / 発表 / 意見交換 / 評価</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>グループワーク / 発表 / 意見交換 / 講演受講</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>レポート（発表内容などにより総合的に判断）</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>各分野の専門書、学術雑誌</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>視野の広い専門職としての態度を習得できるようグループワークに熱心に取り組んで欲しい。</p>						

看護政策論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	渡邊照代
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護に関する法や制度について概観できる。 2. 看護政策の現状と課題、および看護職の役割を理解できる。 3. 臨床で直面する問題を医療政策・看護政策の観点から捉え、整理することができる。 						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 保健医療福祉制度とヘルスケアシステム</p> <p>第 2 回 看護制度とは</p> <p>第 3 回 医療政策と看護政策の現状と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法の改正 2. 看護職員確保の政策 3. 医療機能分化政策 4. 看護体制と料金体系の改革 5. 看護教育に関する政策 <p>第 5 回 6. 保健師助産師看護師法</p> <p>第 6 回 7. 保健医療分野の情報化推進に関する政策</p> <p>第 7 回 看護政策決定過程と専門職団体の動き</p> <p>第 8 回 試験</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>講義 / 演習 / グループワーク</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>試験 / レポート</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 日本看護協会出版</p> <p>看護六法 新日本法規</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>看護を取り巻く制度と政策について理解し、幅広く看護が見渡せるようになってください。</p>						

クリティカルシンキング I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	3 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	西村登志子（看護師）
8 授業概要および到達目標 1. ケーススタディの意義・目的・特徴とプロセスについて理解できる 2. クリティカルシンキングの意義と看護実践で求められる要素について理解できる 3. クリティカルシンキングを用いて看護実践を振り返り、論述する具体的方法を理解できる 4. 抄読を通じて論理的思考力を養うことができる （病院の看護業務の経験を持つ教員が、看護実践を伝える論述について講義する。）						
9 授 業 計 画 第 1 回 ガイダンス 1) 学習目的、目標、方法、評価について 2) ケーススタディとは？（意義・目的・限界と考慮点） 3) クリティカルシンキングとは？（意味と要素/EBN における活用） 4) なぜ臨床やケーススタディでクリティカルシンキングが求められるのか 第 2 回 ケーススタディのプロセスと具体的方法 （テーマ・目的の設定/計画書の作り方/ケーススタディの構造） 第 3 回 ケーススタディのプロセスと具体的論述方法 （はじめに/事例紹介/看護の実際/考察/結論/おわりに） 第 4 回 必要な知識と技術 （倫理的配慮/論述の基本的姿勢/文献検索とその方法/看護理論/引用参考・文献の記載のルール） 第 5 回 ケーススタディ集録の抄読と要約の仕方 第 6 回 ケーススタディ集録の抄読と抄録のまとめ方 第 7 回 計画書の書き方 第 8 回 計画書の書き方／試験						
10 学 習 方 法 講義 / 抄読 / レポート作成ほか						
11 評 価 方 法 筆記試験 / レポートなど						
12 教科書及び参考書 ・新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社） ・配布資料ほか						
13 学生への要望 前半の講義でケーススタディの具体的方法、クリティカルシンキングの意義を理解すること、それを踏まえて抄読を重ねることを経て、後半は3年次での臨地実習の事例を用いた演習を行います。まずはよく似た事例のケーススタディや自分の興味・関心のあるテーマについて研究論文を読む機会を多く持つことで充実した学習ができるよう期待します。						

クリティカルシンキングⅡ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	高山蓮花（看護師） 他看護学科教員
8 授業概要および到達目標 1. 看護学実習を通して、疑問、問題に感じた場面・状況・事柄を意識的に振り返り、既習の専門的知識を用いて事実関係を検討したり、再アセスメントしたり、よりよい解決の方法を導き出すことを通して、学生個々が根拠に基づいた思考・判断力を身につける。 2. 患者と家族、看護の目的、方法、保健医療チームにおける役割、看護のあり方などについて理解を深める。 3. 本科目は4年次の各領域別実習の統合として、位置づけられている。 （病院の看護業務の経験を持つ教員が、看護実践を基に思考・判断力する技術について講義する。）						
9 授 業 計 画 第1回 各領域毎クリティカルシンキングの目的・クリティカルシンキング能力・クリティカルシンキング技術の開発 （4年次臨地実習終了後に各領域別実習の中から3年次に選択した領域を除いて学生個人が選択する。） 第2回 自己の実践例を使つてのケーススタディを作成する （テーマと事例の決定） 第3回 クリティカルシンキング実践 第4回 クリティカルシンキング実践 第5回 クリティカルシンキング実践 第6回 クリティカルシンキング実践 第7回 クリティカルシンキング実践 第8回 発表・他者評価						
10 学 習 方 法 講義 / 自己学習 / ケーススタディ（抄録、集録、パワーポイント）作成						
11 評 価 方 法 発表（評価表に基づく評価）						
12 教科書及び参考書 新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社） クリティカルシンキング入門編・実践編（北大路書房） 事例で学ぶクリティカルシンキング（医学書院） クリティカルシンキングアプローチ（廣川書房） クリティカルシンキング（東洋経済新報）						
13 学生への要望 自分と他者の意見の相違とその要因を述べると共に、他グループから提起された問題と改善策についてクリティカルに思考し、意見を述べ、自分の思考の傾向・パターンに気づき、クリティカルに思考してほしい。						

総合演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	2 単位	60 時間	必修	小室直子・高山蓮花・小泉敬子・高畑美佳・阿部美知子・湯浅幸子（看護師） 他看護学科教員
<p>8 授業概要および到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業前に統合実技実習として位置づける。 2. 看護師としての就業を前に、統合技術としての臨床看護実践能力を習得する。 3. 事例について模擬患者を設定し、看護情報・計画・立案から実施に至る過程をグループ学習し、看護技術を統合して援助ができる。 4. 看護におけるチームアプローチの方法や総合的な看護実践能力の育成を図り、実践上の問題の探求及び解決能力を習得する。 <p>（病院の看護業務の経験を持つ教員が、総合的な看護実践能力の育成について演習する。）</p>						
<p>9 授 業 計 画</p> <p>第 1 回 プロジェクト学習と看護、臨床判断とは</p> <p>第 2～5 回 事例の解釈 CBLA の導入（講義・演習） 4 事例について調べる</p> <p>第 6～9 回 事例の解釈 CBLA （演習グループ別） 4 事例について調べる</p> <p>第 10～17 回 4 事例に沿って以下の CBLA（演習グループ別） 呼吸管理・動脈血採血・酸素飽和度 心電図モニタ・不整脈・心不全 痛み・嘔吐・症状コントロール 輸液管理・水・電解質</p> <p>第 18 回 輸液/シリンジポンプ（実技演習）</p> <p>第 19～23 回 事例研究 吐血（演習グループ別）</p> <p>第 24～25 回 発表、リフレクション</p> <p>第 26～28 回 事例研究 転倒（演習グループ別）</p> <p>第 29 回 実技試験・リフレクション</p> <p>第 30 回 プロジェクト学習の発表準備</p> <p>第 31 回 プロジェクト学習の発表</p>						
<p>10 学 習 方 法</p> <p>実技演習 / グループ・個人レポート</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>OSCE / 筆記試験 / ポートフォリオ提出 / 発表・演習態度</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、ビデオなどを使用する。</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>卒業に向けて、「21 世紀を担うプロフェッショナルとしての臨床実践能力を習得されていること」と信じています。</p>						

在宅看護論実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を習得する。 2. 実習の対象である、成人、老年、小児、妊産褥婦、精神障害者などを通して生活を支援する活動と在宅看護活動における看護職の役割を習得する。 3. 地域で暮らす人々のヘルスニーズを把握し、家族援助も含めた看護過程の展開を実践し問題解決能力を養う。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の生活背景が理解でき、健康問題を引き起こした原因を考え現在の状況が理解できる。 2. 障害のレベルを低下させる因子を考え予防する方法を実践できる。 3. 地域保健活動の実践機関としての機能と業務、地域保健活動の実際を理解する。 4. 地域におけるヘルスニーズや家族を単位とした保健指導の実際を通して問題解決のためのアセスメント、計画、実施、評価ができる。 5. 健康レベルと種類にあわせた社会資源の活用方法や保健医療福祉機関の連携と看護の継続性が理解できる。 6. 個々の家庭にあった援助方法を考えることができ、家族への支援ができる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護を通して看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 週目：情報収集および情報のアセスメントし、看護上の問題が明確化できる。 2 週目：看護計画を立案し、計画に基づいて実施・評価できる。 2. 保健センターにおいて地域のヘルスニーズと保健指導について学ぶ：3 週目 3. 保健センターにおけるテーマカンファレンスの実施：3 週目 						
<p>10 実習方法</p> <p>グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>地域で生活する人々がその人らしく暮らすために、健康を保持増進するために、どのように看護職は働き他職種と協働しているか考えてください。</p>						

統合実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員
<p>8 目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技術を統合し、実務に即した看護実践能力の向上をめざす。 2. 科学的思考を身に付け、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 (看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。) 						
<p>9 実習目標及び実習内容</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象や他職種とのコミュニケーションが適切にとれ、お互いに人間として成長し合えるような関係を作り出すことができる。 2. チーム医療や他職種との協働の中で、メンバーシップ・リーダーシップを身につけることができる。 3. 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につけることができる。 4. 夜間実習の体験を通し、その業務や対象者の理解を深めることができる。 5. 複数の患者を受け持ち、優先度を考慮し、時間配分、適切なアセスメント、状況判断、対応ができる。 6. 看護管理・病棟管理の実際について理解できる。 7. 医療安全の知識を踏まえ安全安楽に実施でき、緊急・急変の発生時に適切な判断・対応について理解できる。 <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メンバーナースとして複数（2名）の患者を受け持ち、看護の優先度を考えながら看護をマネジメントする。 2. リーダーナースと行動を共にし、リーダーシップを考え、他職種との協働を学ぶ。 3. 看護師長または看護部長と行動を共にし、病棟病院の管理について学ぶ。 4. 夜間実習を体験し、夜間の患者・病棟・病院および看護の状況を理解する。 5. カンファレンスを実施する。 						
<p>10 実習方法</p> <p>グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。</p>						
<p>11 評 価 方 法</p> <p>援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。</p>						
<p>12 教科書及び参考書</p> <p>テキスト、資料、参考文献、ビデオ 詳細は実習概要参照</p>						
<p>13 学生への要望</p> <p>組織で働く看護師としてどうあるべきか考え、看護師として働くイメージをもってください。</p>						

四国医療専門学校 看護学科

〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1

電話 0877-41-2350

ファックス 0877-41-2352